経済学部

2018 年度
第2回入ゼミ説明会

Keio University

CALAMVS GLADIO FORTIOR

1858

2017 年 10 月 7 日（土）

慶應義塾大学
経済学部ゼミナール委員会

Keio University

CALAMVS GLADIO FORTIOR

1858

2018 年度
経済学部 第2回入ゼミ説明会

— 目次 —

p.2	慶應義塾大学経済学部 学習指導主任 挨拶
p.3	経済学部ゼミナール委員会 委員長 挨拶
p.4-5	研究会（ゼミナール）とは
p.6	ゼミ選びにおける三田祭の活用方法
p.7-8	経済学部ゼミナール委員会とは
p.9-11	全塾ゼミナール委員会とは・他学部入ゼミについて
p.12-13	分野別研究会総覧・目次
p.14-173	各研究会紹介
p.174-175	個別ブース配置マップ

第2回ゼミ説明会に寄せて

経済学部学習指導主任　駒形哲哉

研究会は，皆さんにかけがえのない機会を与えてくれます。

第 1 に，自分自身で能動的に学ぶ機会を得られます。大学ではさまざまな分野における高度な知識を身につけなければなりません。それ自体が非常に大変であることは，皆さんもすでに強く実感していることと思います。しかしせっかく大学に進んだからには，そうして得た知識も生かしながら，自分自身で問題を見出して課題を設定し，文献・資料を見つけ，あるいは自ら調査を行ない，自分自身の結論を出す，そうした経験をぜひ積んでください。研究会での三田祭論文や卒業論文の作成は，その絶好の機会となります。研究会は，皆さんの取り組み次第で，オリジナルな知的経験を作り出す，貴重な場となりうるのです。

第 2 に，能動的に研究をするプロセスで試行錯誤を繰り返せる機会です。自分でテーマを選び問題を設定するまでには，たいてい，想定外の高いハードルがいくつもあります。通常科目のレポート課題や試験問題には基本的に模範解答の存在が想定されていますが，皆さんが社会に出てから直面する問題には解答がないかもしれませんし，問題があることは直感的に感じられてもそれがどのような問題であるかを認識すること自体がとても難しい，ということがよくあります。そうした事態に対処できるようになるためには試行錯誤を繰り返し，経験を積み重ねる以外に方法がありません。研究会では，卒業論文や三田祭論文を完成させるまでに，自分次第で何度でも担当教員に提出し，その指導を受けては改善し，最終的にこれで OK というお墨付きをもらうプロセスを実体験することになります。それは，自身による能動的な取り組みを基本としつつも，教員とのキャッチボールで学問的な成果を達成していくプロセスです。それは換言すれば，授業で提供されたヒントにもとづいてそつなく解答を仕上げるクレバーさを発揮することとはまた別の，むしろ失敗を恐れずやってみる勇気をもち，失敗を重ねて成功への糧とすることのできる自分を発見するプロセスとなることでしょう。

第 3 に，研究会では，能動的な知的経験を同期のゼミ生を中心とした学生同士で共有する機会も得られます。三田祭論文は，その好例といえるでしょう。試験の準備をクラスの友人等と行なうこともあるでしょうが，この場合は，担当教員によって定められた問題とその正解を皆で見つけることが実質的に唯一の目的となります。これとは異なり，研究会での共同作業は自分たちで問題を定め，自分たちの答え・結論を求める作業です。そこでは，互いの意見がぶつかりあうことも少なからず起こります。それを乗り越えながら準備することはたしかに大変です。全員一致の結論を得られない場合があるかもしれません。しかし，困難のなかでも結論を導こうと試行錯誤するプロセスそれ自体が，将来にも有益な，貴重な経験となり，そうした経験を共有した仲間は大切な存在となるはずです。

こうしたかけがえのない機会を，皆さんが十二分に生かし，三田での勉学をより実り豊かなものとすることを，心より願っています。

経済学部ゼミナール委員会委員長より

経済学部ゼミナール委員長
河端瑞貴研究会
経済学部3年　木下　公貴

空が深く澄みわたる季節。ジメジメとした夏が終わり、過ごしやすい気候になってきました。まず、第二回の入ゼミ説明会を無事に開催することができたことに、この場を借りて御礼申し上げたいと思います。

さて、第一回説明会で私は、入るゼミを決めつけることなく、色々なゼミを見て回ってくださいと申し上げました。今回も同じ話をしようと思います。

前回、私の話を聴いてくださった方の中には、自分が思いもしなかった分野のゼミに興味を持つこともあったのではないでしょうか。自分の後輩からそういう感想をもらえたこともあり、役に立てているのだなと素直に嬉しかったりします。さて、ゼミを選ぶ際に、皆さんが1番に考えるであろうことは、何でしょうか。おそらく、「自分が学問のどの分野に興味があるか」ということなのではないかと考えます。具体的には、入学以前から興味があった分野、大学の授業で興味を抱いた分野、課外活動を通して興味を持った分野の中から入りたいゼミを決めるのではないでしょうか。多くの人は、上にあげた3つから自分の興味を決めつけてしまうと思います。もちろん、自分の「学びたいこと」がはっきりしているということは、悪いことではなく、そういった人は、強く素晴らしいと思います。しかし、不思議なもので、自分のことを正確に知るということは、大変難しいことです。たとえば、好きだと思っていることを突き詰めていくと、本当に好きなのか分からなくなってしまったりすることがよくあります。だからこそ、見逃して欲しくないのは、入ゼミ活動をする上で見つけた興味分野です。それを無視することで、わざわざ自分の可能性を狭めるのはもったいなく思います。自分が何に興味があるのか考えるのは、難しく悩むものではありますが、せっかく整った環境があるので、真剣に考えてみるのも悪くないかもしれません。もちろん、ゼミは勉強だけをするのではなく、生涯付き合うような仲間と出会う場でもありますので、ゼミの教授や先輩の人間性、全体の雰囲気といったところを大切な基準としている人もいるでしょう。人によってはソフトボールの強さやゼミの時間割りも関係してくるかもしれません。いずれにせよ、噂を鵜呑みにするのではなく、自分の足で正確な情報を集めるようにしてください。

長くなりましたが、以上のことを踏まえて、前回同様に、色々なゼミを見て回ってくださいとアドバイスさせていただきます。最後までお読みいただき、どうもありがとうございました。また、何時でもご相談承りますので、経済学部ゼミナール委員会にお気軽にお声かけください。

研究会（ゼミナール）とは

これから 2 年生の皆さんが志望を検討する「研究会」（ゼミナール）は、担当の教授の下で 2 年間に渡り専門的な研究、学習を行う三田ならではの専門教育課程です。慶應義塾大学経済学部のカリキュラムの中では研究プロジェクトやPCP、少人数セミナーと並び、少人数制の特色ある教育として挙げられています。また三田での生活は日吉での生活とは多少趣が変わり、ゼミナール活動が学習と生活の中心となるという学生が多くなるのも特徴です。この冊子をよく読み、ゼミ選びの参考としてください。以下は研究会（ゼミナール）の特徴となります。

1. **少人数制であり、選考試験がある**

   各研究会には定員数が設けられており、授業は少人数制です。学生同士、そして学生と教授の距離が近いことが特徴だと言えます。研究会は必修科目ではなく、また少人数制で履修生に限りがあるため、入会に際し選考試験があります。入ゼミ説明化の個別ブースなどで情報を収集し、準備はしっかりと行うように心がけてください。

2. **分野に特化しており、2年間に渡り履修をする**

   各研究会にはそれぞれ専攻分野があり、自分の興味や関心のある内容をより深く学ぶことが可能です。基本的に2年連続で同じ研究会に所属・履修し、第3学年末に4単位、第4学年末に8単位を取得することになります。研究会必修科目ではなく、三田で履修することができる「専門教育科目」の中の「特殊科目」にあたる専門科目となります。

3. **4・5限にある研究会が多く、その時間の他講義が少ない**

   研究会の特徴からは少し離れますが、三田での生活についてです。三田の時間割を見たことがある方はさほど多くはないかと思います。三田で履修する科目のほとんどが日吉で学んだ経済学をさらに発展させた内容となる「専門教育科目」となります。その専門教育科目の講義型科目を担当している教員の方々が研究会を受け持っています。その研究会が4・5限に集中しているため、三田の通常講義の時間は1限から3限に非常に集中しています。ゼミによっては個別ゼミ必修科目を設けている場合がある為、自然と研究会中心の生活になる学生が多いようです。

☑ **入ゼミスケジュール予定（参考）**

＊　具体的な入ゼミ日程については**当冊子作成段階では未定**となっています。判明次第Webで発表します。

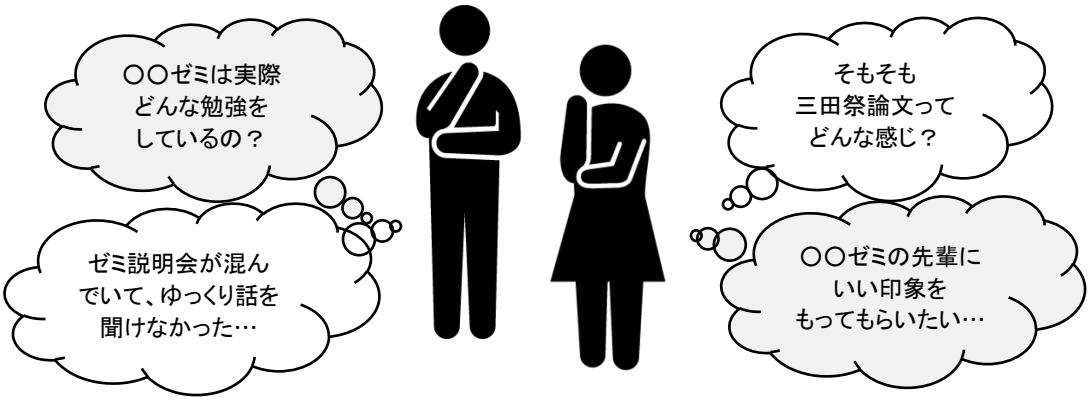
下図には、昨年度のスケジュールを参考に日程を記載しました。

第一回入ゼミ説明会（6 月 24 日）	各ゼミに関する情報を収集する最初の機会です。日吉で行いました。
↓	
第二回入ゼミ説明会（10 月 7 日）	各ゼミについて、第 1 回説明会よりも詳しい情報を入手できます。（本日開催）
↓	
各研究会教授説明会（9～11 月ごろ）	研究会教授が、2 年生に向けてゼミの内容や入ゼミに関する情報を告知します。
↓	
三田祭論文発表（11 月中旬）	三田祭において、各ゼミが自らの研究を発表します。論文コンクールも行われます。
↓	
オープンゼミ（10 月～12 月ごろ）	各ゼミが普段の活動を 2 年生に向けて公開します。ゼミの雰囲気を知ることができます。
↓	
第 3 回入ゼミ説明会（1 月初旬）	新規・再開ゼミの情報など、第 1・2 回説明会で提供できなかった情報や入ゼミ日程の告知など
↓	
A 日程本登録（2 月初旬）	募集を受け付ける研究会は、この日に一斉に登録を受け付けます。
↓	
A 日程試験・結果発表（3 月中旬）	A 日程で登録をした学生について、試験・面接などの選考を一斉に行います。
↓	
B 日程登録（3 月中旬）	A 日程の終了時点で、追加募集を受け付けている研究会が応募登録を受け付けます。
↓	
B 日程試験・結果発表（3 月下旬）	A 日程と同様に、試験・面接などの選考を一斉に行います。
↓	
C 日程登録・試験・結果発表（未定）	B 日程終了時点で追加募集を受け付けている研究会は、**研究会ごとに**募集受付を行います。
↓	
来年度春学期開始	それぞれの研究会活動が始まります！

ゼミ選びにおける三田祭の活用方法

研究会に入りたい2年生の方へ

三田祭論文のブースを上手く活用しよう！



困ったら三田祭論文のブースに行きましょう！！！

＊三田祭論文とは？

各研究会で進めた研究について、三田祭で論文を執筆し発表することです。また、三田祭論文コンクールは慶應義塾大学内で最大規模かつ、多くの研究会が一同に会し論文を発表する貴重な場でもあります。

＊ブースに行くと…

・自分の行きたい研究会が実際にどのような勉強をしているのか知ることができる！
・常に研究会員がブースに待機しているので説明会以上に詳しい話をゆっくり聞くことができる！
・活動内容を掲示しているゼミが多くあるので、実際に活動の内容を知ることができる！

経済学部三田祭論文コンクール

三田祭論文について詳しくは
http://keizemi-keio.info/wp/mitaron/まで。

各研究会の三田祭論文について助教授に査定していただき、優秀な論文を執筆した研究会を表彰するコンクールです。ゼミ選びの一つの指標として参考してください！

参考：前年度受賞ゼミと論文タイトル

・金賞：　小林慶一郎研究会　：家計にフィナンシャルアクセラレーターを導入したモデルによるバブルの分析
　　坂井豊貴研究会　：望ましいクラス三役選出ルールの提案
・銀賞：　駒形哲也研究会　：中国における持続的発展の可能性　―インターネット産業を通じて―
　　別所俊一郎研究会　：福島県立大野病院事件がその後の産科医療に与えた影響
・銅賞：　木村福成研究会　：円安が日本の貿易収支に与える影響　伝統的理論の限界と新たな知見
　　中妻照雄研究会　：自己励起型点過程モデルによるビットコイン為替市場の高頻度データ分析

経済学部ゼミナール委員会とは

経済学部ゼミナール委員会（略称：経ゼミ）は、慶應義塾大学経済学部に設置されている各研究会より1名ずつ選任されたゼミ代表を委員として構成される委員会です。慶應義塾大学の「上部団体・福利厚生等団体」に所属する団体となります。経済学部のゼミナールに所属している学生は1学年あたり約 1000 人弱います。この多くの人数を抱えた経済学部の各研究会間の親睦を図り、諸問題を解決し、入ゼミや三田祭論文発表などの各種企画行事を開催しています。そして経済学部から慶應義塾の興隆に寄与することをその目的としています。入ゼミは単位に関わるものでもあり、学事センターが管理していると思われがちですが、説明会や試験も学生の代表である経ゼミが学事や教授と協力の下、運営管理している点が特徴です。

☑ 経済学部ゼミナール委員会　構成

・会長　：　川俣 雅弘教授
・構成員　：　経済学部各研究会からの代表者
・常任委員：　構成員の中から選出された 15 名

経ゼミ常任委員

↑ 選出　＊本年度は前年度常任委員による選考

経済学部ゼミナール委員会

↑ 各研究会から委員を1人ずつ選出(＝外ゼミ代表)

経済学部の各ゼミ

☑ 経済学部ゼミナール委員会　目的・意義

・経済学部として慶應義塾大学の興隆に寄与する。
・経済学部の研究会相互間の親睦を図る。
・月 1 回、全構成員による総会を開く。
・週 1 回、常任委員による常任委員会を開く。

☑ 経ゼミ総会と常任委員会の現在の関係

週最低 1 回の常任委員会

常任委員による案件の発議
↓
議論
↓
案件の仮決定

→

経ゼミ総会

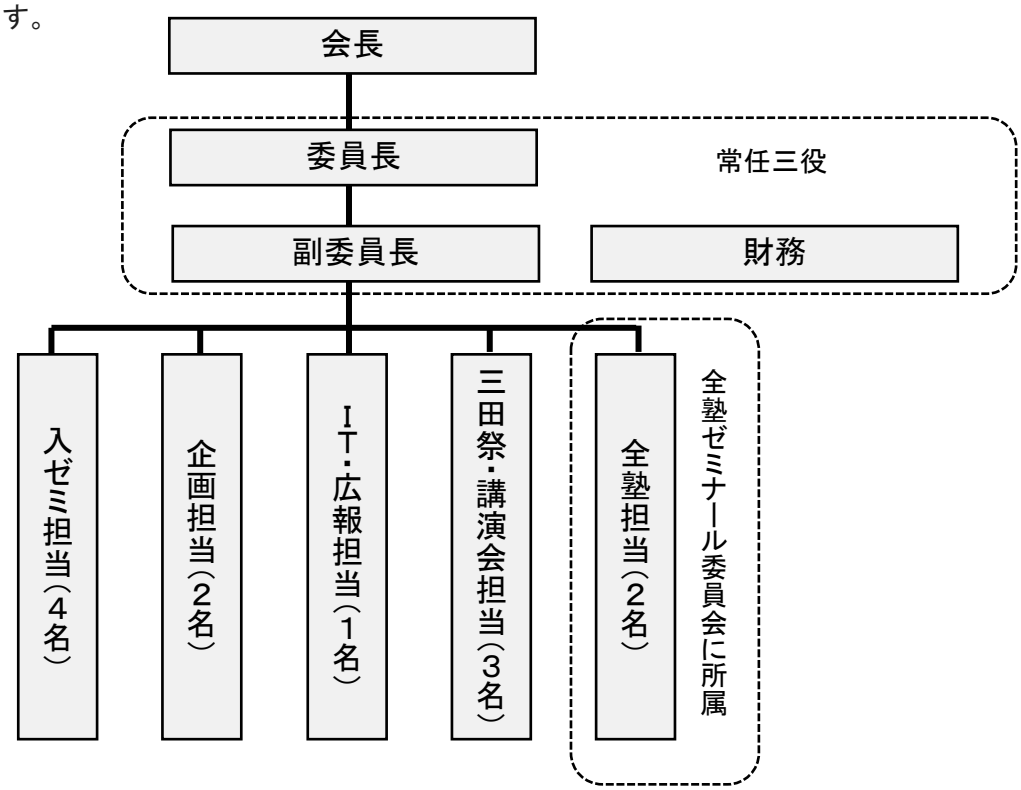
常任委員会による案件の提示
↓
議論・質疑応答
↓
案件の決定・実行

☑ 経ゼミは何をしているのか

・入ゼミの運営、開催（説明会の実施、資料作成、オープンゼミなどの実施、試験の管理）
・各研究会の三田祭における論文発表の場所確保、運営
・ゼミ内ゼミ間親睦の為のソフトボール大会など企画の運営
・各種講演会の企画、運営
・研究会活動の促進の為の問題提議と解決

☑ 経ゼミ常任委員とは

各研究会の外ゼミ代表より組織される経済学部ゼミナール委員会の委員から、それぞれの役職を持った常任 15 名が選出されます。それぞれの担当が経ゼミ内の企画の仕事に責任を持ち、活動しています。伝統を守り、数多くのルーティンワークをこなしながら新しい企画の導入も検討し、現状の活動に問題がないかを常に考えていく姿勢が求められます。



経ゼミの常任委員になりたいという方は、まずは各ゼミの外ゼミ代表を目指してください。

Web サイトに入ゼミ関連情報を掲載しています。
経済学部ゼミナール委員会 Web サイト：http://keizemi-keio.info/wp/
経済学部ゼミナール委員会 Twitter：@2017keizemi
経ゼミに興味がある方、質問等は経ゼミブース(D413 教室)へ
また、入ゼミに関するお問い合わせ等は、 keio.eco.nyuzemi2017@gmail.com まで

全塾ゼミナール委員会

【委員会構成】

全塾ゼミナール委員会は慶應義塾大学の公認団体であり、200 余りのゼミから成る各学部のゼミナール委員会を統括し、研究会活動に関する学生自治を任されております。当委員会は、下記の 6 つのゼミナール委員会からそれぞれ選出された 10 名により運営されています。

経済学部・商学部・法学部法律学科・法学部政治学科（各 2 名）
文学部人文社会学科社会学専攻・文学部人文社会学科人間科学専攻（各 1 名）

【意義】

本会は、各委員会に所属する研究会生の学術的活動並びに友好的交流支援により他学部他学科間の相互理解・相互連携を通して慶應義塾大学のアカデミズムの興隆に寄与することを目的とする。
（全塾ゼミナール委員会規約第 1 章第 1 条より）

【主な活動内容】

<u>他学部入ゼミ支援</u>

6 月中旬より、2 年生に対して各学部で入ゼミ説明会が行われます。学生は基本的に所属する学部のゼミに入会しますが、一部他学部生の入ゼミを受け入れているゼミがあります。そこで、学部を超えてのゼミの情報収集の負担を軽減すべく、全塾ゼミナール委員会が情報提供をサポートします。
具体的には各学部の入ゼミ説明会でブースを出展、他学部入ゼミ説明会の開催、他学部入ゼミ冊子の作成、Twitter、Facebook ページ、ホームページを通じて支援致します。

<u>業界講演会</u>

塾生の皆さまが将来の進路を決定する際の一助となれるよう、多岐に渡る業界で活躍する OBOG の方々の講演を、企画・運営しております。毎年秋学期に開催しており、本年度も皆様からアンケートに基づき講演会の企画を進めております。

<u>全塾ソフトボール大会</u>

毎年、各学部でソフトボール大会が行われます。上位に残ったゼミが、学部を超えて対戦するのが全塾ソフトボール大会であり、この大会の企画運営を行います。 本年度も 6 月中旬に実施予定です。

・全塾 HP：http://www.zenjuku-seminar.com
・Twitter：@zenjuku_keio（全塾ゼミナール委員会）
@zenjuku_nyuzemi（全塾ゼミナール委員会　他学部入ゼミ）
・Facebook：https://www.facebook.com/zenjuku.nyuzemi/
・問い合わせ：zenjuku.seminar.nyuzemi2017@gmail.com

他学部入ゼミについて

全塾ゼミナール委員会では、学部を超えて他学部のゼミで学びたいという意欲的な方を応援しています。下記に各学部の入ゼミの簡単な予定とFAQを載せておきますので、興味のある学部の説明会に足を運んでみてください。詳細は全塾HPに随時掲載致します。

	文学部 人間科学	文学部 社会学	経済学部	法学部 法律学科	法学部 政治学科	商学部	他学部 入ゼミ
第一回 説明会	~~7 月 3 日~~	~~6 月 21 日~~	~~6 月 24 日~~	~~7 月 5 日~~	~~7 月上旬~~	~~6 月 17 日~~	~~7 月 8 日~~
第二回 説明会	11 月下旬	11 月 1 週目	10 月 7 日	~~9 月 30 日~~	~~10 月 5 日~~	10 月 14 日	10 月 28 日 （予定）
第三回 説明会	なし	なし	1 月中旬	10 月中旬	なし	1 月中旬	三田祭
試験	1 月下旬	12 月初旬	3 月初旬	11 月下旬	2 月初旬	3 月中旬	—

＊上記は現段階で各学部ゼミナール委員会が発表しているものであり、今後日程が変わる場合があります。詳しくは、各学部ゼミナール委員会のHP等で日程をご確認ください。

FAQ

Q.他学部のゼミに所属することはできるのでしょうか？

A. 入会したいゼミが他学部生を受け入れており、入会課題や面接などを受け、入会を認められた場合、他学部のゼミに所属することが出来ます。
他学部入ゼミは基礎学力の違い、単位上の問題などある程度のリスクを伴うものです。しかし、全塾ゼミナール委員会は他学部のゼミを志望する学生に情報提供し、サポートを行っていきたいと思いますので、どんな些細なことでもお気軽にお尋ねください。

Q.全塾ゼミナール委員会ではすべての学部・学科のゼミに関して相談に乗ってもらえるのですか？

A. 当委員会は、慶應義塾大学の三田キャンパスに所属する6つのゼミナール委員会（経済学部、商学部、文学部人文社会学科社会学専攻、文学部人文社会学科人間科学専攻、法学部法律学科、法学部政治学科の各ゼミナール委員会）から2人ずつ（文学部は1人ずつ）選出され、計10人で組織されています。そのため、上記以外の学部・学科については情報を提供できません。湘南藤沢キャンパス(SFC)、理工学部、医学部はもちろんですが、文学部教育・心理・美術その他専攻もこれに当たります。これらのゼミに興味のある方は直接そのゼミに連絡をとって頂くことになります。

Q.自分の所属している学部のゼミと他学部のゼミの両方に所属することは可能ですか？

A. 可能です。ただし、2つのゼミを受験され両方入会を許可された場合、片方を辞退する行為は極めて失礼に当たるため、必ず両方に所属し全うして頂くようお願い致します。ゼミの活動は、予想以上に内容の濃いものです。時間的拘束など複数のゼミに所属するメリット、デメリットの両方を熟考の上、後悔しないゼミ選びをして下さい。

2017 年度　業界講演会
『未来の“想像”と“創造”　～世界に 1 人だけの自分探し～』

業界講演会とは、社会で活躍されている企業の方々にその業界や社会の実情についてのお話をしていただくというイベントです。21 回目となる本年度は、「様々な業界の講演に参加し、今まで知らなかった世界へと視野を広げることで、自分の未来の姿を想像し、思い描いた未来を創造していくために、自分を見つめ直す機会を手に入れてほしい」という願いを込めました。本年度は、以下 24 業界、27 企業の方々にご講演をしていただきます。

【ご案内】

場所：南校舎ホール（三田キャンパス）　　時間：18:30～20:00

航空①	全日本空輸株式会社（ANA）	10/3（火）
消費財	Ｐ＆Gジャパン	10/4（水）
外資コンサル	マッキンゼー・アンド・カンパニー	10/5（木）
銀行	株式会社三菱東京UFJ銀行	10/10（火）
金融	ゴールドマン・サックス証券株式会社	10/11（水）
保険	東京海上日動火災保険株式会社	10/12（木）
不動産①	三菱地所株式会社	10/18（水）
官庁	東京都庁	10/19（木）
外航海運	日本郵船株式会社	10/20（金）
総合商社①	三菱商事株式会社	10/24（火）
鉄道	東日本旅客鉄道株式会社（JR東日本）	10/25（水）
証券	野村證券株式会社	11/7（火）
広告	株式会社電通	11/9（木）
航空②	日本航空株式会社（JAL）	11/14（火）
出版	株式会社講談社	11/17（金）
不動産②	三井不動産株式会社	11/28（火）
総合商社②	伊藤忠商事株式会社	11/29（水）
飲料	サントリーホールディングス株式会社	12/5（火）
新聞	朝日新聞社	12/6（水）
IT	グーグルジャパン	12/7（木）
エンタテインメント	ソニーミュージックグループ	12/8（金）
映画	東宝株式会社	12/12（金）
食品	味の素株式会社	12/14（木）
旅行	株式会社ジェイティービー（JTB)	12/15（金）
日系コンサル	株式会社野村総合研究所	12/19（火）
化粧品	資生堂ジャパン株式会社	12/20（水）
テレビ	日本テレビ放送網株式会社	12/22（金）

皆様のご来場を心よりお待ちしております。　　全塾ゼミナール委員会一同

分野別研究会総覧・目次

分野	研究会名	詳細な専攻	ページ
理論経済	石橋孝次研究会	ミクロ経済学・産業組織論	16
	大西広研究会	マルクス経済学	18
※募集再開	尾崎裕之研究会	「不確実性」の数理モデルの構築	20
ゼミ有	坂井豊貴研究会	社会的選択理論、マーケットデザイン	22
	塩澤修平研究会	理論経済学、金融経済学	24
	須田伸一研究会	理論経済学（マクロ経済学、ミクロ経済学）	26
	玉田康成研究会	応用ミクロ経済学：インセンティブ・契約理論・産業組織論	28
	中村慎助研究会	理論経済学・公共経済学	30
	廣瀬康生研究会	金融経済学、マクロ経済学、ミクロ経済学	32
	藤原一平研究会	マクロ経済学・国際金融論	34
	穂刈亨研究会	ミクロ経済学、ゲーム理論	36
金融	新井拓児研究会	確率論・数理ファイナンス	40
	伊藤幹夫研究会	ファイナンス、計量経済学	42
	小林慶一郎研究会	金融・マクロ経済学	44
	櫻川昌哉研究会	マクロ経済学と金融	46
	佐藤祐己研究会	金融論・日本経済の応用ミクロ経済学	48
	中妻照雄研究会	データサイエンス(ベイズ統計学)とファイナンスなどへの応用（機械学習、フィンテックなどに関する最先端の研究ができます）	50
	前多康男研究会	金融経済学、マクロ経済学	52
国際経済	秋山裕研究会	経済発展論、計量経済学	56
	大久保敏弘研究会	国際経済学、海外直接投資・新経済地理学（空間経済学）・都市・地域経済	58
	嘉治佐保子研究会	国際マクロ経済学・欧州経済論	60
	木村福成研究会	国際貿易論・開発経済学	62
	駒形哲哉研究会	東アジア・中国・新興国経済	64
	白井義昌研究会	国際経済学 (国際貿易・国際金融・開発経済)	66
	竹森俊平研究会	国際経済、国際金融	68
経済史	飯田恭研究会	経済史・社会史・環境史	72
	太田淳研究会	経済史（東南アジア経済史、社会史）	74
	神田さやこ研究会	経済史（南アジア中心）	76
	崔在東研究会	国際経済史	78
	中西聡研究会	日本経済史	80
	松沢裕作研究会	日本社会史	82

計量経済・統計	河井啓希研究会	応用ミクロ理論に基づく実証分析、産業組織論、医療経済学	86
	田中辰雄研究会	計量経済学・IT 産業の実証分析	88
※募集再開ゼミ有	長倉大輔研究会	計量経済学　Econometrics	90
	星野崇宏研究会	統計学・行動経済学とその応用(マーケティング・ビッグデータ解析など)	92
	宮内環研究会	市場の数量分析	94
産業・労働経済	赤林英夫研究会	教育・労働・家族の応用ミクロ計量経済学	98
	植田浩史研究会	産業調査・産業史・経営戦略・経営史・中小企業論	100
	太田聰一研究会	労働経済	102
	三嶋恒平研究会	工業経済学・国際経営学・中小企業論	104
制度・政策	駒村康平研究会	社会保障制度・社会政策・福祉	108
	寺井公子研究会	公共経済学・政治経済学	110
	土居丈朗研究会	政治経済学・公共経済学・財政学	112
	山田篤裕研究会	社会政策論（社会保障、雇用政策、医療経済）	114
経済学史・思想史	池田幸弘研究会	経済学史・経済思想史	118
	川俣雅弘研究会	理論経済学、経済学史	120
	高草木光一研究会	社会思想史	122
社会思想史	坂本達哉研究会	社会思想史および経済思想史	126
	壽里竜研究会	社会思想史	128
経済地理	河端瑞貴研究会	空間社会経済研究・地理情報システム（GIS）	132
	武山政直研究会	経済地理・サービスデザイン	134
開発経済学	大平哲研究会	開発経済学・地域経済学	138
	山田浩之研究会	国際開発経済学・計量経済学	140
応用ミクロ経済学	津曲正俊研究会	ミクロ経済理論の応用、特に企業の経済学・産業組織論・契約理論など	143
	藤田康範研究会	応用ミクロ経済学	144
財政社会学	井手英策研究会	財政社会学	148
医療経済学	井深陽子研究会	医療経済学	150
行動経済学	大垣昌夫研究会	行動経済学	152
政策研究	北尾早霧研究会	少子高齢化問題、財政、社会保障などの政策研究	154
人口論	津谷典子研究会	人口論	156
都市計画	長谷川淳一研究会	都市計画	158
応用分析	マッケンジー・コリン研究会	欧州経済・日本経済・計量経済学	160
募集再開ゼミ	藤原グレーヴァ香子研究会	ミクロ経済学・ゲーム理論	164
	中嶋亮研究会	応用ミクロ計量経済学	166
PCP	PCP	英語による実践的な経済学	170
	研究プロジェクト		172

各研究会紹介

＊各ゼミ記載内容は以下の通りになっています。（一部例外あり）

研究会名

—研究分野—

1. 各ゼミの研究分野の詳細
2. 各ゼミに入ゼミを希望する学生への要望
3. 入ゼミの選考形式について

4. ゼミ員人数構成
5. ゼミの活動についての紹介
   ①ゼミ　②サブゼミ　③パートゼミ　④インゼミ
   ⑤課外活動　⑥三田祭　⑦夏休み　⑧合宿
   ⑨授業　⑩経費
6. ゼミ試験対策で使用した参考書
7. 本年度開講されている、各研究会の教授ご担当の講義
8. ゼミ HP・SNS
9. ゼミ生連絡先

※1～3 は研究会担当教授、4～9 はゼミ生が執筆した内容となっています。

理論経済

石橋孝次研究会

大西広研究会

尾崎裕之研究会

坂井豊貴研究会

塩澤修平研究会

須田伸一研究会

玉田康成研究会

中村慎助研究会

廣瀬康生研究会

藤原一平研究会

穂刈亨研究会

石橋孝次研究会

―ミクロ経済学・産業組織―

1.　研究分野

本研究会ではミクロ経済学を軸として、企業と市場の経済学である産業組織の研究を行う。

市場メカニズムの機能は厚生経済学の第1基本定理に集約されるが、同時に限界もあることはよく知られている。現実の経済は純粋な完全競争市場ではなく、何の施策もなければ機能不全に陥るのが常である。経済が健全に機能するには、政府が適切に介入を行うことも必要だし、組織や制度による資源配分が市場を補完することも必要である。私の主な関心は、現実の多くの企業は少なからず市場支配力をもつこと、また現実の経済活動はほぼ例外なく不完全もしくは非対称な情報の下で行われることを念頭において、市場メカニズムの限界と是正策を明らかにすることにある。この目的のためには、他の経済学の分野と同様、理論分析と実証分析の両方が必要になる。理論は経済問題を理解し解決策を探るためにあるという意味で、現実の経済問題との接点を見失った理論は健全ではないし、他方理論を軽視した実証分析も同様に健全ではないと考えている。

産業組織 (Industrial Organization) とは、不完全競争市場での企業行動の分析や需要の分析を通じて社会的に望ましい競争政策のあり方を考察する学問である。それと同時に、ビジネススクールなどに設置されている経営戦略論の基礎となっている学問でもある。より具体的に言えば、独占企業や寡占企業の価格戦略・品質や広告などの製品差別化行動・イノベーションと技術革新・企業の合併や統合・参入阻止などの問題について、ミクロ経済学に基づいた分析を行う分野である。また産業組織で主役となる主体は企業であり、企業の経営・組織・財務を考察する広い意味での企業理論は産業組織と密接に関わっている。本研究会では、ミクロ経済学と計量経済学を分析用具としながら、企業理論を含んだ産業組織の理論・実証研究を行う。

本ゼミ活動では、第 1 に分析ツールとしてゲーム理論・契約理論・行動経済学を学び、第 2 にゼミの研究分野である産業組織に関する文献を学習する。そして第 3 に、3 年生と 4 年生がそれぞれ個別の研究テーマに関する発表を行う。英語は重要な言語であり社会に出てからも絶対に必要なので、

教材としては英語文献を扱うことが多い。春学期はテキストによる基礎的学習にウェイトをおき、秋学期には研究書や専門的な学術論文を用いる。またプリゼンテーションのスキルの養成はゼミ活動の重要な目的の1つであり、通常の授業は学生によるパワーポイントを用いたプリゼンテーションに基づいて行う。

本ゼミでは理論分析を主とするが、実証分析に必要な計量経済学を学ぶためにサブゼミを設置する。またゼミ活動を円滑に遂行する上で必要な基礎知識の補充を行うため、私が担当する三田の授業の他にいくつかの授業を履修することを求める。その他に 3 年生は、パートゼミで個別研究および共同研究を行う。4 年生には相応の覚悟で卒業論文の作成に臨んでもらう。これは研究会活動の最終目的であり、学生生活において自らを鍛錬する最後の機会である。本研究会の卒業論文では、産業組織またはそれに関連する分野から具体的な問題を取り上げて理論分析および実証分析を行うことが求められる。卒業論文に取り組むためには分析能力を習得することだけでなく、普段のゼミ活動を通じて適切な問題意識を養っておくことが必要である。

2.　学生への要望

本研究会の趣旨を理解し、三田で充実した学生生活を送ることを望む諸君の入会を期待している。日吉ではミクロ経済学・マクロ経済学・数学・統計学・英語をできるだけ十分に学習しておいてもらいたい。これは三田の授業やゼミでの学習にとって必要であるだけでなく、社会に出てからも非常に有用な知識になるからである。

3.　選考について

①　募集人員：15 名程度
②　選考内容：筆記試験および面接
③　選考基準：筆記試験(90%程度)・面接(10%程度)。試験の出題範囲はミクロ経済学全般の内容とし、持込不可とする。日吉での成績は問わない。

4. ゼミ員構成

４年生１０名(男７名、女３名、留学中０名)
３年生１５名(男 14 名、女１名、留学中０名)

5. 活動紹介

①ゼミ（月曜 4・5 限）

産業組織論の理論研究と実証研究の両面から学習を進めていきます。学期の始めに割り振られた担当箇所について担当者が power point を用いてプレゼンを行います。
（春学期）
教授に指定された日本語、英語のテキストを用いて産業組織論やその周辺知識を学んでいきます。
（秋学期）
３年生は春学期で学んだことを活かして産業組織論の英語論文をプレゼンします。４年生は卒業論文を進めます。

②サブゼミ（春学期木曜 5 限）

産業組織論の実証分析を行う際に必要不可欠な、計量分析の理論や方法を学んでいきます。
毎週木曜日にパソコン室を利用して３年生は計量経済学の理論についてプレゼンを行い、４年生は計量ソフト STATA の演習問題を実演、解説します。教授にも参加していただいてアドバイスを頂きます。

③　パートゼミ

産業組織パート、経営戦略パート、競争政策パートに分かれ、三田論に向けて各自で学習を進めていきます。今年は教授の指定してくださった教科書の輪読を行ってから、三田論の準備に取り掛かりました。
＊パートごとに任意の時間に週１時間

④　インゼミ

行っていません

⑤課外活動

行っていません

⑥三田祭

パートごとに論文を発表します。

⑦夏休み

９月中旬に合宿があります。合宿で論文の中間発表があるため、３年生はパートごとに定期的に集まって論文を進める必要があります。

⑧合宿

９月中旬に３泊４日の合宿を行います。３年生は三田論の中間発表、４年生は卒論の中間発表を行います。

⑨授業

・ミクロ経済学中級Ⅱab(三田水曜２限)
・産業組織論 ab(三田春集中金曜１・２限)
・計量経済学中級 ab(三田春集中火曜１・２限)

⑩経費

ゼミ費１万円
合宿費３万８千円

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

奥野正寛編（2008）「ミクロ経済学」東京大学出版会
武隈慎一(1994)「演習ミクロ経済学」新世社

7. 先生が担当している講義

ミクロ経済学中級Ⅱa（三田春学期水曜２限）

8. ゼミHP・SNS

ゼミ HP:
http://www.clb.econ.mita.keio.ac.jp/ishibashi/
Twitter : @ishibashi_2018

9. 連絡先

外ゼミ代表　松浪　玄朗
　連絡先　aaa.3804@gmail.com
内ゼミ代表　甲斐　瑞輝
　連絡先　mizuki4030k@gmail.com
入ゼミ代表　中村　翼
連絡先　tsubasan0620@gmail.com

大西広研究会
―近代経済学を基礎とするマルクス経済学―

1.　研究分野

指導教員は「近代経済学を基礎とするマルクス経済学」を構築するために長らく作業をしてきた。近代経済学はマルクスのアイデアの多くを受け継ぎ発展をしてきたというのがひとつの理由であるが、それと同時に、では何が「マルクス経済学」であるのかも問われなければならない。世界経済危機や原発危機は近代経済学の危機でもあり、社会の在り方と経済学の在り方は根本的に問われている。研究会では、この大きな課題を正面に据え、2 年間をともに歩みたい。簡単な課題でなくとも、まずは挑戦することが重要であり、案外ポイントは単純なところにあるかも知れないからである。

なお、この目的のために、来年度もこの 2 年間使って来た盛山和夫『社会を数理で読み解く』有斐閣を読みたいと今のところ考えている。ゼミ生がこれを基礎に様々にマルクス的なアイデアを数理化する工夫をするための良書だからである。内容的には、格差の問題、権力の問題、互酬性の問題、社会的ジレンマの問題、教育機会の不平等問題、差別の問題、集合的決定が引き起こす問題など多様な内容を含んでいる。

研究会には、この他、担当教員のテキストで展開されている成長モデル関連の研究をしている院進予定の学生も多い。このようなスタイルで、各人の研究テーマを開拓してくれることを期待している。

なお、以上のテキストで 3,4 年生全員で開催する「本ゼミ」以外に、『資本論』を学年ごとに開催するサブ・ゼミで読んでもらっている。『資本論』は学生時代でしか本物を読めないので、このようにしている。読み込む中で自分なりの考えを形成してほしい。

最後に、新研究生の中には指導教員の

日吉での講義を受講していない君もいると思うので、その場合は、三年生向けに三田で開講する「現代資本主義論」と独学で努力されたい。入ゼミ選考の際にはもちろん差別しない。

2. 学生への要望

慶應の学生諸君に大きな期待を持って京都からやってきた。「就職に役立つ研究会」をやる気はない。それより、真のエリートとは自分のことより社会のこと他人のことに気を配り、それに貢献しようとする人間だと言いたい。世の政治、経済は混乱の極みであり、こんな時こそ真のエリートが求められている。生き方に迫る新しい経済学を学生諸君とともに作り上げたいと考えている。

3. 選考について

① 募集人数：A-B日程合わせて10名以内。
② 選考内容：レポートを提出いただき、その上で面接を行う。
③ 選考基準：近代経済学とマルクス経済学のどちらも学びたいとの意欲、ものごとを根本的に考え直してみたいという意欲のある者を歓迎する。

4. ゼミ員構成

4年生（4期生）：11人
（男子10人、女子1人）
（うち他学部／留学中0名）
3年生（5期生）：11人
（男子9人、女子2人）
（うち他学部／留学中0名）

5. 活動紹介

① ゼミ（水曜4限、水曜5限）

1. 当研究会では、マルクス経済学と近代経済学の融合を目標としています。そこで今年度は盛山和夫らの著作「社会を数理で読み解く」を輪読しています（来年度の活動は未定）。サブゼミでは毎年、当研究会の根幹ともいえるマルクスの著書「資本論」を輪読しています。マルクス経済学に興味のある方、また大西先生の人柄に魅力を感じた人を募集しま

す。皆様の入会を心待ちにしております。

② サブゼミ（月曜4限）
「資本論」の輪読

③ パートゼミ
なし

④ インゼミ
なし

⑤課外活動
なし

⑥三田祭
論文発表を行います。

⑦夏休み
合宿などを行い、三田論準備を進めます。

⑧合宿
例年９月中旬に2泊3日で合宿を行います。
今年は鬼怒川温泉へ行きました。

⑨授業
なし。

⑩経費
合宿費・教科書代

6. ゼミ試験対策で使用した参考書
特に指定はありません。

7. 先生が担当している講義
現代資本主義論（三田、水曜2限）
マルクス経済学（日吉、火曜2限）
現代日本経済論（三田、火曜4限）

8. ゼミHP・SNS
http://seminar.econ.keio.ac.jp/onishi/

9. 連絡先
外ゼミ代表　村上　貴一
kic-loiti-ve-go.1008@ezweb.ne.jp
内ゼミ代表　小柳　寛人
kanto.fg@gmail.com
入ゼミ担当　落合　ひかり
otlmg3284@gmail.com
高野　修太郎
shusheds137@gmail.com

尾崎裕之研究会

―統計的意思決定論―

1. 研究分野

不確実性には2種類あり、各事象の生起確率が分かっているものが「リスク」、分かっていないものが「真の不確実性」とか「ナイトの不確実性」と呼ばれます。ある人がナイトの不確実性に直面しているとします。このとき、「彼女の行動が一定のパターンに従っていることが観察できるのであるならば、彼女は各事象の確率を、あたかも知っているかのように行動していると考えてよい」という有名な結果があります。（つまり、ナイトの不確実性はリスクに還元できるということ。）ここに出てくる「パターン」のことを、「人々の行動に関する公理」(behavioral axiom)といいます。このような、公理を研究することによって人々の行動を分析する科学のことを、「公理論的意思決定論」といいます。尾崎はこれまで、主にこれを研究してきました。

これに対して、統計学に基づいて人々の意思決定を分析する科学が「統計的意思決定論」です。特に、本ゼミでは、真理・真実があると仮定した上で、観察されたデータセットからこの真理・真実を演繹する方法としての「古典的統計学」を研究テーマとします。尾崎個人としては、実は、人々が真理・真実があると仮定すること「それ自身」（および、その形而上的意味）と、これを公理論的意思決定論で特徴づけることに興味があるのですが、ゼミでは、素直に、「古典的統計学」を「回帰分析モデル」に重点に置いて研究したいと思っています。テキストは今年と同じく、浅野晳・中村二朗著『計量経済学（第2版）』（有斐閣）を使用しますが、特に、同書を用いて、「回帰分析モデル」には、幾つかの重要な仮定が存在することに注意を払います。

古典的統計学と並行して、本ゼミでは、「*Mathematica*」という数式処理ソフトと「TeX」という数式用ワープロソフトの習得にも力を入れます。

このゼミはそんなに勉強をするゼミでは必ずしもありませんが（笑）、毎年、東大・福田慎一ゼミ、阪大・二神孝一ゼミと行っている3ゼミ合同インターゼミと卒業論文だけは真剣に行いますので注意が必要です。

その他、江戸の香りを今に残す、東京下町めぐりなどを随時開催します。

2. 学生への要望

映画好きであること。これに尽きます。というか、そうでないと、僕のゼミはまったく面白くないと思います。僕は、「学生は勉強をする暇があるのであれば、映画を一本でも多く見た方が良い」と半ば本気で思っています。僕自身、高校・大学と、勉強もしないで映画ばかり見ていました。それでも、今、何とかなっています。（そういうものです。）

トリュフォー、タルコフスキー、ヴィスコンティ、フェリーニ、ヴェンダース、黒澤といった映画作家たちの名品の数々に、若いときに触れておくことは、本当に大事だと思います。ヨーロッパ系が多いですね。ノーランでも、タランティーノでも何でもいいです。とにかく一本でも多く観てください。はなしはそれからです。

3. 選考について

① 募集人数：A 日程、B 日程合わせて 15 名以内。募集人員を A 日程で満たせば B 日程選考は行いません。

② 選考内容：筆記試験と面接を行います。筆記試験では、あらかじめ出題範囲を指定します。ゼミツイッター、尾崎 HP を確認してください。

③ 選考基準：筆記試験、面接を総合的に評価します。

4. ゼミ員構成

3年生 14 名。(男9名、女5名)(留学中0名)
4年生 15 名(男 13 名、女2名)(留学中0名)

5. 活動紹介

① ゼミ

火曜 4、5 限

② サブゼミ

今年は木曜5限

③ パートゼミ

パートごと

④ インゼミ
毎年 1 月に東京大学と大阪大学と
⑤課外活動
社会科見学
⑥三田祭
パートごとに論文を書きます。
⑦夏休み
合宿やりました。
⑧合宿
今年は 2 泊 3 日で箱根に行きました。
⑨授業
今年はゼミ必修はありません。
⑩経費
合宿費、社会科見学費

6. ゼミ試験対策で使用した参考書
計量経済学［第 2 版］、浅野晳・中村二朗・著、有斐閣

7. 先生が担当している講義
マクロ経済学初級Ⅰ(春(日吉)、火曜1限)
マクロ経済学中級Ⅰa（INTERMEDIATE MACROECONOMICS 1A）【三田・秋・月曜日 2 限】
マクロ経済学上級(Advanced Macroeconomics)(春(三田)、月曜 2 限、大学院講義)

8. ゼミHP・SNS
HPhttp://seminar.econ.keio.ac.jp/ozaki/
Twitter @ozaki2018

9. 連絡先
外ゼミ代表　尾山友理　メールアドレス yurioyama128@gmail.com
内ゼミ代表　片柳祐悟　メールアドレス U5.qatawillow.ko-ftblgk791@ezweb.ne.jp
入ゼミ担当(代表)　鈴木祥希　メールアドレス　yoshikisuzuki@keio.jp

坂井豊貴研究会

―社会的選択理論・マーケットデザイン―

1.　研究分野

社会的選択理論：　多数決は意思集約の仕組みとして性能がよろしくありません。似た選択肢たちのあいだで票が割れて、変な選択肢が漁夫の利で勝ったりする。もっとまともな仕組みはあるのかというと、結構あります。例えば、1位に3点、2位に2点、3位に1点といったスコア式は、わりとよいです。どのような意味でよいのか？　これを問うには数理的な定式化と分析が必要です。

マーケットデザイン：「市場の失敗」という言葉がありますが、そもそも市場を成功させるのはなかなか大変です。いちいち「失敗」というほどのことではない。だいたい皆さん、机と椅子をうまく売れますか？　机と椅子を単独でほしい人や、セットでほしい人など、いろんな買い手がいるなかで、利潤を最大化する売り方は何でしょう？　パッケージ付き同時競り上げ式オークションはそのひとつの解答です。これは周波数オークションで実用された新しい市場のルールで、各国政府（日本除く）は数兆円単位の収益をあげました。

どうすれば、より優れた投票ルールが作れるか？　市場ルールが作れるか？　こうした設計可能性問題をゼミでは主に扱います。ゲーム理論を多く活用します。
こうしたテーマはとても先端的ですし、実用性も高いです。さらに当ゼミでは思想的背景として、政治哲学などの文献輪読も（けっこう熱心に）やります。

ここ数年は John Rawls, *Lectures on the History of Political Philosophy* の各章も勉強しています。最初はとっつきにくくとも、ゼミで読んでいくうちに、けっこう心身が慣れます。若いうちにこうした力をつけておくと、その後の人生で、いろいろ便利です。

2.　学生への要望

私の名前で検索すると、新聞記事や雑誌原稿が見つかるので、それらを参考にしてください。

ゼミは「学びの場」なので、志望者には「ゼミで学ぶ意欲」を強く求めます。ゼミを学びの場として成立させることは、私ひとりでは到底できません。ともに半学半教してくれるあなたの参加を心より歓迎します。

3.　選考について

① 募集人数：A-B 日程合わせて 15 名程度です。A 日程で十分な人数が集まった場合は、B 日程を開催しません（これまで開催したことなし）。

② 選考内容：成績、本の論評（坂井『多数決を疑う』岩波新書）、願書、面接で総合的に評価します。筆記試験はやりません。

③ 選考基準：成績と本の論評を重視します。次いで、願書と面接で判断します。

願書では、遠慮なく、あなたの知性や関心についてアピールしてください。アルバイトとサークルに関する記述は避けてください。

もし「自分の成績の、ここを評価してほしい」という点がある場合は、それについて書いていただいても結構です。
もし「成績で自分を判断するのは不見識だ」と思う場合は、それについて書いていただいても結構です。

4. ゼミ員構成

3年生　14 人 (男子9人、女子5人)
4年生　18 人 (男子16人、女子2人)(休学中 1 人)

5. 活動紹介

① 本ゼミ（水曜4限、5限）

3 年生によるテキストの輪読や 4 年生による卒業論文に向けた研究報告を行います。輪読では事前に割り当てられた担当箇所について板書を用いながら発表します。疑問点は各ゼミ生が自由に質問でき、議論を通して解決していきます。また、要所では先生が補足をしてくださることもあります。

② サブゼミ（火曜4限）

サブゼミはゼミ生の自主性に任されて行われています。春学期には本ゼミでの学習の補助のために解析学の勉強を進めました。疑問点は 4 年生が指導し議論を行うなどして解決しています。秋学期は主に三田祭論文についてグループごとの研究内容の発表とそれに関する討論を行います。

③ パートゼミ

パートゼミは今年度行っておりません。

④ インゼミ

11月に早稲田大学の船木ゼミと合同で、お互いの研究成果を発表しあう予定です。

⑤課外活動

ゼミナール委員会主催のソフトボール大会への参加のほか、定期的に懇親会を開くなどしてゼミ生相互の親睦を深めております。

⑥三田祭

今年度は3つの班に分かれてそれぞれ論文を執筆し、発表を行う予定です。

⑦夏休み

夏休みは毎年合宿を行っています。また、三田祭論文を執筆する班はその他にミーティングを行いました。

⑧合宿

4月の新歓合宿は筑波、夏合宿は草津にて行いました。

⑨授業

今年度はゼミ必修の授業として
ミクロ経済学中級Ⅰ
ゲームの理論
解析学Ⅱ
が指定されています。

⑩経費

合宿費、ゼミで使用するテキスト代などがあります。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

ゼミ試験は行いませんが、昨年度は事前課題として
坂井豊貴（2015）『多数決を疑う』岩波新書
の論評がありました。

7. 先生が担当している講義

ミクロ経済学入門Ⅱ(日吉、火曜 1 限)
ミクロ経済学中級Ⅰ(三田、水曜 3 限)

8. ゼミHP・SNS

http://seminar.econ.keio.ac.jp/sakai/
Twitter： @sakai_seminar

9. 連絡先

外ゼミ代表 石崎雄大
y1207i.tora@gmail.com
内ゼミ代表 神田佑貴
GodgardenU9192@gmail.com
入ゼミ担当 鍋田真結子
myk225nbt@gmail.com

塩澤修平研究会
―理論経済学・金融経済学―

1. 研究分野
理論経済学および金融論を含むその応用を対象とします。望ましい金融システムのあり方や、適正な消費税率、マイナス金利の意味など、現在まさに進行している問題についても取り上げます。
学生は理論パート、金融パート、応用パートの少なくともひとつに属し、与えられた課題についての共同研究を行います。本ゼミの内容は以下の通りです。
(1)指定する基本文献の講読および問題演習
理論経済学の基礎となる英文文献について、3 年生全員毎週課題レポートの提出、発表者は毎回ランダムに決定します。
(2)パート別課題報告
各パートによる課題の報告で、内容・発表者についてはパート内で決定します。
(3)4 年生卒業論文報告
個別の研究計画に基づいて、卒業論文を作成します。
3 年生パートゼミ課題例は以下です。
理論：動学マクロ理論、ゲーム理論とその応用
金融：REIT の可能性、マイナス金利の効果
応用：食糧安全保障と税制、企業の社会貢献活動

2. 学生への要望
ゼミに相応な時間を割くことができ、2 年間集中力を持続できる学生を前提とします。
精緻な理論的訓練と応用面での広範な論議を通じて、現実の経済社会を認識し評価する知性とバランス感覚を養うことが　この研究会の目的のひとつです。入会者は、研究報告・討論への積極的な参加が望まれ、現実との対応を念頭においた明晰な論理的分析が求められます。また、ISFJ（Inter-University Seminar for the Future of Japan:　日本政策学生会議）参加など、他大学との交流も重視しています。

3. 選考について
選考について①募集人数②選考内容③選考基準に加え各種情報の紹介をお願い致します。

① 募集人員：15 名

② 選考内容：筆記試験（ミクロ経済学、マクロ経済学、英文和訳）、面接（担当者によるもの、および学生によるもの）、日吉の成績表

③ 選考基準：上記の総合評価によります。　経済学部以外の学生も同一基準です。

4. ゼミ員構成
4 年生：15 人(男子 11 人、女子 4 人)
3 年生：18 人(男子 14 人、女子 4 人)

5. 活動紹介
① 本ゼミ（火曜4・5限）
　三年生は経済学に関する英語の文献（主にミクロ）の輪読、四年生は各パートの論文発表を行い、六月からは三年生も各パートによる研究課題の発表を行います。後期はパート発表のほかに三田祭論文や卒業論文などの研究発表を行います。
② サブゼミ
今年度は行っていません。
③ パートゼミ
今年度は行っていません。
④ インゼミ
今年度は行っていません。
⑤課外活動
今年度は行っていません。
⑥三田祭
パートごとに自由にテーマを設定し、興味ある分野について研究、発表を行います。
⑦夏休み
主に合宿や三田祭での発表の準備を行います。

⑧合宿

新歓合宿

ゼミ員同士での交流を深めることを主な目的に、河口湖にて一泊二日の合宿を行います。

夏合宿

こちらは三泊四日で行います。各パートの研究発表と、四年生の卒業論文の中間発表が中心となりますが、ソフトボール、バレーボール、サッカーなどのスポーツも行います。

⑨授業

基本的にゼミ必修はありません。自由に時間割を組むことが出来ます。

⑩経費

四月にゼミ費用として 3,000 円を集めます。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

演習ミクロ経済学（武隈慎一著　新世社）

7. 先生が担当している講義

金融論 a（三田　秋　木曜2限）

NPO経済論（三田　秋　火曜3限）

8. ゼミHP・SNS

http://seminar.econ.keio.ac.jp/shiozawa/index.html

9. 連絡先

外ゼミ代表　増子航

Wataru1207-yeah@keio.jp

内ゼミ代表　小川健人

k.ogawa@keio.jp

入ゼミ代表　阿部真璃奈

Avemarina@keio.jp

須田伸一研究会
―理論経済学―

1. 研究分野

理論経済学は、複雑な現実経済を分析するために抽象的な理論モデルを構築し、そのモデルの性質を調べることによって、現実経済の動きに対する洞察を得ようとする学問である。つまり、複雑な現実経済を抽象化して捉えたものが理論であり、理論は現実経済を理解するための地図である。理論の理解ができてはじめて、経済現象を「説明」することができるようになる。モデルを構築する際の考え方の違いによって、理論経済学は伝統的にミクロ経済学とマクロ経済学に分類されているが、最近ではどちらの分野でも経済主体（家計、企業、政府などの意思決定主体）の最適化行動に基礎を置いてモデルが作成されるようになり、そのためミクロとマクロの方法論上の差異は縮まってきている。また、ゲーム理論、契約理論といった分析道具も、近年の理論経済学の研究には欠かせなくなってきた。私の専門分野は、ミクロ経済学の中の一般均衡理論という学問分野であるが、研究会では理論経済学一般の知識を身に付け、それを応用して現実経済を分析する能力を養うことを目的としている。また理論経済学は前提となる仮定から推論を一つ一つ積み上げていくものなので、その学習は論理的な考え方を身に付けるためにも役立つだろう。
なお、理論モデルを分析するときには、しばしば数学の論理が使用される。なぜなら、数学を用いると、推論をすばやく、しかも正確に行うことが可能になるからである。理論経済学を研究するときには数式に惑わされて変な結論を得ないように、数式展開を暗記するだけでなく、その内容を理解することが求められる。しかし、いったん数学的推論に慣れてしまえば、だれの目にも明らかな形で推論を進めることができるので、これほど便利なものはない。

2. 学生への要望

必修科目のマクロ経済学初級、ミクロ経済学初級（入門）の単位は取っておいてもらいたい。また、数学アレルギーのある学生には向かない分野だと思うが、かといって高度な数学を知っている必要はない。数学については日吉設置の微分・積分や線形代数の内容を理解していれば、あとは研究会に入ってから勉強すれば何とかなる。それよりも重要なのは、理論経済学に対する(漠然としたものでよいから)興味と、論理的思考の癖であろう。

3. 選考について

① 募集人員：10－15 名程度
② 選考内容：選考内容：ミクロ経済学、マクロ経済学について基礎的理解を問う筆記試験。成績表のコピー提出。面接。
③ 選考基準：筆記試験の点数、面接の印象、1、2 年の成績、さらには入ゼミ願書の内容を考慮に入れて総合的に判断する。

4. ゼミ員構成

4 年生(22 期):12 人（男子 12 人、女子 0 人）（うち他学部 0 人、留学中または留学予定者 0 人）
3 年生(23 期):13 人(男子 11 人、女子 2 人)（うち他学部 0 人、留学中または留学予定者 1 人）

5. 活動紹介

① ゼミ（水曜 4.5 限）

本ゼミでは教科書の輪読を行っています。担当者が与えられた教科書の範囲のレジュメを作成し、ゼミ生に対してプレゼンを行います。そのプレゼンに対し教授がアドバイスやフィードバックをします。とりあげる内容は 1 年ごとにマクロ経済学とミクロ経済学を交互に扱っています。

② サブゼミ（金曜 4.5 限）

サブゼミでは、主に 4 年生の指導の下、本ゼミと同じような形で教科書の輪読、三田祭の準備などを行っています。

③ パートゼミ

グループに分かれ、グループごとに三田祭論文出展に向けて研究活動を行います。テーマは理論モデルを使ったものであれば自由に設定可能です。

④ インゼミ
行っていません。
⑤課外活動
行っていません。
⑥三田祭
各パートで論文を作成し、発表を行います。
⑦夏休み
三田論発表にむけて各パートで集まり、発表の準備をします。
⑧合宿
夏合宿:9 月頃に 2 泊 3 日で行います。3 年生は三田論の中間発表、4年生は卒業論文の中間発表を行います。
⑨授業
マクロ経済学
ミクロ経済学
ゲームの理論
(いずれもゼミ必修です)
⑩経費
合宿代や教科書代がかかります。加えて経ゼミ費 2000 円がかかります。
6. ゼミ試験対策で使用した参考書
日吉のマクロ経済学、ミクロ経済学の授業で使用した参考書やレジュメを復習して理解していれば十分です。
7. 先生が担当している講義
ミクロ経済学入門Ⅰ春(日吉)、火曜1限
8. ゼミHP・SNS
なし
9. 連絡先
外ゼミ代表:川田　泰次郎
podoru-y25fistoj@docomo.ne.jp
入ゼミ担当:本田　叡
satoshi.tiger@icloud.com
入ゼミ担当:福井　梨乃
rino.fukui@gmail.com

玉田康成研究会

― ミクロ経済学，インセンティブ・契約理論，産業組織論―

1. 研究分野

研究の対象

従来の価格理論に加え，ゲーム理論，インセンティブ・契約理論を分析ツールとして獲得したことでミクロ経済学はその分析対象の大幅な拡張に成功し，それは経済学の全分野に及んでいる．そのキーワードとしては「インセンティブ」，「戦略」，「情報」，「競争と協調」などをあげることができる．これらのキーワードが相互に密接に関連しているのはもちろんであるが，とくに，経済主体に適切なインセンティブを与える方法は何かという問題意識を設定し研究を行いたい．市場・組織・取引関係の様々な局面で利用可能な情報には偏りがあり，経済主体が情報を戦略的に活用すると，典型的にはモラルハザードなどの問題が発生し，経済の効率性を損なうことになる．このことは最近頻発している企業不祥事などを見ても分かるだろう．インセンティブ問題を理論と現実の両面から研究することに中心をおく．

さらに，上記キーワードを軸とした研究対象をより広範囲に考えると企業戦略・企業組織（産業組織論），法と経済学，公共経済学，労働経済学などがある．ゼミ生は自らの関心に従って研究対象を選ぶことになる．広い意味では当研究会の研究分野はミクロ経済理論とその応用といえる．

研究会の目標と運営方法

当研究会の目標は「専門的知識としての経済学の習得と現実経済の分析」にある．教養を人や社会とのかかわり方とすると，重要な柱は「視点の確立」と「視野の拡大」の2つに求められる．現実経済に対する視野を広げ問題意識を培うことは重要だが，視点の裏づけがない問題意識はしばしば直感のみに頼った結論や処方箋に帰結する．だが経済学的真理は直感的にも正しいが，直感的に妥当と思えることは必ずしも正しくはない．謎に満ちた現実経済から問題を見つけ分析するためには，謎を解き明かす視点の確立が不可欠である．他方，視点を確立したとしても，視野を広げ問題意識を持たなければ何も視ていないことと同じである．視点を確立した上で視野を広げていく，これが現代的な意味での教養につながると考えている．当研究会ではミクロ経済理論を「視点」にあて，「視野」は現実の経済現象すべてに及ぶ．経済理論を習得することにより，現実の経済現象を普遍的な眼差しで見ることができ，国際的にも確立された共通の基盤の上に立つことができる．

本ゼミでは教科書を用いてゲーム理論や産業組織論，契約理論などの正確な理解を目指す．そして現実の経済現象を理論的に分析した応用的文献を読む．さらに 3 年生はサブゼミとパートゼミに参加する．サブゼミは本ゼミを補完するものとして位置付け教科書の輪読を行う．パートゼミでは具体的な研究テーマについて分かれて研究をおこない，その成果を三田祭論文やインゼミに結実させる．4 年生は卒論の作成をおこなう．卒論は経済学の知識と自らの具体的な関心を 1 つの構築物として作成するものであり研究会活動の目標である．テーマ選びの自由度は高い．

2. 学生への要望

1. 学問に対する敬意と現実に対する関心，ゼミ活動への熱意のすべてを兼ね備えた学生の応募を望む．
2. 論理的思考に抵抗がないことが重要である．ミクロ経済学やマクロ経済学の授業を「面白い」と思えることが必要条件である．
3. 経済学の知識をセールスポイントにしたいという意欲を持って欲しい．

3. 選考について

1. 募集人数：17 名．A 日程のみ募集する．
2. 選考方法：筆記試験：60%

研究プラン（筆記試験時に A4 紙に 15 行以内で作成．事前に考えておくこと）＋入ゼミ願書＋面接：40%

研究プランでは入ゼミ後に研究してみたいトピックを1つ選び，「なぜそのトピックを研究したいのかという問題意識と「どのような結論を

導きたいか」という展望を「自由に」表現してください.

3. 筆記試験:80 分の教室内試験. 出題範

囲はミクロ経済学初級Ⅰ, Ⅱ. 次の HP を参考にするとよい.（パスワード管理されています）
http://www.econ.keio.ac.jp/staff/tamada/microhiyosh1.

4.ゼミ員構成

4 年生(15 期):20 人(男子:14 人、女子 6 人、他学部 0 人)
3 年生(16 期):23 人(男子:12 人、女子:11 人、留学生 2 人、留学中 1 人、他学部 0 人)

5. 活動紹介

① ゼミ（水曜 4,5 限）

テキスト(3,4 年各 1 冊)の輪読が担当者によるプレゼンテーション形式で進められます。先生から適宜アドバイスをいただき、ゼミ生は理解を深めます。今年度春学期の輪読文献は、3年生『Introduction to Industrial Organization』、4年生『オンラインデートで学ぶ経済学』です。

② サブゼミ（火曜 4 限）

3年生のみで、本ゼミとは違うテキストを輪読します。今年度の文献は『ゲーム理論入門』です。

③ パートゼミ（火曜 5 限）

3年生がパートに分かれて自主的に進めます。今年は、企業戦略、行動経済学、インセンティブ、金融(インセンティブ)の4パートがあり、各パートで三田論に向けて論文を作成中です。

④ インゼミ

昨年と同様、今年度も大阪大学の安田洋佑ゼミと名古屋大学の安田洋佑ゼミとインゼミを行う予定です。

⑤課外活動

特になし

⑥三田祭

三田祭では、3年生がパートゼミで行った研究結果を発表します。

⑦夏休み

夏休みでは各自、夏合宿の中間報告に向けて準備をしていきます。

⑧合宿

夏合宿では、毎年三田祭論文と卒業論文の中間報告を行います。

⑨授業

ゼミ必修:ミクロ経済学中級Ⅱa,Ⅱb(水曜3限)
ゼミ推奨:ミクロ経済学中級Ⅰa,Ⅰb(水曜2限)、産業組織論(金曜1,2 限、春)、ゲーム理論(金曜2限、秋)

⑩経費

合宿費 30000 円

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

玉田先生の授業のレジュメや期末テストの過去問、ゼミ試の過去問を利用している人が多いようです。

7. 先生が担当している講義

ミクロ経済学初級Ⅰ(火曜日 2 限、春、日吉)
ミクロ経済学初級Ⅱ(木曜日 1 限、秋、日吉)
ミクロ経済学中級 IIb (水曜日 2 限、秋、三田)

8. ゼミHP・SNS

HP:http://seminar.econ.keio.ac.jp/tamada/index.html
Twitter:@tamada_2018

9. 連絡先

外ゼミ代表 纐纈 優樹
fish168596@gmail.com
内ゼミ代表 大森 泰成
spacetaisei@gmail.com
入ゼミ担当(代表) 滝口 沙也花
t.sayaka0325@gmail.com

中村慎助研究会

―理論経済学・公共経済学―

1. 研究分野

私の研究分野は厚生経済学、特にメカニズム・デザインや社会的選択の理論です。理想的な状態における完全競争市場は、参加者である各消費者や生産者が利己的で合理的な行動を行った場合に、パレート効率性を実現する事は「厚生経済学の基本定理」として広く知られています。また、不完全情報や公共財の存在等がある場合には市場がパレート効率性を実現出来ない現象は「市場の失敗」と呼ばれています。2007年にノーベル経済学賞を受賞した Leonid Hurwicz 教授を嚆矢とするメカニズム・デザイン論は、このように市場が失敗する状況において、市場を補完あるいは代替する事によって、厚生上望ましいと判断されたターゲットを利己的で合理的な経済人が構成する社会において実現する事の出来る制度の設計を目的としています。この性質上、分析にはゲームの理論が多く用いられています。

一方、最近の実験経済学の進展により、人は実際には必ずしも合理的に行動せず、他者に影響されたり、リスクを過小や過大に評価したりする事によって、従来ゲームの理論で前提とされてきたものとは異なった行動様式を持つことが明らかとなってきたました。これを前提とした理論的、実証的な分析が行動経済学です。

最近の関心は、人の限定合理性を前提とした経済モデルを用いて、制度設計論の再構築を行う事にあります。

本研究会は、もう少し広く理論経済学及び公共経済学に関心のある学生を対象としています。諸君はマクロ経済学初級Ⅰ、Ⅱ及びミクロ経済学初級Ⅰ、Ⅱを通じて理論経済学の初歩を学んだことと思います。当研究会の目的はその理論を更に深め、またその応用として経済政策論や財政論の基礎である公共経済学を研究することにあります。

2. 学生への要望

研究会の活動は、いわゆる本ゼミと 3 年次の共同論文の作成、4 年次の卒業論文の作成、並びにゼミ生の自主性に任せるサブゼミ、パートゼミに分かれます。本ゼミでは上記範囲より適宜、基本的な文献を選んで輪読します。通常は「ミクロ経済学」、「マクロ経済学」、「公共経済学」の 3 分野より 2 分野の教科書を選び、それぞれ本ゼミないしサブゼミで読むことになります。3 年生及び 4 年生各 2、3 名ずつ計 4、5 名で一つのグループを作り、各グループが各回の報告を責任を持って行います。その際には、PowerPoint またはそれに相当するプレゼンテーションツールを用い、また、レジュメを配布することによる、分かりやすいプレゼンテーションが期待されます。そこでは、いかに積極的に討論に参加したか、又、いかに自分の理解したことや自分の考えたこと、意見を正確に
得力を持って伝えられるかが問われます。
また、3 年生は、2 ないし 3 つのテーマを選び、テーマごとのグループに分かれて共同研究を行います。夏合宿において中間報告を行いそこでの討論によってテーマを一つに絞り、三田祭において最終的な研究発表を行います。

4 年生の卒業論文のテーマは原則として自由とします。しかしながら論文は次の三点を目標とします。

(1) いかに強いモチベーションを持っているか

(2) 当該分野でどんな新しい事実あるいは結果を発見したか

(3) 自分の興味ならびに発見をいかに正確に読者に伝えるか

3年次の冬休み明けに各自、卒業論文のテーマを決定・報告し、春休み明けに研究予定の提出、夏合宿において中間報告、4 年次冬休み明けに最終提出し、卒業論文報告会を開催する予定です。

本研究会に参加を希望する学生には積極的な態度での議論参加と不断の努力を期待します。

3. 選考について
①募集人員：15名程度
②選考内容：筆記試験（ミクロ経済学）
面接試験
成績表のコピー
③選考基準：上記を総合的に判断する。
なお、A 日程合格者数によって B 日程の試験を行わないことがあります。

4. ゼミ員構成
3 年生 16 名(男 12 名、女 4 名)(留学中 1 名)
4 年生 13 名(男 8 名、女 5 名)(留学中 0 名)

5. 活動紹介
① ゼミ（水曜4・5限）
前期はミクロ経済学や公共経済学のテキストの輪読を行い、後期は卒論や三田論の発表を行います。
毎週担当者が PowerPoint とレジュメを用いてプレゼンテーションを行い、教授の鋭いご指摘や解説を通して、理解を深めていきます。
輪読の準備、発表を通じてプレゼン能力を向上させることも、大切な目的の一つになっています。
② サブゼミ（水曜6限）
3 年生のみで自主的に行うゼミ活動です。曜日・内容は 3 年生で話し合って決めることができます。
③ パートゼミ
3 つのグループに分かれグループごとに自由にテーマを設定し、三田論に向けて自主的に活動を行います。
④ インゼミ
本年度は行いません。
⑤課外活動
ソフトボール大会に参加しています。
⑥三田祭
3 つのグループごとに論文発表を行います。
⑦夏休み
夏合宿の中間発表に向けて各自が論文作成に取り組みます。3 年生はパートごとに集まって三田論の作成にあたります。
⑧合宿
・新歓合宿(1 泊 2 日)
ゴールデンウィーク前後に都内で集まり、教授・ゼミ員同士の親睦を深めます。
・夏合宿(2 泊 3 日)
3 年生は三田論、4 年生は卒論の中間発表を行います。花火や BBQ などのレクリエーションも盛りだくさんです。今年の夏合宿は秩父に行きました。
⑨授業
ゼミ指定の必修科目はありません。
⑩経費
新歓合宿費、夏合宿費など

6. ゼミ試験対策で使用した参考書
過去問演習が最も有効であり、基本的なミクロ経済学のテキストであれば対応できます。以下の参考書を利用したゼミ員が多いです。
『入門ミクロ経済学』
ハル・R・ヴァリアン著 勁草書房
『演習 ミクロ経済学』
武隈 慎一著 新生社

7. 先生が担当している講義
今年学部で担当している講義は研究会のみです。

8. ゼミHP・SNS
ゼミ HP
http://seminar.econ.keio.ac.jp/nakamura/
Twitter:@SeminarNakamura

9. 連絡先
外ゼミ代表 大野杏介 Ok.23.love-swallows@ezweb.ne.jp
内ゼミ代表 中谷寧宏
Yasuhiro.nakatani.1125@gmail.com
入ゼミ担当 尾花拓哉
Nakamurashinsuke.seminar@gmail.com

廣瀬康生研究会
―マクロ経済モデル分析―

1. 研究分野

マクロ経済モデルは、(1)現実の複雑な経済構造の理解を助けるための単純化、(2)経済情勢が今後どのように推移するかの予測、(3)政策変更の影響を計るシミュレーション、等を行うことができる分析ツールです。本研究会では、参加者がこうした分析手法を習得し、各自の問題意識に応じてモデル分析ができるようになることを目標とします。

マクロ経済モデルには様々な種類が存在しますが、本研究会では特に、フォワードルッキングな経済主体の最適化行動から導かれる行動方程式と市場の均衡条件を組み合わせた「動学的確率的一般均衡モデル（DSGE モデル: Dynamic Stochastic General Equilibrium Model）」を研究対象とします。

DSGE モデルは、政策の波及効果を考える上で重要となる経済主体の期待の役割を明示的に取り込んでいるなど、政策分析に適した性質を有していることから、世界中の主要中央銀行や国際機関においても近年盛んに開発・運用が行われています。

DSGE モデルの理解には、大学院レベルの知識が不可欠だと考えられていますが、少人数でじっくりと取り組むことができるというゼミの利点を生かせば、学部生にも十分習得可能だと思っています。

研究会では、まず、輪読または講義を通じて「DSGE モデルとは何か」、「DSGE モデルがなぜ必要か」といった点について理解を深めます。その間、DSGE モデルを理解する上で必要となる経済学と数学の知識も同時に学んでいくことになります。次に、行列演算ソフトウェアである MATLAB を用いてモデルの解法やシミュレーション技法を身につけます。最終的には、参加者が自ら DSGE モデルを構築し、現実のマクロ経済分析（経済変動の要因や財政・金融政策に関する分析など）に活用することを目指します。

2. 学生への要望

学部中～上級レベルのマクロ経済学、ミクロ経済学、微分積分、線形代数、統計学の知識が必要となります。具体的には、加藤涼『現代マクロ経済学講義：動学的一般均衡モデル入門』（東洋経済新報社、2006 年）を読んで理解できることを前提とします。

これまでの活動内容は、ゼミ生による研究会 HP を参考にして下さい。

http://seminar.econ.keio.ac.jp/hirose/

私の専門分野および研究内容については、以下の個人 HP を参照して下さい。

http://sites.google.com/site/yasuohirose/

3. 選考について

① 募集人員：5～10 名

② 選考内容：レポートおよび面接（日吉での履修科目・成績を重視します。）

4. ゼミ員構成

3 年生 1 名（男 1 名、女 0 名）（留学生 0 名）

5. 活動紹介

① 本ゼミ（月曜4・5限）

春学期は DSGE モデル習得のための講義、シミュレーションソフト Matlab を用いた政策分析の講義を行いました。今後はその実践として三田論の執筆活動に移っていきます。その後は卒業論文の執筆を行っていきます。また、今年度は行いませんが、ISFJ 政策立案コンテストに向けて論文を執筆していくこともあります。

② サブゼミ

今年度はありませんが、通常は春学期に白川方明『現代の金融政策』や日本銀行金融研究所『日本銀行の機能と業務』などの輪読を行います。秋学期は三田論や ISFJ 政策立案コンテストに向けた論文の執筆を行っていきます。

③ パートゼミ

なし

④ インゼミ

なし

⑤　課外活動
ソフトボール大会に参加したり、ISFJ 政策立案コンテストに向けた論文を執筆したりします。

⑥　三田祭
三田祭論文コンクールに参加します。ブースも設置します。

⑦　夏休み
三田論の執筆の準備のため、三田論のテーマと関係のある論文を読み、理解を深めます。

⑧　合宿
今年度はありませんが、毎年、山梨県へ 2 泊 3 日の夏合宿を行います。三田論に向けた準備を行います。

⑨　授業
ゼミ必修はありません。

⑩　経費
合宿費のみです。

6.　ゼミ試験対策で使用した参考書
AC チャン「現代経済学の数学基礎」
加藤涼「現代マクロ経済学講義」
ローマー「上級マクロ経済学」
マンキュー「マクロ経済学（入門編・応用編）」
奥野正寛「ミクロ経済学」
ヴァリアン「入門ミクロ経済学」

7.　先生が担当している講義
マクロ経済学初級Ⅱ（秋）（日吉、火曜日 2 限）
マクロ経済学中級Ⅰb(INTERMEDIATE MACROECONOMICS 1B)（春）（三田、月曜日 2 限）
マクロ経済学中級Ⅰb（秋）（三田、月曜日 3 限）

8.　ゼミ HP・SNS
ゼミ HP：
http://www.clb.econ.mita.keio.ac.jp/hirose/

9.　連絡先
ゼミ代表　中澤俊太
連絡先　shunshun0707@outlook.jp

藤原一平研究会

―マクロ経済学・国際金融論―

1.　研究分野

私の研究分野は、マクロ経済学、国際金融論となります。経済について、システム全体（一般均衡）で捉えて、その変動の要因を探求し、あるべき政策の姿を模索することに関心を持っています。最近の研究には、「世界全体が名目金利のゼロ金利制約に直面する下での最適な国際金融協調のあり方」、「ニュースが景気循環にどのような影響を与えるか」、といったものがあります。具体的な研究内容については、
https://sites.google.com/site/ippeifujiwara/を参照ください。
同時に、学術誌以外（日経新聞、日経ビジネス、経済産業研究所のコラム、East Asian Forum、等）への寄稿や、経済政策に関するイベントの企画およびそうした場での発表を通じて、現実の政策問題を経済理論に則して、わかりやすく理解することにも努めています。
ゼミで取り組みたい研究分野もマクロ経済学・国際金融論を中心に考えていますが、これに限りません。ゼミ生が自分の関心のあるトピックについて、経済学的に説明できるようになることが大切と考えています。
①経済学的思考および分析手法の学習、②テーマに取り組み、何らかの結論を導出することによって、「経済現象を理論的に理解する」、また、「これを説得的に説明する」能力の習得、③グローバル化した社会で働くことを強く意識すること、の 3 つを大きな目的としています。いずれも、社会人となった際に、必ず有益なスキルになると考えています。
①については、私が担当する「中級マクロ経済学」をゼミ生必修とするほか、ゼミでは、エッセイ執筆、経済問題の討論、PC 教室でのデータを用いた講義などで習得することを想定しています。
②については、卒論作成を通じて個人として、また、インゼミ（東京大学青木ゼミとは、年末の共同研究発表会だけでなく、毎週お互いのゼミを数名が参加する交換留学を行っています）、その他の研究発表を通じてチームとして、個々が関心あるテーマについて研究に取り組む機会を設ける予定です。
③については、海外の大学での教職経験、また、その他の海外での活動を背景に、例えば、海外トップスクールに在籍する同世代の学生が、「どのような意識を持って大学で学んでいるのか」、「どのような将来展望を持ち、それに向かって準備しているのか」といったことを適宜紹介したいと思っています。
また、今年度同様、社会で活躍されている方々による特別講義も月に一度程度開催する方針です（詳しくはゼミの HP をみてください）。

2.　学生への要望

大学時代のゼミの最も素晴らしいことは、様々なバックグランドを持った友人と出会えることだと思います。部、サークル、アルバイト等を通じたつながりも素晴らしいものですが、ゼミという新しい軸を通じた友人は、その後の人生にとって、かけがえのないものとなるはずです。このため、ゼミの活動に積極的、かつ自発的に取り組む学生を希望します。
学生時代に、学業だけでない様々な経験をすることは素晴らしいことです。しかし、大学は、本質的には、将来に役立つ思考法を身につけるところです。このため、ゼミでは、卒論、共同研究に真摯に取り組むことができる人を希望します。
自分の関心があるテーマを自力で見つけ、これを分析対象として設定でき、さらに、粘り強くあきらめずに自身で設定した問いに対する答えを導き出せるような学生と一緒に勉強できることを願っています。

3.　選考について

① 募集人員：15 名程度
② 選考内容：レポートと面接（個別）と成績
③ 選考基準：レポート、面接では、以下の点を重視しています：(a)自分の考えを説得的に表現できるか？(b)様々な（経済）問題に対し、ロジカルな解決策を提示できるか？
レポート課題としては、例年通りの「ゼミへの志望動機」に加え、マクロ経済トピックについての見解を問う問題の2つを考えています。

4. ゼミ員構成

3年生　22 名(男 11 名、女 11 名)(留学中 1 名)
4年生　18 名(男 10 名、女 8 名)

5. 活動紹介

① ゼミ（月曜 4･5 限）

毎週、経済指標の分析と経済雑誌の記事の発表を行います。経済指標の分析は、株価・為替・日経平均株価の変動の分析、政府や日銀が適宜公表した経済指標の解説をゼミ生が発表します。現実の経済で何が起きているのかを学び、メディアに流されずに自分の頭で考える力を身に付けます。経済雑誌の記事の発表は、著名な経済学者が執筆した記事の内容を要約し、考察と共にゼミ生が発表します。発表後は、ディスカッションを行い、ゼミ生同士で意見を共有します。藤原先生も経済モデルの提案や、新たな視点からアドバイスをしてくださります。

また、月に1回程度、実社会でご活躍されている方をゼミにお呼びし、お話ししていただきます。（今年度前期には、外資系金融機関研修責任者、NHK 前局長、日銀金融研究所長にお越しいただきました）。ゼミ生からの質問にも丁寧に答えてくださり、視野を広げ、教養を深めることができます。

② サブゼミ（水曜 4･5 限）

金融論の輪読、日本経済新聞の記事の発表を行っています。金融論の輪読は、『現代の金融入門【新版】』（池尾和人著）を用いて、毎回担当者が発表をします。金融論に苦手意識があっても、サブゼミでしっかり前提となる知識をつけることができます。また、日本経済新聞の記事の発表を通して、様々な時事問題について知識を得ることができ、ディスカッションやディベートを通じて理解を深めます。

③ パートゼミ

夏季休暇以降は三田祭論文のパートで適宜 1~2 週間に 1 回程度集まり、研究を進めていきます。

④インゼミ

東京大学の青木浩介ゼミと行います。年末に合同で研究発表会を開催するほか、毎週、お互いのゼミを数名が訪問しあう交換留学制度も導入しています。

⑤課外活動

昨年度は FinTech summit に参加しました（希望者のみ）。希望があればその他の論文コンテストに参加することもできます。また、日銀・東証の見学やソフトボール大会への出場もしており、積極的に課外活動を行っています。

⑥三田祭

パートごとに三田祭論文を執筆し、三田祭で発表します。自分の関心のあるテーマをもとに5名程度で1つのパートをつくり、活動します。

⑦夏休み

三田祭論文に向けて、各パートが論文執筆に取り組みます。9月中旬にある合宿で中間発表を行いました。

⑧合宿

今年度は9月の中旬に2泊3日で千葉県へ行きました。各パート三田祭論文の中間発表と質疑応答、ディスカッションなどを行います。

⑨授業

今年度、ゼミ必修授業はありませんでした。

⑩経費

輪読書の購入費の他に、ゼミ費、合宿費を適宜集めます。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

レポートと面接を行うため、各自必要に応じて参考書を使用してください。

7. 先生が担当している講義

Introductory macro：PEARL 向け、日吉、後期
Quantitative macro：学部上級向け、三田、前期
Applied macro：大学院向け、三田、後期
Advanced macro：大学院向け、三田、後期
Macroeconomic workshop：研究者向け、三田、通年

8. ゼミHP・SNS

http://seminar.econ.keio.ac.jp/fujiwara/
twitter アカウント：@fujiwarazemi
先生の HP：
https://sites.google.com/site/ippeifujiwara/

9. 連絡先

外ゼミ代表　清水　菜央
連絡先：cw262.ypnd@gmail.com
内ゼミ代表　前田　和輝
連絡先：maekaz427@gmail.com
入ゼミ担当　岡本　知紗
連絡先：nyuzemi2017fujiwara@gmail.com

穂刈享研究会
― ミクロ経済学・ゲーム理論―

1. 研究分野
ゲーム理論には、非協力ゲームの理論と協力ゲームの理論があるのですが、私の専門分野は協力ゲームのほうです。この分野では、何人かの人たちが協力することで得られる成果をどのように分けるかという問題を、非常に抽象的な設定の下で、数学的に分析します。
　研究会では例年、ミクロ経済学とゲーム理論のテキストの輪読を行ってきたのですが、来年度は協力ゲームの理論のテキスト、もしくは協力ゲームに多くのページを割いているゲーム理論のテキストを使用する予定です。
　卒業論文のテーマはゲーム理論でなければならないというわけではありません。参考までにこれまでの卒業論文のタイトルをいくつか挙げておきます。

2016年度
・ゲーム理論による人狼ゲームの分析
・公共投資の契約を結ぶ際の政府と企業の契約に関する分析
・仕事割り当て問題のオークションルールを用いたゲーム設計
・Cashless Economy の均衡について
・ネットワーク形成のモデルにおける部分ゲーム完全均衡: プレイヤーが6人の場合

それ以前の卒論タイトルの例
・医療におけるセカンドオピニオン　～患者と医師の戦略的関係～
・個人の道徳的行動と社会正義の実現
・協力ゲーム理論を使った分配問題
・世代重複モデルを用いた公的年金制度の経済学的分析
・自己の行動についての経済学的考察　～早い行動にコミットする方法～
・ゲーム理論におけるマッチンング問題
・非対称情報モデルのロバスト性とその解釈
・「ろくでなしの子の定理」の成立とその条件について
・現実の経済問題としての外部性とその内部化の方法について
・完備情報ゲームとバックワード・イ ンダクション
・経済学部の入ゼミに関するマッチング
・消費財卸売のミクロ経済分析
・コンピューターシミュレーションによる戦略の進化

2. 学生への要望
基本的に毎回出席すること。

3. 選考について
①募集人数:
A 日程(5名程度)
B 日程(5名程度)
②選考内容
　筆記試験(ミクロ経済学、持ち込み不可)
　面接(成績表持参)

4. ゼミ員構成
3年生　8 名(男 8 名、女 0 名、留学中 0 名)
4年生　10 名(男 8 名、女 2 名、留学中 0 名)

5. 活動紹介
① ゼミ(火曜4・5限)
穂刈ゼミでは、ミクロ経済学・ゲーム理論について文献の輪読を行います。輪読は、事前に指名された生徒がプレゼン形式で教科書の内容を説明するものです。ゼミ生はみな和気藹々と取り組み、先生からの鋭い指摘によってより深くミクロ経済学について理解することができます。非協力・協力ゲームはもちろん、経済学の基礎的な知識や数学についても多くを学ぶことができます。
② サブゼミ
なし
③ パートゼミ
なし
④ インゼミ
なし
⑤課外活動
ソフトボール大会など

⑥三田祭
三田論発表など
⑦夏休み
なし
⑧合宿
2017 年度は実施せず
⑨授業
「ゲーム理論 b」では、協力ゲームについて相乗りタクシーの利得配分など具体的な場面を想定しながら解説が進みます。また、ハルムートの記述からユダヤ教の配分ルールを考察するなど、幅広い視点から講義が行われます。

⑩経費
特になし

6. ゼミ試験対策で使用した参考書
ミクロ経済学の力（神取道宏　著）
演習ミクロ経済学（武隈慎一　著）

7. 先生が担当している講義
　専門外国書講読(春(三田)、火曜日 3 限)
ミクロ経済学中級 1a(秋(三田)、火曜日 3 限)
専門外国書講読(秋(三田)、水曜日 2 限)
ゲーム理論 b(春(三田)、金曜日 2 限)
経済思想の歴史Ⅱ(秋(日吉)月曜日 1 限)
自由研究セミナー(秋(日吉)月曜日 2 限)
ミクロ経済学初級Ⅱ(秋(日吉)、木曜日 2 限)

8. ゼミHP・SNS
http://seminar.econ.keio.ac.jp/hokari/

9. 連絡先
外ゼミ代表　大桶　祐太朗
連絡先　eko95514@gmail.com
内ゼミ代表　大田　夏輝
連絡先　n76w83.tigers@gmail.com
入ゼミ担当　鈴木　誉礼
連絡先　suzukih168@gmail.com

金融

新井拓児研究会

伊藤幹夫研究会

小林慶一郎研究会

櫻川昌哉研究会

佐藤祐己研究会

中妻照雄研究会

前多康男研究会

新井拓児研究会
―確率論・数理ファイナンス―

1. 研究分野
本研究会は数理ファイナンスを主テーマにしているが、実質的には、数学、とりわけ解析学と確率論の学習が中心となる。数理ファイナンス、特にオプションの価格付け理論を学習するためには、数学の議論が正確にできなければならない。そのため、数学の議論に慣れてもらうことを目的に、かなり細かなことにもこだわる妥協のない議論を目指す。具体的には、3 年生の春学期に微分積分学の教科書の輪読を行い、3 年生秋学期から 4 年生春学期にかけて確率論の教科書を輪読する。仕上げとして 4 年生秋学期に、学生の希望に応じて数理ファイナンスに関する文献を輪読する。特に、微分積分学においては、実数の連続性、点列の極限、関数の連続性、積分の定義などについて学習する。ちょっとマニアックな議論も行う。また確率論では、測度論の基礎について学び、大数の法則や中心極限定理などの極限定理を中心に、こちらも正確で細かな議論を行う。
尚、本研究会では飲み会、合宿などのイベントは行わない。三田祭にも原則的には参加しない。

2. 学生への要望
本研究会の内容や雰囲気は、悪い意味ではなく他の研究会とは相当異なる。決して怖いところでもなく、明るい雰囲気のゼミである。数学好きの学生が多数(と言っても 5 人程度だが)集まることを期待している。

3. 選考について
① 募集人数：A日程5名程度
② 選考内容：数学の筆記試験
③ 選考基準：数学の基礎学力を有していること。

4. ゼミ員構成
4 年生：3 名(男 3 名、女 0 名) (留学中 0 名)
3 年生：4 名(男 4 名、女 0 名) (留学中 0 名)

5. 活動紹介
① ゼミ(月曜 4･5 限)
月曜 4 限は 3 年生の時間として設けられ、より深い微分積分学、確率論について細部にこだわり学習します。教科書の輪読による学習方法をとっています。使用する教科書は、前期は「理工系の微分積分学」 吹田 信之・新保 経彦、後期は確率論のテキストをゼミ生の意見も反映しつつ決め、輪読いたします。

月曜 5 限は4年生の時間として設けられ、3 年生のパートと同じ進め方をとり、主に前期は3年生時から引き続き確率論のテキストを、後期は主に数理ファイナンスのテキストを輪読します。

② サブゼミ
なし

③ パートゼミ
なし

④ インゼミ
なし

⑤ 課外活動
なし

⑥ 三田祭
なし

⑦ 夏休み
特に活動なし

⑧ 合宿
なし

⑨ 授業
ゼミ必修などはありません

⑩　経費
教科書代

6.　ゼミ試験対策で使用した参考書

微分・積分に関する大学受験参考書、大学の講義で使用したテキストやゼミ生が個人的に使用していた参考書などです。
線形代数も出題範囲でありますので大学の講義で使用したテキストで復習することをお勧めします。
また、アップロードされている過去問も解いていたゼミ生もいます。

7.　先生が担当している講義

解析学Ⅱa(春(三田)、火2)
INTRODUCTION TO FINANCE(PCP)(秋(三田)月2)

8.　ゼミ HP

http://seminar.econ.keio.ac.jp/arai/

9.　連絡先

外ゼミ代表　金村 龍一
tales5041@gmail.com
入ゼミ担当　櫻井 雅隆
masa.sak.e546@gmail.com

伊藤幹夫研究会
― 金融市場の理論分析・計量分析 ―

1. 研究分野

ここ数年間の伊藤研究会では，金融市場に対して統計学的手法を用いた実証研究を行なってきました．具体的にはテクニカル投資戦略の有効性のブートストラップ法による検証，信用リスクの測定，株価の国際連関，株式価格の予測可能性，伝統的 CAPM 理論，外国為替市場の先物プレミアムパズル検証などです．

研究会において学生諸君は，最近の金融理論，金融市場構造の実証に関する統計的方法，実際に実証を行う場合のデータ処理の方法を講義と演習から学びます．さらに，比較的入手しやすいデータを用いて，様々な実証研究を行ないます．

2017 年度は，株式市場の動学的特性をゼミのテーマとしました．前期は金融関連の基礎知識の学習に力を入れる一方，株式市場・債券市場についての基礎的な事項の学習を行いました．さらに，本格的な実証分析を行なう後期への準備として，解析・線型代数・統計学に関する学習を平行して行ないました．同時にコンピュータや計量経済学，統計言語(MATLAB)の使い方を学びました．2018 年度は前年度と同様に金融市場に関連したテーマの下でゼミを行なう予定です．

なお研究会では，レポーターの一方的な発表に終始しないような工夫がなされます．具体的には，レポーターが内容に関して詳細なレジュメの作成のみを求められるのに対して，レポーター以外のゼミ員は，レポーター用課題の内容に関連して個別に課題が与えられます．また，ゼミで用いる文献の内容についても，レポーター以外のゼミ員が調べ，ゼミの時間内に発表するという運営形態をとります．

4 年次の卒論は，就職活動が一段落した者から着手します．テーマは 3 年次のゼミの活動に関連したものに限定して，相談の上で決めます． その上でたたき台となる先行の研究論文を選び，実証分析の追試・新たな貢献の模索・論文の根本となる実証・論文の執筆・改訂という過程を経て提出してもらいます．

この研究会の特徴は、経済学とファイナンスをいろんな角度から学ぶという点にあります．ゼミに入会した学生諸君は，理論を学ぶにしろ実証的手法を学ぶにしろ，どちらかに 特化することなく両方をバランスよく学ぶことを求められます．また自ら体と頭を積極的に動かして，さまざまな経験を積むことが求められます．

2. 学生への要望

研究会活動を含め大学における学習・研究活動が，将来の糧となるのか無意味な時間つぶしになるのかは，学生諸君の動機付けに一重に依存します．研究会に参加するならば，積極的な動機付けを自らに課してほしいと思います．

3. 選考について

1、募集人数、15 名程度(AB 日程合計)
2、選考，レポートと 4 年生による面接
3、選考基準，ゼミ活動に関して，本気になれるかどうか

4. ゼミ員構成

3 年 11 名(男 11 名)
4 年 13 名(男 10 名、女 3 名)

5. 活動内容

①本ゼミ(水曜 4･5 限)
春期は数学や統計、金融に関する基礎知識の復習を講義形式で、秋期は MATLAB を用いての実習を行います。
②サブゼミ
③パートゼミ
サブゼミとパートゼミはありません。
④インゼミ
実施予定はありません。
⑤課外活動
実施予定はありません。

⑥三田祭
　三田祭への論文提出は行いません。
⑦夏休み
　合宿以外の活動はありません。
⑧合宿
　MATLAB を実際に使用できるようにするため、毎年合宿が行われています。今年度は 3 泊 4 日の日程で行われました。
⑨授業
　ゼミ必修の授業はありません。
⑩経費
　合宿費のみです。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書
・金融工学の悪魔(著:吉本　佳生)
・世界一やさしい金融工学の本です(著:田淵直也)
・文系人間のための金融工学の本(著:土方薫)

7. 先生が担当している授業
マクロ経済学中級Ⅱa(春・水 2)
マクロ経済学中級Ⅱb(秋・水 2)

8. ゼミ HP
http://www.math.hc.keio.ac.jp/itoseminar/

9. 連絡先
外ゼミ代表:吉浦　貴俊
　連絡先:ysur.p90@gmail.com
入ゼミ担当:大隈威瑠
　連絡先: amukeru@gmail.com

小林慶一郎研究会

―金融危機などの理論と政策研究―

1.　研究分野

本研究会の研究分野は金融危機や財政危機など「大きくて長期的な経済変動」についての研究である。2008 年以降の欧米経済で起きた大規模な金融危機とその後の長期経済停滞や日本の少子高齢化や財政の慢性的な悪化、世代間の公平性などの問題が研究テーマの例である。

◇理論的テーマの例
金融システム（銀行などの機能）、貨幣、財政（公的債務）の理論的な扱いについてはまだ多くの問題点が残っている。これらの問題を勉強することを通じて、新しい理論的な創意工夫や発見を目指す。

◇政策的テーマの例
おもに財政の持続性の維持に必要な政策、危機脱却策など。世代間の公平性を再生するための政治経済思想についても考えたい。

◇ゼミでの活動
4 年生は卒業論文、3 年生はグループで三田祭論文を執筆する。
ゼミではテーマに関連する教科書や書籍、論文を輪読する。
また外部講師を呼び金融や財政の実務を勉強する場も設ける。
研究会メンバーはゼミの時間にプレゼンテーション(テキストの解説、自身の研究の進捗状況などについて)をして、全員でディスカッションをする。

◇　輪読テキストの例
・小林、加藤『日本経済の罠』
・サンデル『民主政の不満』
・Allen and Gale, Understanding Financial Crises
・Champ, Freeman and Haslag, Modeling Monetary Economies

2.　学生への要望

研究は解くべきテーマや問題設定を発見することができれば90％完成である。自分の頭で研究テーマを考え、課題設定を行うことを目指して勉強を進めてもらいたい。

事前の知識としては、基本的なマクロ経済学と経済数学は一通り習熟していることが望ましい。

3.　選考について

① 募集人員：10 名～15 名程度
② 選考内容：筆記試験またはレポート、面接、成績表の事前提出。
③ 選考基準：成績表、試験またはレポートの結果、志望動機の三つを勘案して判断する。成績表は重視する。

4. ゼミ員構成

4 年生 11 人（女子 1 人、留学生 1 人）
3 年生 11 人（女子 3 人、留学生 0 人）

5. 活動紹介

① ゼミ（月曜 4･5 限）

当研究会は、金融・マクロ経済理論を中心に、3 年生が決めたテーマ・方式に従って理解を深めます。本年度春学期前半は、『財政と民主主義』（加藤　創太、小林　慶一郎、編著）を輪読し日本の財政赤字についてその原因と改善案を議論しました。輪読中には、本著の出版記念会にも参加して、著者の先生方から本の内容に関して直接解説をお聞きする機会もありました。学期後半は、各自の選んだ学術コラム・論文を要約、発表し、発表者が提案したディスカッションテーマにそって意見交換をしました。また、議論を通してそれぞれの興味関心を共有し、三田論に向けてグループ分けも行います。

② サブゼミ（月曜 6 限、木 5 限）

月曜 6 限では、『金融論』（福田慎一）を輪読し金融機関の役割や仕組みについて基本的な知識を身につけました。

木曜 5 限は、理論ゼミとし、希望者がより発展的な経済理論について学びます。先生にも出席いただき、複雑な箇所について詳しい解説をしていただきます。本年度は、『動学マクロ経済学　成長理論の発展』（二神孝一）を輪読した後、より細かいテーマについて個別の論文を選び、輪読しました。

③　パートゼミ

各自不定期。

④　インゼミ

計画中。

⑤課外活動

希望者は「ジュニア・アカデメイア」など。

⑥三田祭

グループに分かれて三田祭論文に参加。

⑦夏休み

グループごとに三田祭論文を進める。

⑧合宿

2 泊 3 日のゼミ合宿で、三田論中間発表と卒論中間発表を行います。

⑨授業

とくになし。

⑩経費

年会費 1,000 円
合宿費 25,000 円（例）

6.　ゼミ試験対策で使用した参考書

『入門マクロ経済学』（中谷巌）
例年、マクロ・ミクロ・微分積分等日吉の必修科目で学ぶ基礎的な知識を問われます。

7.　先生が担当している講義

金融資産市場論 ab（木 3）/定量的マクロ経済学b（火 3）/日本経済概論(PEARL、火 1)

8.　ゼミHP・SNS

HP: http://economicssssss.wixsite.com/kobakei
Twitter: @kobayashilabo

9.　連絡先

外ゼミ代表：小林陸(k.riku0513@keio.jp)
入ゼミ担当：原独（yurieskyhara@gmail.com）
松本花野
(villefort.goldfish@gmail.com)

櫻川昌哉研究会

―金融・マクロ経済学―

1．研究分野

マクロ経済学と金融。最近は、バブルの生成、発展、崩壊に至るプロセスを理論、実証の両面から分析している。私の最新の研究を知りたい人は、「なぜ金融危機は起こるのか 金融経済研究のフロンティア」（東洋経済新報社、櫻川昌哉・福田慎一編）の第 1 章を参照されたい。

2．学生への要望

1）日本人は議論の仕方が下手だと言われている。国内にあっては、相手の立場を慮りすぎて、言いたいことも言えずに悶々とすることが多い。国際会議にあっては、この修練不足がたたって、言い負けてしまう。
このゼミを通じて、議論の仕方を学んで欲しいと思う。ここでいう議論の仕方というのは、周囲の人の理解を得ながら、どうやって自分の意見を主張していくかである。周囲と意見が合わないとき、自説を主張すると、周囲の反感を買いがちであるが、この問題をどのように解決していくのか、各自で考えていきたい。
2）ジャーナリスティックではなく経済理論に基づいた論理的な思考を身に着けてほしい。
3）英語の習得に前向きな学生を歓迎する。

3．選考について

①募集人員：8 名程度
②選考内容：
Ⅰ、レポート課題
①今後、日本が行うべき金融政策
②今後、日本が仲良くすべき国を 3 つ挙げよ(経済的観点から論理的な理由を述べること。現在友好的な国も含む)
③今後起こるバブルの経緯(国、資産の種類は問わない)　以上から一つ選択して 2000～4000 字で論じよ。(2016 年度の例　2017 年度は変更の可能性あり）
Ⅱ、面接
Ⅲ、成績表面接時持参（参考程度）

4．ゼミ員構成

4 年生(13 期生)：11 人(男子 9 人、女子 2 人)
3 年生(14 期生)：9 人(男子 6 人、女子 3 人)
留学生無し

5．活動紹介

①ゼミ（金曜 4 限、5 限）
ゼミ活動では、国際金融についての本を輪読・プレゼンし、またそれとは別に金融や社会問題（少子化対策や所得格差是正など）について毎回一つテーマを選びゼミ員でディスカッションを行います。議論を通じて、自分達で疑問点を見つけ、考える力や本質を見抜く力を身に着けることを目的としています。少人数であるため、発言やプレゼンを行う機会が圧倒的に多く、自分を成長させる機会が多く得られることが出来ます。
② サブゼミ
サブゼミはありません。
③ パートゼミ
パートゼミはありません。
④ インゼミ
秋学期に東大・一橋とのインゼミを行います。
⑤課外活動
特にありません。
⑥三田祭
三田祭論文を執筆します。
⑦夏休み
三田論や ISFJ の論文発表に向けて話し合いをします。合宿も夏休みに行います。
⑧合宿
昨年は大阪で実施
⑨授業
専門外国書購読（春学期三田、金曜日 2 限）
国際金融論 a　（春学期三田、金曜日 3 限）
⑩経費
年会費はありません。昨年の合宿費は 25,000 円程度

6．ゼミ試験対策で使用した参考書

指定の参考書等は特にありません。選択するレポート課題の内容で変わります。

7. 先生が担当している講義
専門外国書購読（春学期三田、金曜日 2 限）
国際金融論 a　　（春学期三田、金曜日 3 限）

8. ゼミHP・SNS
http://seminar.econ.keio.ac.jp/sakuragawa/

9. 連絡先
外ゼミ代表　佐藤昌勇
　メールアドレス　masayong3@gmail.com
入ゼミ担当　　久保瞭也
　メールアドレス　kuboryoya@keio.jp
内ゼミ担当　　吾郷研太
　メールアドレス　kenatsanta@keio.jp

佐藤祐己研究会
―金融論・応用ミクロ経済学―

1. 研究分野

私の専門は、金融論・ファイナンスです。主に、情報の経済学をファイナンスに応用し、銀行やヘッジファンド等の機関投資家がどのように行動し、資産価格や市場流動性にどのような影響を与えているか（例：資産バブル、株価モメンタム、金融市場の脆弱性）を研究しています。詳細は、
https://sites.google.com/site/yukisatoecon/
を参照してください。

本研究会のテーマは、国内外の金融システムの現状と課題を、経済学のロジックを踏まえて分析することです。株式市場や債券市場を分析するためには、マーケットの作動特性（特に価格メカニズム）や、プレーヤーである個人投資家・機関投資家のポートフォリオ選択行動をしっかり理解することが不可欠です。同様に、銀行システムを分析するには、銀行のそもそもの存在意義や、プレーヤーとしての預金者・銀行・借り手企業・規制当局のインセンティブ構造を理解することが必要です。

こうした理解に役立つツールとして、3 年生の春学期に、ミクロ経済学ベースの金融・ファイナンスの基礎理論を学びます。ゼミ生がテキスト（未定）を輪読し、内容をプレゼンして、それをもとに皆で議論するのが基本スタイルになると思いますが、トピックの難易度に応じて私が講義する場合もあります。3 年生の秋学期には、少人数のグループに分かれて、オリジナルのテーマで三田祭論文を執筆します。4 年生は、卒業論文の執筆が主な活動です。

本研究会は今年 2 年目の新しいゼミなので、当然「恒例行事」などまだなく、ゼミの進め方は自由です。ゼミ合宿やインゼミ等を行うか否かを含め、ゼロベースでゼミ生と話し合って決めていきます。

2. 学生への要望

金融・ファイナンスに興味があり、それらについて浅薄な議論をするのではなく、経済学に基づいてじっくり考え、議論し、理解したい学生を望みます。

本研究会は現実と理論のバランスを重視しますので、数理モデル<u>だけ</u>に興味がある人にはお勧めしませんし、理論にアレルギーがある人にも向いていません。

与えられたことをただこなすのではなく、自発的に考え、積極的に議論に参加し、独創性のある研究をする意欲を持った学生を希望します。

3. 選考について

①募集人数：9 名～12 名。

②選考内容：基本的には、面接で選考します。ただし、応募人数が一定数を超えた場合には、試験（ミクロ経済学中心、持込不可）を行う場合があります。その場合、事前に応募者に連絡します。

③選考基準：面接と成績表により、総合的に判断します。

4. ゼミ員構成

3 年生　16 名(男 12 名、女 4 名)(留学中 1 名)

5. 活動紹介

① ゼミ（月曜 4・5 限）

本ゼミではテキストや資料の輪読をしている。あらかじめ配分された範囲について、毎回 4～5 人の担当者が 1 人ずつレジュメを作成した上で発表し、それに対し先生に随時解説をしていただいている。

② サブゼミ（水曜 4・5 限）

春学期に 3 年生のみで集まり行われる。本ゼミの補足を目的とし、佐藤先生が指定したテキストまたは自分たちで選んだテキストの輪読を行う。今年度の 1 例としては、佐藤先生の解説のもと The Big Short という映画を観て、金融に対する知識を深め議論を行った。

③ パートゼミ

秋学期に三田祭論文のパート毎、自主的に集まり研究・執筆を行う。

④ インゼミ

12 月に早稲田大学の広田真一ゼミとインゼミを行う。

⑤課外活動
・経ゼミ主催のソフトボール大会への参加
・12 月に行われる証券ゼミナール大会に参加
⑥三田祭
3 つのパートの内、1 パートが論文発表を行う。
⑦夏休み
夏休み前に三田祭論文に向けたパート分けをし、夏休み中はパート毎に集まり、研究・執筆を行う。
⑧合宿
9 月に 2 泊 3 日で合宿を行い、各パートが中間発表を行う。
⑨授業
なし
⑩経費
経ゼミ費、輪読書の購入費、合宿費

6. ゼミ試験対策で使用した参考書
なし

7. 先生が担当している講義
・日本経済概論(日吉・秋・月曜日 2 限）
・企業金融論 a・b(三田・春秋・火曜日 3 限)
・金融論 b(三田・秋・木曜 2 限)

8. ゼミHP・SNS
Twitter アカウント : @keio_satozemi

9. 連絡先
外ゼミ代表 由本達也
zenfone0571@gmail.com
内ゼミ代表 下山永遠
towamimi@hotmail.co.jp
入ゼミ担当 横井隆広
cartun0102@gmail.com

中妻照雄研究会

―フィンテックとデータサイエンス―

1.　研究分野

中妻照雄研究会（以下、中妻ゼミ）では、フィンテックとデータサイエンスを学んでいます。フィンテック(fintech)は finance + technology を意味する造語で、金融サービスに最新の情報通信技術を融合させて新しい価値を創造することを目指す学際的な研究領域です。一方、データサイエンスは、ベイズ統計学や機械学習などの手法を駆使して膨大なデータ（ビッグデータ）から有用な情報を取り出して実務に役立てることを目指す学問です。中妻ゼミの目標は、ゼミで学んだ知識を生かしてビジネスの世界で即戦力として活躍できる優秀な人材を輩出することです。

中妻ゼミでは、データを使った実証分析全般の中から比較的自由に研究テーマを選べます。3 年生で三田祭論文を、4 年生で卒業論文を単著で執筆します。一人で学術的な論文を書き上げるのは大変労力のかかる作業ですが、学生の皆さんにとって貴重な経験となるでしょう。

中妻ゼミの活動の中心は、本ゼミ、サブゼミ、パートゼミです。本ゼミは講義の一環として行われ、学生による学術論文の報告とディスカッションで構成されます。サブゼミへの参加自由ですが、有志で集まってベイズ統計学やプログラミングなどの勉強会を行っています。パートゼミでは、グループ（パート）に分かれて専門分野を学習し、三田祭論文のための研究を行います。

今年度に設置されたパートは、株式や債券などに対する投資戦略と各種のリスク管理手法を学ぶアセットマネジメント・パート、企業の資金調達手段の選択や企業価値算定などのコーポレートファイナンス（企業金融）全般を勉強するコーポレートファイナンス・パート、そして、最新のデータ分析の手法を勉強し、それを様々な分野のデータに対して応用するデータサイエンス・パート、の 3 つです。また希望に応じて新たなパートを作ることもできます。

さらに新歓合宿や夏合宿、他大学とのインゼミ、OB・OG を招いての交流会、実務家を招待しての講演会など様々なイベントも行う予定です。

2.　学生への要望

中妻ゼミでは好奇心旺盛で常に向上心を持って自発的に勉学に勤しむ学生諸君を求めています。

中妻ゼミを志望する学生は、金融に関する基礎的概念（金利、債券、株式、証券市場、外国為替レートなど）を理解していることが必須です。

特にデータサイエンスに関心がある人は、数学とプログラミングの勉強をしっかりと行う心積もりで中妻ゼミに参加してください。そして、日吉で学んだ統計学や計量経済学概論の内容をしっかりと理解しておいてください。

企業の財務分析を学ぶ上では高度な数学は必要ありませんが、企業価値などの計算で必要になるので表計算ソフトの使い方は最低限勉強してください。当然、財務諸表の数字の意味をきちんと理解できるだけの会計に関する知識を身につけることも必要です。

今日の世界では、実務においても研究においても、英語が堪能であることが要求されます。中妻ゼミでは英語で三田祭論文や卒業論文を執筆するぐらいの気概のある人を歓迎します。また、大学院進学、特に海外への留学を希望する人も大歓迎です。

3.　選考について

① 募集人員：15 名程度

② 選考内容：事前に提出する学習計画書と入試当日に行われるレポート課題の報告および面接で決まります。

③ 選考基準：学習計画書、レポート課題、面接などでファイナンスに関する基礎知識、研究会に参加する目的意識、人物などを総合的に判断して可否を決定します。

4. ゼミ員構成
4 年生：12 人
(留学中1人、ダブルディグリー生 3 人)
3 年生：15 人
(留学予定者2人、ダブルディグリー生1人)

5. 活動紹介
① ゼミ
中妻照雄研究会はビジネスの世界で即戦力として活躍できる『高度グローバル人材』の輩出を目指しています。我々は世界で活躍するための武器として、現実を読み解く力『データサイエンス』と世の中の仕組みを理解する『ファイナンス』の学習に力を入れています。さらに国際社会で不可欠な「英語で学び、英語で発信する」能力も向上させるために、英語の学術論文のプレゼンテーションや英語での論文執筆なども行っています。また課外活動に対しても非常に理解のあるゼミです。
② サブゼミ
週に 3 時間ほど有志で勉強会を開いています。
③ パートゼミ
以下の四つのパートに分かれています。
コーポレートファイナンス（企業金融）パート
アセットマネジメント（資産運用）パート
ベイズ統計学・データサイエンスパート
人工知能・機械学習パート
④ インゼミ
なし
⑤課外活動
Bloomberg Investment Competition
CFA Research Challenge
（協賛：SMBC 日興証券、City Bank など）
Fintech Summit
（協賛：日経新聞、金融庁など）
⑥三田祭
中妻研究会では、3 年生で三田祭論文を単著で執筆します。
⑦夏休み
各種課外活動や投資銀行・コンサルファームでのインターンを通じて、各ゼミ生が投資・企業分析・フィンテック・コンサルティングの最前線を学び、情報を共有しています。
⑧合宿
4 月の新歓合宿（今年は草津温泉）
9 月の夏合宿（今年は箱根温泉）
⑨授業
本ゼミ：金曜日4・5限
⑩経費
年会費は特になく、合宿費は年によって変動

6. ゼミ試験対策で使用した参考書
「道具としてのファイナンス」石野雄一
「金融工学入門」ルーエンバーガー

7. 先生が担当している講義
自由研究セミナー（春・秋（日吉）、水曜日 4 限）、統計学 II (PEARL)（春（日吉）、木曜日 1 限）、PROBABILITY AND STATISTICS a・b（春・秋（三田）、火曜日 2 限）

8. ゼミHP・SNS
公式サイト：https://nakatsuma.com/
Facebook：http://bit.ly/2qMyIn6
Twitter：
https://twitter.com/nakatsuma_2018

9. 連絡先
外ゼミ 千光寺一輝
入ゼミ 高橋朱子、夏悠寧
質問メール：
nakatsuma.recruit.team@gmail.com

前多康男研究会

―金融経済学，マクロ経済学―

1.　**研究分野**：金融経済学，マクロ経済学
わが国の経済は、今まさに激動の時代にあります。なかでも、金融の世界においては、情報技術の高度化、経済のグローバル化を受けて、目覚ましい進歩を遂げています。前多研究会では、ミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学，などのあらゆる分野の経済学を総動員して、金融の研究を深めていきます。経済学を駆使して金融分野の過去と現在の様々な現象を分析し、未来への課題とそれに対する自分なりの答えを見つけ出す醍醐味を味わってもらいたいと思います.
研究会の運営方針としては、ゼミ生の自ら学ぶ自主性に磨きをかけるため、私は可能な限り「聞く」スタンスをとっています。私の役割は、学生が自由闊達な活動を行うための「場を提供する」ことであり，各ゼミ生が地力を自ら求めて最大限まで伸ばしてもらいたいと願っています。
4 月に入ゼミしてまず、ゼミにおいて研究するテーマを決め、パートと呼ばれるグループに分けます。このパートごとの自主的な活動がゼミ活動の主軸になります。今年度はパート毎に日経ストックリーグに参加しました。来年度も同様に参加の予定です。「個」の力の基礎となる方法論は，全員が一同に参加する本ゼミにおいて，会計学，金融，ファイナンス，マクロ経済学のテキストを用いて身に付けます．これらの各ゼミが有機的な相互作用を及すことで，ゼミ全体の教育効果を狙っています．ゼミ生には、自分を発揮できる各分野で、社会の先導者となってもらいたいと願っています。

2.　**学生への要望**
　経済学を学ぶにあたっては明確な問題意識を持ってください.

3.　**選考について**
- 募集人員：15 人程度（A 日程），B 日程はA日程で募集人数に達しない場合に行う.
- 選考内容：マクロ経済学に関する筆記試験，面接，成績表.
- 選考基準：経済学に関して基本的な知識を有し，かつやる気のある学生を希望します.

4.ゼミ員構成
3 年生 13 名(男 9 名、女 4 名)
4 年生 23 名(男 15 名、女 8 名)

5.活動内容
①　本ゼミ（水曜4・5限）
前多康男研究会では、金融経済学およびマクロ経済学を研究対象としています。本ゼミでは、ゼミ生を少人数のグループに分け、日経ストックリーグに参加することで、企業価値評価を行い、グループごとにテーマに沿ったポートフォリオを運用します。日経ストックリーグへの参加は、プレゼンやディスカッションのスキルの向上のほか、理論の実践によりさらに充実した研究活動を行うことができます。

②　サブゼミ…なし

③　パートゼミ…なし

④　インゼミ…なし

⑤　課外活動…なし

⑥　三田祭…参加

⑦　夏休み
九月の第一週に、慶應の付属高校向けに模擬ゼミが実施されます。夏休み中には、模擬ゼミの準備や予行練習を行います。

⑧　合宿
夏休みに1回、富士みどりの休暇村にて合宿を行います。
⑨　授業
ゼミ必修…月曜3限のマクロ中級

⑩　経費…グループごとに決める

6.ゼミ試験対策で使用した参考書

『マクロ経済学入門』前多康男著

7.先生が担当している講義
マクロ経済学中級Ⅰa (三田、月曜日3限)
APPLIED FINANCE(PCP) (三田、火曜日3限)
マクロ経済学初級Ⅱ(日吉、木曜日1限)

8.ゼミ HP

なし

9.連絡先
外ゼミ代表　関晴正
連絡先　spi.haru@gmail.com
内ゼミ代表　同上
連絡先　　同上
入ゼミ担当　大沢かおり
連絡先　kaori.osawa0630@gmail.com

国際経済学

秋山裕研究会

大久保敏弘研究会

嘉治佐保子研究会

木村福成研究会

駒形哲哉研究会

白井義昌研究会

竹森俊平研究会

秋山裕研究会
―経済発展論・計量経済学―

1. 研究分野
経済発展論は、国際経済分野の1つです。国際経済分野は、グローバルな経済のシステムを、構造的かつ総合的に扱う分野です。その中で、経済発展論は、一国が途上国から先進国まで発展するメカニズムに焦点を当て、人々の幸福度や所得水準、および生産性の向上に関する諸理論とそれらを用いての政策論を中心とした領域になります。国や地域は限定されず、研究にあたっては、国際比較が多用されます。
当研究会では、「経済発展」をテーマとした研究を「計量的分析」を活用しながら行うことを基本としています。「経済発展」は人類の究極の目的であり、先進国でも達成されたとはとても言えません。経済発展を促進するために我々は何をすべきなのかという「課題」を、「経済理論」と「経済統計」をバランスよく組み合わせることによって探求していきます。

現実の経済問題を課題とするため、実証分析が不可欠です。研究の対象とする国・地域がどのような「経済構造」になっているのかを「経済理論」に基づいた経済モデルによって明らかにし、それを手掛かりとして具体的な経済政策を立案していきます。

経済発展論については、『経済発展論入門』(秋山裕著)東洋経済新報社、をざっと読まれるのもよいでしょう。

ゼミでは三田祭論文の作成などを通じてグループで論文作成について学び、それを基礎に個人で卒業論文を作成していきます。
三田祭には毎年参加していますが、三田祭論文の研究テーマは経済発展に関するものであり、その年の 3 年生を中心に決定します。その際にはゼミ員全員で取り組むに値するテーマ(これまでは、貯蓄、政府、格差、雇用、震災、デフレなど)を選定しています。

卒業論文のテーマは、経済発展に関連し、計量的手法を用いながら分析するものならばどのようなテーマでも構いません。研究対象とする国や地域が限定されることもありません。
研究会は、大学生としての学問の研究成果を卒業論文の形でまとめる場であり、小人数のグループで様々なやり取りを繰り返しながら関心分野について効率的に研究する場です。研究会活動を通じて、互いに切磋琢磨してもらえたらと思います。

2. 学生への要望
経済発展論で用いられる理論や分析手法について、前もって勉強しておく必要はありません。
経済発展論で用いられる理論については、日吉で、「マクロ経済学」と「ミクロ経済学」の基礎部分がしっかり学んであれば問題ありません。
計量的分析を行うにあたっては、「統計学」が必要となります。ゼミでの活動は、計量経済学概論の履修を前提とするものではありません。日吉で「統計学」の基礎部分がしっかり学んであれば問題ありません。
また、計量的分析の際にコンピュータを活用しますが、あらかじめ特別な技能を学んでおく必要はありません。必要となる技能はゼミでの活動の中で自然に身についていきます。
資料・文献にあたるための英語能力が必要となる場合がありますが、日吉で必修単位が履修済みならば問題ありません。
経済発展論は現実の問題を考える領域ですので、書物や新聞などを通じていろいろな問題意識を持っておいてください。

入会にあたって特別に優遇する項目などはありませんが、ゼミでの活動はグループ活動が基本となりますので、自分が持っている優れた面があれば、それを研究会全体の活動に生かしてくれればと思います。

3. 選考について
①募集人員:A 日程 10～15 名、欠員が生じた場合のみ B 日程を実施。
②選考内容:筆記試験 2 科目(マクロ経済学、ミクロ経済学、統計学、英語から 2 科目を事前に選択)と面接。
筆記試験(2 科目計 60 分)は各科目から 10 問ずつ基礎的な理解を問う問題を出題します。解答形式は Multiple choice を予定しています。
面接は 1 人 15 分程度。面接にあたっては、成績表と、事前に記入してもらう面接用資料を、参考として提出してもらいます。また、これまでの成果(学業に関連するものであれば科目・分野などは問いません)があれば、A4 で 1 枚に要約して提出することが出来ます。
③選考基準:選考は学力、意欲、集団での学習における適応力の総合判断です。ゼミの学生が選考に関与することはありません。

4. ゼミ員構成

３年生９名（男７名、女２名）
４年生６名（男５名、女１名）

5. 活動紹介

① 本ゼミ（金曜４～５限）

春学期は、経済発展に関する文献の輪読を行います。今年は『開発経済学』黒崎卓・山形辰史著を輪読しました。毎週２人１組の発表者がテキストの内容を解説し、さらにその内容に関する実証分析の発表を行います。
秋学期は三田祭に向けての発表やそれに関する議論を中心に行います。三田祭後には、卒業論文の中間発表を行うとともに、他の文献についても見識を深めます。

② サブゼミ（火曜５限）

秋山先生のご指導のもと、計量分析について学ぶとともに、学外のコンテストに向けた準備も行います。PC で Excel などの基本操作を学び、回帰分析や産業連関分析の手法、三田祭論文でのパネル作成に必要となる PowerPoint での編集も習得します。また、３～５名程度のチームに分かれて、日本経済新聞社主催の全国学生対抗円ダービーや日経 STOCK リーグに参加し、それらに関する発表・討論を行います。

③～⑤本ゼミ・サブゼミ以外の活動

・オフィスアワー
このゼミの特徴の１つとして週2時限分のオフィスアワーが設置されており、秋山先生に積極的に質問でき、輪読、三田祭論文、学外のコンテスト、卒論の準備を円滑に進めていきます。
・日経円ダービー
円ダービーでは翌月の為替レートの予測を行うため、基本となる理論を学んだ上で、独自の予想方法を考えていきます。
・日経 STOCK リーグ
STOCK リーグでは株式運用について学んだ上で、チーム内で議論を行い、投資テーマを決め、独自のポートフォリオを構築していきます。
・最近の実績
毎年、学外のコンテストに参加し、これまで数多く、入賞しています。円ダービーでは、2010、2012、2013、2014 年に優秀賞を、STOCK リーグでは、2008 年と 2011 年に敢闘賞を受賞しています。
・OB・OG 会
ゼミの OB・OG との交流も盛んで、毎年 10 月に OB・OG 総会も開催しています。
※例年、パートゼミは設置していません。ただし、三田祭論文の作成にあたって、期間限定パートゼミにあたるグループを編成し、作業を行います。
※また、インゼミについても例年行っていません。これはそれに代わるものとして学外のコンテストに参加しているためです。

⑥三田祭

３年生を中心に全員で１つのテーマに関する論文を作成し、三田祭で発表します。現実の問題に学生らしく果敢に取り組むとともに社会に通用する水準を持った研究内容も兼ね備えた発表を目指しています。

⑦夏休み

基本的にはグループ単位で三田祭論文を進めていきます。各々のゼミ以外の活動も尊重するため、全員で集まるのは合宿のみです。

⑧合宿

夏休み（例年、８月下旬あるいは９月上旬）に三田祭論文の中間発表を行うとともに、スポーツなどのレクリエーションを通じてゼミ生間の親睦を深めます。

⑨授業

秋山先生の担当科目である『経済発展論a・b』は必ず履修します。

⑩経費

輪読文献費、レジュメの印刷代、合宿費、三田祭参加費などです。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

筆記試験は基礎的な理解を問う問題ですので難易度の高い特別な参考書は必要ありません。筆記試験の出題範囲および出題例については、ゼミのHPに掲載しています。

7. 先生が担当している講義

統計学Ⅰ・Ⅱ（日吉、水曜日３、４限）
計量経済学概論（日吉、春学期月曜日２限）
経済発展論a・b（三田、金曜日３限）

8. ゼミHP・SNS

http://seminar.econ.keio.ac.jp/akiyama/

9. 連絡先

外ゼミ代表　内藤　健太
内ゼミ代表　浅野　皓太郎
入ゼミ担当　岡田　猛
　　崔志　允
akiyama-nyuzemi@econ.keio.ac.jp

大久保敏弘研究会

―国際経済学、国際貿易、海外直接投資、空間経済―

1.　研究分野

国際貿易論、海外直接投資、空間経済、地域経済。私自身の具体的な研究内容は一連の論文を参照。

2.　学生への要望

上記の研究分野をしっかり学び、研究を行いたい学生のみを募集する。私の研究内容に直結した研究に比重を置きたい。したがって、私の研究内容をある程度理解の上、応募してもらいたい。
1, 2 年時にミクロ、マクロ、統計で良い成績をおさめていることが必要最低限である。特にミクロ経済学と統計学(計量経済学)、数学(特に微分積分、解析学)を用いて研究を行うため、応募に際して、既に十分な力量があることを求める。また、大量のデータ分析やデータ収集といった地道で精緻な作業を厭わないことも大いに求められる。3 年以降も意欲的に国際貿易、計量経済学、ミクロ経済学、都市経済、経済地理などを履修し積極的に学ぶ意欲を求める。
就職活動の一環として、あるいは単位目的での応募はしてほしくない。サークル感覚での活動も困る。ゼミはあくまでも大学の授業であり、研究活動の場であるため、過度な就職活動や個人の都合の優先は困る。ゼミ活動は学生の自主性を重んじたい。教員に様々な場面で依存的なのは困る。このため、厳しい態度で臨む。大学院進学希望者を歓迎する。

3.　選考について

①　募集人員：8名
②　選考内容：ミクロと統計のテスト

選考基準：成績。GPA がある程度以上(例年 2.5～3 以上)、再履修がない、テストの成績。面接。

4. ゼミ員構成

3年生：13人（男子10人女子3人）
4年生：6人（男子6人）

5. 活動紹介

①　ゼミ（水曜4、5限）

春学期は学生を中心に教科書の輪読発表を行います
教科書の輪読発表では、担当者が各章をプレゼンテーションする形式で進め、疑問点をゼミ員で議論していき、理解を深めていきます
秋学期は学生で三田論の準備をします（論文執筆に関して教授からの指導を頂きます）

②　サブゼミ（月曜4、5限）

外部からの先生をお呼びして、輪読発表を行いました。ゼミ員が内容を決めることもできます。

③　パートゼミ（なし）

④　インゼミ（未定）

⑤課外活動

未定

⑥三田祭

グループに分かれ、三田祭論文を執筆していきます。

⑦夏休み

三田祭に向けて、グループごとに活動します。また、ゼミ生での飲み会や OBOG 会も開催されます。

⑧合宿

今年度は夏季ゼミ合宿を2泊3日で長野県にて行いました。

⑨授業

貿易政策、国際貿易論、計量経済学、PCP

⑩経費

ゼミ費として 5000 円徴収させていただきます。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

１、２年生の時に用いた統計とミクロの教科書

7. 先生が担当している講義

貿易政策、PCP

8. ゼミHP・SNS

ホームページ「大久保敏弘研究会」
http://seminar.econ.keio.ac.jp/okubo/index.html

公式ツイッター　@OkuboSeminar

9. 連絡先

外ゼミ代表:小笠原浩祐
gaswara1125@gmail.com
内ゼミ代表：川端一生
p.bass.setagaya@gmail.com
入ゼミ担当: 相良駿 igooduma@gmail.com

嘉治佐保子研究会 Sahoko KAJI's seminar

—Open Economy Macroeconomics・Economies of Europe—

1. Field of Study　(研究分野)

Study and research in this seminar centre on Open Economy Macroeconomics and Economies of Europe.

International economics can be broadly divided into international trade and international finance. Study and research in this seminar fall in the latter category, emphasising its macroeconomic aspects. This is why we say they centre on Open Economy Macroeconomics; macroeconomics that explicitly takes into account the interdependence of different national economies.

First we learn about the economic variables and or concepts introduced when the analysis moves from a 'closed economy' to an 'open economy', such as exchange rates, balance of payments and interest rate parity. Then we apply the knowledge to real world issues related to international interdependence and its effect on economies. Particular attention is paid to the European economies and what the rest of the world can learn from the European experience.

2. Expectations（学生への要望）

Students are expected to think independently and scientifically. In preparing for this seminar, they should spend their Hiyoshi years training themselves to ask questions, acquire information and find answers on their own. Applicants should pay attention to events happening around the world daily, and expose themselves to different viewpoints, comments and interpretations. In terms of language skills, a second language in addition to English is strongly encouraged.

Everything in this seminar is conducted in English. We welcome all students, including those who do not have any experience of living abroad, and those that participate in the faculty of economics' Professional Career Programme (PCP), the Double Degree programme with Sciences Po and PEARL.

Students who are interested in international trade or development would want to consider joining seminars specializing in those subjects. Having said that, the topic of the graduation thesis can be freely chosen, as long as it is related to economics and is analysed using economic logic.

3. Entrance examination（選考について）

①Admission quota:
Approximately 10

②Examination
Written examination:
macroeconomics and
microeconomics, in English
Oral examination:
With the professor and students

Please bring a copy of your transcript
(which will NOT be returned)

③Admission criteria:
Good, solid knowledge in basic micro and macro economics
Fondness and habit of independent thinking
Eagerness to learn different
languages and viewpoints

4. ゼミ員構成

4 年生：男子 10 人　女子 2 人（他学部1人、留学生4人）
3 年生：男子 10 人　女子1人（他学部1人、留学生4人）

5. 活動紹介

① ゼミ（月曜4限、月曜5限）

嘉治ゼミは少人数の定員だからこそ実現できる自由でアットホームな雰囲気の下、全て英語で国際マクロ経済学・欧州経済論を学びます。時には、本ゼミやサブゼミ以外でも自主的に集まって勉強会を開きますが、飲み会や合宿、バーベキュー、経ゼミのソフトボール大会、スポーツ大会など、息抜きもちゃんとしています。そんな嘉治ゼミでの時間は、皆さんの自主性次第で非常に充実したものとなることを約束します。来年、みなさんと共に学べることを楽しみにしています。

② サブゼミ（月曜6限）

開催日時は毎年ゼミ生で話し合って決めます。ここでは論文コンテストに向けての研究や、日頃のゼミ内容の復習などを同期で行います。

③ パートゼミ

特にございません。

④ インゼミ

年に 2 回関西学院大学とインゼミを開催しています。

⑤課外活動

論文コンテストにエントリーしています。

⑥三田祭

三田論の発表があります。

⑦夏休み

インゼミがあります。

⑧合宿

毎年開催をゼミ生が決めています。

⑨授業

ゼミ必修の授業はございません。

⑩経費

経ゼミ費の 2000 円以外特に出費はございません。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

公務員試験用のマクロ経済学の教科書など

7. 先生が担当している講義

OPEN ECONOMY MACROECONOMICS a/b（春（三田）土 4・5）、FINANCE, POLICY AND THE GLOBAL ECONOMY（秋（三田）土 4）、INDEPENDENT STUDY（秋（三田）土 5）

8. ゼミHP・SNS

ゼミ HP: http://seminar.econ.keio.ac.jp/kaji/
Twitter: @kajizemi

9. 連絡先

外ゼミ代表　中村達郎
tatsu.casd7@gmail.com
入ゼミ係　堀中洸貴・遠藤優介
horinaka.koki@gmail.com
yusuke.endo14@gmail.com

木村福成研究会

―国際経済学・開発経済学―

1.　研究分野

本研究会では、国際経済学のうち実物面を扱う国際貿易論と、発展途上経済を分析する開発経済学を、理論と実証・政策研究の両面から学んでいく。

北東アジアと東南アジアを含む東アジアは、少なくとも製造業に関する限り、世界でもっとも進んだ生産工程・タスク単位の国際分業、すなわち「第 2 のアンバンドリング」が展開されている地域となっている。生産ネットワークのメカニズムは、企業のビジネスモデルを大きく転換させ、また発展途上国の開発戦略にも根本的な変革をもたらしている。またそれは、「21 世紀型地域主義」に先導される新たな国際経済秩序の構築へとつながるものでもある。経済統合の深化、開発格差の是正、持続的経済発展の実現という3つの目標をいかにして同時に達成していくかが、当面の課題として認識されるに至っている。

本研究会では、国際経済学と開発経済学についての基礎的理解を土台とし、現代の日本経済、東アジア経済、世界経済が抱える諸問題について議論していく。

研究会の活動内容は、経済学を踏まえつつも大いに実践的である。教材は基本的に英語文献のみを使用し、またパソコンも駆使する。論理的な文章の執筆、説得力のあるプレゼンテーションを重視する。使用言語は英語でも日本語でもよいものとする。研究者・エコノミストや国際公務員を希望する者はもちろん、広く国際的な分野で活躍するビジネスマンを目指す諸君にとっても、有用な教育サービスを提供する。この教育リソースを有効に活用してくれる元気な学生諸君の参加を望む。

私の最近の主要研究テーマは、国際的生産・流通ネットワークのメカニズム解明、東アジア・アジア太平洋の経済統合戦略などである。たとえば、『国際経済学入門』(2000 年、日本評論社)、『TPP の期待と課題:アジア太平洋の新通商秩序』(共編著、2016 年、文眞堂)、『東アジア生産ネットワークと経済統合』(共著、2016 年、慶應義塾大学出版会)、『国際経済学のフロンティア:グローバリゼーションの拡大と対外経済政策』(共編著、2016 年、東京大学出版会)などを参照してほしい。

また、ASEAN および東アジアの経済統合を推進するためにジャカルタに設立された国際機関、東アジア・ASEAN 経済研究センター(ERIA)のチーフエコノミストも務めている(http://www.eria.org)。

詳しい履歴・業績は学部ホームページ(http://web.econ.keio.ac.jp/staff/fkimura/)を参照されたい。

2.　学生への要望

日吉で経済学をしっかりと勉強してきたとか、英語を鍛えたとか、コンピューターに熟達したとかいうことは、将来必ず役に立つ時が来るだろう。しかしそれ以上に是非やってきてほしいことは、国際経済・開発経済、あるいはもっと広くグローバル化する国際社会が抱える諸問題について関心を持ち、新聞に目を通し、本をたくさん読むことである。できれば経済学だけでなく、その他の社会科学・人文科学も広く勉強して、国際人となるにふさわしい真の教養を身につけてほしい。誰の意見であれ鵜呑みにすることなく、自ら考え、自ら調べ、自ら行動する人間になることが、最も大切である。

野心的な PEARL 生、PCP 生も受け入れる予定。また、海外留学を計画している学生、SciencesPo ダブルディグリーの学生も歓迎する。

3.　選考について

①募集人員:A 日程のみ実施する。募集人員は 16 名程度とする。ただし、SciencesPo ダブルディグリー学生のみは別枠とする。

②選考内容:A 日程選考日当日、小作文と面接を行う。小作文は、「経済活動あるいは経済政策のグローバル化に関連する問題を 1 つ取り上げ、その解決に向けて経済学はいかに役立ちうるか」という問いに答える形で、当日1時間半の時間内に執筆してもらう (持ち込み不可)。面接は、個人もしくはグループで行う。

③選考基準:小作文 50%、面接 40%、日吉での成績 (成績表のコピーを持参すること) 10%のウェイトで得点順に選考する。知識、プレゼンテーション能力はもちろん重要であるが、それ以上に自らの頭で考えているかどうかを重視する。

4. ゼミ員構成

3 年生 25 名(男 13 名、女 12 名)(留学中 7 名)

4 年生 20 名(男 13 名、女 7 名)(留学中 3 名)

5. 活動紹介

① 本ゼミ(水曜 4・5 限)

春学期は国際貿易論と開発経済学の 2 冊の教科書(洋書)を輪読して基礎固めを行います。サブゼミで学んだことを踏まえたうえで、本ゼミはプレゼン形式で進行します。先生から的確なアドバイスやコメントを頂いて疑問点を解決したり、より深い議論を交わしたりすることで理解を深めます。秋学期には、春学期で学んだ理論をもとに、より現実的な問題やテーマを扱った論文や文献を読み込んでゆくことで、実証・政策研究を学んでいきます。春秋ともに毎回の本ゼミは CG(Chairman Group)を中心に進められます。CG とは担当箇所のレジュメ作成、議論の司会進行役のことであり、3・4 年生合同でグループを組みます。この CG を通して、我々木村研究会は自己のプレゼンテーション能力の向上を図るとともに、先生の鋭い指摘に対応できる能力を養っています。

② サブゼミ(月曜4・5限)

春学期は本ゼミに備えて、教科書の内容の基礎固めを行います。教科書の範囲をゼミ員が各自予習したうえで議論しあい問題を解決します。秋学期にはこの時間をパート論文作成などに充てます。

③ パートゼミ

パートごとの集まりは主に三田祭に向けて行われ、秋学期の前半にかけて論文を執筆します。

④ インゼミ

塾内では商学部の安藤ゼミ、また一橋大の石川ゼミや横浜国立大の清田ゼミともインゼミを行います。

⑤課外活動

ISFJ 日本政策学生会議への参加など、課外活動も積極的に行われています。

⑥三田祭

貿易・中間・開発パートに分かれ論文を執筆し、三田祭期間に発表を行います。

⑦夏休み

希望者のみの参加ですが、一週間ほど東南アジアにスタディーツアーに行きます。

⑧合宿

新歓合宿と夏合宿、毎年 2 回行われます。3 年生は夏合宿までに個人小論文の執筆を課せられ、合宿中に各自発表します。

⑨授業

必修はありませんが、木村先生が担当し、ゼミとの相乗効果を期待できる国際貿易論(水曜 2 限)や PCP の授業を履修するゼミ員が多いです。

⑩経費

教科書代、ゼミ費(レジュメのコピー代に使用)、合宿費

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

事前に発表された小論文課題から自身の論文テーマを決め、各自内容に合わせた参考図書を探します。面接は主に小論文をもとに行われますが、関連する時事問題なども予習しておくと良いです。

7. 先生が担当している講義

国際貿易論(水曜 1・2限@三田 517 教室)

8. ゼミHP・SNS

http://seminar.econ.keio.ac.jp/kimura/

9. 連絡先

外ゼミ代表 中山栞里

内ゼミ代表 板倉圭吾

入ゼミ代表 江藤詩依子

kimura.fukunari.seminar@gmail.com

駒形哲哉研究会

―東アジア・中国経済論―

1.　研究分野

（1）担当者の研究分野：中国経済論、地域経済論、経済体制論

中国経済は、計画から市場への移行と途上国の経済発展という二つの側面を持っています。前者については終わりが近づきつつも、中国のもつ空間の巨大さと国際経済の環境変化が加わり、固有の経済体制がなお続いています。担当者は、上記の特徴が中国の産業の発展にどのような影響を与えているのか、日本企業が中国との関わりのなかでどのような機会を得、あるいは課題に直面しているのかについて研究しています。研究方法としては、基本的に個々の事実の積み重ねから全体像を組み立て、論理を抽出するというスタンスをとっています（担当者の研究内容については当研究会 HP 等を参照してください）。

（2）研究会の研究分野：東アジア・中国経済論

皆さんが生まれる何年か前に、中国は市場経済の道を本格的に歩み始め、小学校入学前には、中国は「世界の工場」と呼ばれるようになりました。そして現在、中国はモノだけでなくカネの面でも影響力を持ち、さらに中国の経済変動が、先進諸国をはじめ世界の経済に対し、大きな影響を及ぼすようになっています。今や中国国内で発生する様々な問題が世界経済のリスクとなる可能性も高まっており、もはや中国と付き合うかどうかを好き嫌いで決められる段階ではありません。

日中両国はよく「一衣帯水の隣国」と表現されますが、隣国だから考え方が似ていると思うのは全くの誤りです。中国が国際社会でとる行動を理解するには、その政治経済体制や国土の大きさ、多様性がもたらす様々な背景を、歴史的過程とあわせて把握する必要があり、中国経済の分析には相応の訓練を要します。しかし、中国は研究トピックの宝庫で興味は尽きません（研究会の HP で卒業生の卒論テーマを見てください）。ただし、当研究会の目標は「中国通」の養成ではないことを予め強調しておきたいと思います。

研究会では、中国経済（中国を含む東アジア経済）を題材に現実を理解し、その理解を論理的に把握したうえで、その論理を的確に表現する訓練を行うという、大学でなければできない能力の形成を目指しています。また、中国や東アジアの地域経済を研究することを通じて、日本の方向や日本で学ぶ意義を確認することも目的としています。そして当研究会では一人ひとりの進路を見据えつつ、1)一人で頑張る、2)少人数で協力合い頑張る、3)全員で協力し合う、4)異なる環境に対応する――といった各レベルの能力をトータルで高める活動（個人研究／パートゼミ／インゼミ・三田祭／中国研修等）を用意しています。

2.　学生への要望

・研究会の活動を最優先して、積極的に参加する意欲のある方のみ参加を許可します。個人、グループ、全体での活動に、かなりの時間を要するので、とにかく研究会を最優先できることが第 1 条件です。

・研究の必要上、第二外国語などで中国語を学んだ経験があるか、もしくは中国語を学ぶ意思のある方を歓迎します（ただし、入会の必要条件ではありません）。

・台湾経済・中台両岸経済・中国を視野にいれた東アジア経済の研究を希望する方も受け入れます。

3.　選考について

① 募集人員：10 名以内（AB 両日程合わせて）

② 選考内容：
- 志願書の内容についての面接
- 自分の設定したテーマによるプレゼンテーション（5 分程度）、質疑応答

③ 選考基準：中国経済（または台湾・両岸経済）を中心とする東アジア経済の研究を通じてさまざまな問題を探究していく意識と研究会活動を最優先して参加する意欲の有無。

4. ゼミ員構成

3 年生(15 期):10 人(男子 8 人、女子 2 人)
4 年生(14 期):8 人(男子 6 人、女子 2 人、うち留学中 1 人)

5. 活動紹介

① ゼミ(火曜 4、5 限)

春学期では丸川知雄著『現代中国経済』の輪読を行います。具体的には、担当者が決められた教科書内の箇所について、資料を作成したうえで発表を行って、それに対する質疑応答を行ったうえで、その中で出てきた問題点について議論し、より内容への理解を深めています。
秋学期では卒業論文に向けた個人研究の内容について、春学期と同様に議論し、研究の内容について理解を深めるだけでなく、他人の研究領域を題材としたうえでの議論のやり方を学んでいます。

② サブゼミ(水曜 4 限)

後述するマクロ・ミクロパートの作業を中心としたうえで、春学期では、本ゼミでの輪読発表に用いた資料のチェック、秋学期では三田祭論文についての作業などを行っています。

③ パートゼミ(サブゼミと同様)

マクロパートとミクロパートの 2 パートに分かれ、主にサブゼミ内で作業を行っています。
マクロパートでは毎月霞山会という団体に中国マクロ分析と題して中国経済の分析に関する記事を作成・提出しています。当該記事については、「中国 マクロ」と検索頂ければ最初にヒットするので是非ご覧ください。
ミクロパートは、課外活動における企業へのヒアリングのアポイントや、ヒアリング内容をまとめたノートの作成を行っています。

④ インゼミ(10 月)

獨協大学・学習院大学と毎年インゼミを実施しています。

⑤ 課外活動

サブゼミの時間や課外の時間を用いて企業・工場へのヒアリングを行っています。今年は株式会社高井精器等の中小企業を中心にヒアリングを行っています。

⑥ 三田祭

三田祭では例年論文発表を行っています。一昨年は銅賞、昨年は銀賞という結果を獲得しています。
また三田祭期間中に 4 年生は中国への研修旅行を行います。

⑦ 夏休み

夏休みは個人研究と三田祭論文などのチームで作成する論文の作成作業がありますが、その中で、学生はインターンや他団体のイベント、バイトなどにも精力的に参加しています。

⑧ 合宿

9 月の中旬(今年は初頭)に 2 泊 3 日で合宿を行っています。今年については河口湖で行いました。
合宿では夏休み各々の個人研究の成果の発表と、三田祭論文等の論文作成の中間報告を行います。行う内容自体はかなりの分量がありますが、今年は卓球やバーベキューなども楽しみながら、有意義な合宿を行うことができました。

⑨ 授業

月 2 通年「経済体制論 a/b」がゼミ必修授業となっています。

⑩ 経費

年会費は基本的になし
合宿費 23000 円(本年度)

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

日経テレコン(日本経済新聞のデータベース)
RIETI(独立行政法人経済産業研究所)HP

7. 先生が担当している講義

(日吉)月 4 春期「フィールドワーク論」
(三田)月 2 秋期「経済体制論 a/b」

8. ゼミHP・SNS

HP http://komagataseminar.strikingly.com
Facebook
http://www.facebook.com/komagatazemi
Twitter
@komagata_2017

9. 連絡先

内ゼミ代表 林 健裕
kenyu.h.hayashi@gmail.com
外ゼミ代表 竹下 敬太
kekeshi98@gmail.com
入ゼミ担当 菊次 渉
kikuchan_bass@yahoo.co.jp

白井義昌研究会

―国際経済学―

1.　研究分野

国際経済学（国際貿易，開放マクロ経済、国際金融といった分野）の研究トピックスについて 3 年生はグループ研究、4 年生は卒業論文を作成することを目標にする。3 年生のグループ研究の成果は 12 月に他大学（一橋大学経済学部石川城太研究会および古澤泰治研究会、筑波大学国際総合学類黒川義教研究会、国際大学大学院国際関係学研究科柿中真研究室）との合同発表会にて発表する。発表は英語で行う。そのため英文研究報告書を作成することになる。

本研究会での研究アプローチは次のとおりである。国際経済問題を資源配分問題としてとらえ、その経済問題を議論する材料として科学的な問い（Scientific Question）を設定する。適切な理論分析と実証分析を行うことでその問いに答える。

例えば国際貿易の分野では、さまざまな国家や地域で分業の様子はどのように把握できるか？またそれはどのように決まるのか？またどのような枠組みで国際分業決定の仕組みを考えればよいのか？といった大きな問題がある。

研究会の年間スケジュールはおおよそ以下のとおりである。

春学期前半に本ゼミ（水曜日４、５時限）では、実際の英文学術論文を輪読解説することで、研究論文での問いの設定の仕方、またその問いにどのようにアプローチしているかを学ぶ。その過程で論文の読み方、発表の仕方も学ぶ。平行してサブゼミ（水曜日４、５時限以外に 1 コマ設定）にて国際貿易と国際金融についての教科書輪読をして国際経済の基礎知識を学ぶ。経済学者が国際経済の問題について通常どのように考えるかを知っておく事は研究を行ううえでとても重要である。どのような研究をするにせよまずはスタンダードな考え方を参考にしてアプローチすることが研究の設問を設定するためには不可欠だからである。

春学期後半からは 3 年生は研究グループを組み、各グループの研究トピックスと先行研究論文の選定と発表を行う。4 年生は卒業論文で扱うトピックスについての先行研究論文について発表を行う。この過程で研究グループでの共同研究（4 年は卒論）での科学的な問いを見いだすための研究作業をなるべく明確にする。そして夏休み中の作業計画を建てる。

夏休みの最後に開催する合宿では夏休みの研究作業報告を行う。

秋学期は共同研究の研究課題の明確化とそれに答えるための作業結果の精査と繰り返し行い、結果の整理を行う。秋学期半ばから後半にかけて研究結果を実際に報告書にするために推敲する。まずは研究内容のスライド作成が第１目標になる。それに基づいて報告書の作成をする。

報告書の作成は学術論文のフォーマットにならう。（卒論作成も同様）

12 月は英語での研究発表会の準備と発表を行う（卒論は卒論発表を本ゼミで行う）。

1 月は卒論作成にむけてトピックス選定と先行研究文献表の作成を行う。卒論トピックス選定理由と文献表の提出が課題である。（4 年は卒論の最終稿提出）

2.　学生への要望

国際経済に関することであれば研究トピックスは学生の自由意志にまかせたいと考えている。自ら積極的に問題をみつけてその問題にどうアプローチすればよいか相談してほしい。研究をする際に、結論を出す事を急ぐ学生が多いが、まずは先行研究ではどのようなことがわかっているのかを謙虚に学ぶ姿勢を持って欲しい。そして何事にも好奇心を持って欲しい。

大学でこそ学べることは学術研究の手法である。またそれを学ぶことはみなさんが実社会にでたときに一番役立つことだと確信している。

3.　選考について

①　募集人員：12 名程度

② 選考内容：ミクロ•マクロ経済学の内容を英語で出題する筆記試験と面接
③ 選考基準：筆記試験と面接の総合点

4. ゼミ員構成
4 年生(19 期生)：20 人(男子 14 人、女子 6 人)
3 年生(20 期生)：22 人(男子 11 人、女子 11 人) (留学中 3 人 留学予定 1 人)

5. 活動紹介
① ゼミ（水曜 4・5 限）
3・4 年生で行います。春学期前半は、英語の学術論文の輪読・プレゼンを通し国際貿易・国際金融について学びます。春学期後半からは 3 年生は国際貿易・国際金融について学びます。春学期後半からは 3 年生は国際貿易・国際金融・開発経済のテーマ別に班を作り三田論に向けてグループ研究、4 年生は卒論に向けてグループ研究、4 年生は卒論に向けて研究経過を発表し、教師および他のゼミ生からのフィードバックをもらいながら進めていきます。
② サブゼミ（月曜 4・5 限）
3 年生だけで行われ、英語の教科書を輪読・プレゼンします。International Economics という国際貿易・国際金融の教科書を扱います。本ゼミで扱う難易度の高い論文をよりよく理解するための基礎知識を身につけることを目標とします。
③ パートゼミ
国際貿易・国際金融・開発経済のパートごとに班に分かれて三田論を執筆します。各班で適宜集まって研究・作業を進めます。
④ インゼミ
12 月に慶應義塾大学の木村ゼミとのインゼミを行います。また、一橋大学の石川・古澤ゼミ・筑波大学の黒川ゼミと合同での研究発表会があり、英語でプレゼンテーションおよびディスカッションを行います。
⑤課外活動
なし
⑥三田祭
本ゼミで進めてきた三田論の提出及びブースを設けての発表を行います。
⑦夏休み
3 年生は三田論の班で定期的に集まり、研究を進めます。4 年生は卒論の研究を進めます。白井先生からアドバイスをいただきながら研究内容の方向性を定めていきます。
⑧合宿
・新歓合宿 (4 月)：今年は1泊 2 日で 1 日目は河口湖に行きバーベキューを行い、2 日目は富士急に行きました。ソフトボール大会に向けての練習や様々なアクティビティを通じ、3・4 年生の親睦を深めます。
・夏合宿 (9 月)：今年は 2 泊 3 日で草津に行きました。3 年生は三田論の中間発表、4 年生は卒論の中間発表を行います。
⑨授業
ゼミ必修はありません。
⑩経費
年会費：1500 円
合宿費：1 万 5000 円 (新歓合宿)、2 万円 (夏合宿)

6. ゼミ試験対策で使用した参考書
・演習ミクロ経済学 武隈慎一著
・クルーグマンマクロ経済学 ポールクルーグマン著

7. 先生が担当している講義
マクロ経済学初級 I (春(日吉)、木曜日 1 限)、マクロ経済学初級 II (PEARL) (春(日吉)、火曜日 2 限)

8. ゼミHP・SNS
http://shiraizemi2014.jimdo.com

9. 連絡先
外ゼミ代表 遠藤 航輝
koki.e0731@gmail.com
内ゼミ代表 安永 隆
redspecial.taka0729@keio.jp
入ゼミ担当(代表) 田中沙季
sakipooh0321@gmail.com

竹森俊平研究会

―国際経済―

1.　研究分野

三田で教えている専門科目の科目名は「世界経済論」。古き良き時代の遺物で、いまならこんないい加減な科目名は大学が認めない。経済のことなら何を話しても「世界経済論」に収まるのだから、何を話してもいいことになり、筆者にとってまことに好都合だ。

篠原三代平という昔の偉い先生からよく、「竹森君は、どうせ、また面白おかしく本に書くんだろうから」とからかわれた。友人の早稲田大学、若田部昌澄教授からは「日本の経済学者の中でストーリー・テリングの第一人者」という評価を頂いた。友人の評価だからアテにはならないが、気に入っている。そう、筆者の専門は「経済がテーマのストーリー・テリング」である。

経済事件は毎日、無数に起こっている。一連の事件を抽出し、その背後にある「ドラマ」を見つけ、面白おかしく語る。そういうと、他の「真面目な経済学」をしている先生とまるで違うことをしていると思うかもしれない。そんなことはない。

たとえば真面目な経済学の代表、「経済理論」とは、いくつかの仮定を数式の形で提示し、その仮定の間に葛藤や融合を引き起こすことによって「クライマックス＝結論」を論理的に導き出す仕組みである。数人の登場人物の葛藤や融合により、時には「悲劇」、時には「喜劇」が論理的に導き出されるドラマの仕組みと少しも変わらない。

二点補足する。

(A.)「幸福な家庭はどれも同じように退屈なものだが、不幸な家庭はみな特有だ」というトルストイの言葉からも分かるように、「危機」はドラマとして面白い。したがってゼミでは必ず経済危機をテーマに取り上げる。

(B.)以上のことを読んで、ストーリーなら自分でも語れる。ミクロ、マクロを勉強して損をしたと思う学生がいるかもしれないが、そんなことはない。ドラマは世の中の動きが「規則性」から乖離する瞬間に生じる。その瞬間にドラマを発見できるためには、ミクロ、マクロを徹底して勉強し、「規則性」の感覚を身に着ける必要がある。

2.　学生への要望

本ゼミでは選考に当たり面接はしない。その代わり、延々とした、長時間の筆記試験を課す。毎年 5 時間くらいの筆記試験で、がっちり文章を書いてもらっている。かならずミクロ、マクロの経済学に関連した問題が出るので、ミクロ、マクロは死ぬほど勉強しておくこと。

面接をしないで、学生の「やる気」や「性格」が分かるのかという質問を受ける。分かるために面接は必要ない。がっちり文章を書かせれば「やる気」も、「性格」も、「知識」、「分析力」と一緒にすべて文章に出てくる。

日吉でミクロやマクロの点が悪かった、統計もダメだった、それでもいいかといった質問も受ける。日吉のことはいい。しかし、三田ではミクロも、マクロも、統計も、死ぬほど勉強してもらう。さらに世界史も、日本史も。「この科目はダメ」と、自分で自分に限界を設けるような学生は、伸びるわけがないから付き合わない。

3.　選考について

(ア) **募集人員**　18 名

(イ) **選考内容**　筆記試験　英文で経済に関する文章を読んで解答してもらう。その際、ミクロ、マクロの経済学知識が絶対に必要。試験時間は 5 時間くらい。

(ウ) **選考基準**　当たり前だが、試験成績優秀な者を採る。

4. ゼミ員構成

3 年生　18 名(男 11 名、女 7 名)(留学中 3 名)

4 年生　20 名(男 8 名、女 12 名)

5. 活動紹介

① 本ゼミ（火曜 4、5 限）

本ゼミでは、竹森先生の専攻分野である国際経済を主なテーマとして扱い、輪読、プレゼンテーションを行います。1 タームの中で二冊の英語の文献を扱う他に、先生が選んだ論文をグループに分かれて輪読し、国際経済への理解を深めます。

② サブゼミ（木曜 4、5 限）

小グループ毎に、主に夏季長期休暇時のインゼミに向けての論文のテーマ決めや報告会として利用されます。活動内容は 3 年生に一任されており、論文に関する質問や相談に竹森先生が適宜答えてくれます。

③ パートゼミ

輪読の際には 4.5 人の小グループに分かれてプレゼンテーションを進めていきます。院ゼミ準備の際もグループに分かれて個々のテーマに沿った研究を進めます。

④ インゼミ

毎年夏休み期間中にはアジアの学生と交流を持つ GPAC に参加しています。今年は世界情勢の影響で開催されないため、北大とのインゼミを夏季休暇期間に行いました。その他に 11 月に関西インゼミ、1 月に韓国インゼミが予定されています。

⑤課外活動

なし

⑥三田祭

韓国インゼミに参加するため出展は無し

⑦夏休み

例年は GPAC に参加。GPAC には台湾、韓国、ベトナム、イスラエルなど海外の学生が多く参加し、交流できる貴重な機会です。
本年は北大とのインゼミ

⑧合宿

4月の新歓合宿など

⑨授業

ゼミ必修の授業は特にありませんが、先生が三田で開講している授業がいくつかあるので取るといいかもしれません

⑩経費

教科書費、合宿費、インゼミ参加費等

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

竹森先生著作の本
日本経済新聞

7. 先生が担当している講義

・International Finance B
(春(三田)水曜日 2 限)
・The Japanese Economy from an International Perspective
(秋(三田)水曜日 2 限)
・世界経済論 a,b
(通年(三田)水曜日 3 限)

8. ゼミHP・SNS

http://seminar.econ.keio.ac.jp/takemori/

9. 連絡先

外ゼミ代表　土屋　諒太郎
　連絡先　ryotaro278@gmail.com
内ゼミ代表　廣野　緑里
　連絡先　miah2618@gmail.com
入ゼミ担当　福島　岳
　連絡先　g,f.baseball.123@gmail.com

経済史

飯田恭研究会

太田淳研究会

神田さやこ研究会

崔在東研究会

中西聡研究会

松沢裕作研究会

飯田恭研究会

― 農村・林野の歴史（経済史・社会史・環境史） ―

1.　研究分野

本研究会の課題は、農村・林野の歴史（経済史・社会史・環境史）を、世界の様々な地域を比較しながら研究していくことである。ヨーロッパ（特にドイツ語圏）と日本が中心的な考察対象となるが、絶えず世界史的な文脈を意識することにしたい。

農村・林野の暮らしはそれぞれの地域の風土と不可分である。それぞれの風土に根ざしつつ、農村・林野にはその地域固有の文化・歴史が長い時間をかけて育まれてきた。それゆえ、農村・林野は、各々の地域の歴史経路を相互に比較しようとする研究（比較史研究）にとって、大変興味深い題材となるのである。

だが、その歴史をもはや過去のものだという人もいるかもしれない。たしかに、工業化にともない、人々は農村・林野を離れて都会に出ていった。日本では今や農山村は存続の危機に瀕してさえいる。だが、これは不可逆的な歴史なのであろうか？例えばドイツでは近年林業が好調で、脱原発の方針の下、人々は木材を燃料として使うかつての文化に少しずつ回帰している。日本でも近年、国内の食糧・木材自給率の低さを憂いつつ農業・林業の再生を説く人、地球環境問題を憂いつつ森林の価値を訴える人は少なくない。また議論にとどまらず、実際に農山村の生活に回帰する人、都会に居ながらにして小農園・屋上プランター農園を営む人も少しは出てきている。いずれにせよ、かつて長らく歴史の表舞台にあった農村・林野は、ひとたび後景に退いたのち、新たな形での復活を模索しはじめてもいるのだ。その際、我々は過去の人々の経験に何かを学ぶことはできないものであろうか？

担当教員の専門は、近世・近代（特に 17～19 世紀）のドイツ農村・林野史および農村・林野史の日独比較であり、この（あるいはこれに近接した）テーマに取り組む学生に対しては、特に専門的な指導が可能である。

なお、本研究会における近年の輪読文献タイトル・三田祭論文タイトル・卒業論文タイトルの一覧が本研究会のホームページに掲載してあるので、参考にしてほしい：
http://www.clb.mita.keio.ac.jp/econ/iidaken/

2.　学生への要望

研究するということは、厳密に言えば、新たな「知」を生産する（オリジナルな論文を書く）ということである。だがそのためには、まず先人たちが蓄積してきた膨大な「知」（＝著書・論文）を、労を厭わず読み重ね、それを精確に理解しなくてはならない。さもなければ、何がオリジナルな「知」たりうるのかも分からぬからである。その上で、自ら原史料を読んでそれを分析し、そこから新しい知見を産み出さなくてはならないのである。

もちろん、学部生の段階でこのような厳密な意味でオリジナルな論文を書くことができればそれに越したことはないのだが、学部生にこの水準を求めるのはやや酷である。そこで求められる卒論の水準を次のように考えてほしい。

外国史を研究する人には、英文ないし研究対象地域の言語で書かれた最新の（あるいは日本で未紹介の）著書を読破し、それを日本の学界に向けて紹介する、というレベルの卒論を最低限求める。ドイツ語文献にチャレンジする人は特に歓迎する。ドイツ語が未習だが、ドイツ語の文献にチャレンジしたいという学生向けに、三田でもドイツ語初習クラスが開設されている。積極的に活用してほしい。

日本史を研究する人には、自分のテーマに関する過去の研究文献を読破した上で、できる限り史資料の分析に取り組み、独自の知見を産み出すことを求めたい。史資料解読の能力を養成するために、経済学部では、松沢准教授によって「日本史史料講読」という授業が開設されている。これを履修することを強く薦める。

3.　選考について

① 募集人員：6 名程度（他学部生も歓迎する）

② 選考内容：レポート・面接・成績表の提示
③ 選考基準：レポート・面接・成績表から、研究を遂行していく上での前提条件（明瞭な問題関心・勤勉さ・経済史等の基礎知識）がととのっているかどうかを判断する。

4. ゼミ員構成
3年生…男子3人　女子2人
4年生…男子4人（うち1人留学中）

5. 活動紹介
① ゼミ（火曜4・5限）
本ゼミではゼミ活動として主に輪読を行っています。先生が指定された文献を読み、章ごとにゼミ員がレジュメを作成して発表します。その後、内容について先生からコメントを頂き、各ゼミ員が質問や感想を述べ、議論を通して理解を深めます。
今年輪読を行った文献は、『森が語るドイツの歴史（カール・ハーゼル著・山縣光晶訳）』『森林の江戸学（徳川林政史研究所編）』『草山の語る近世（水本邦彦著）』の3冊です。
② サブゼミ
サブゼミは行っていません。
③ パートゼミ
パートゼミは行っていません。
④ インゼミ
12月に塾内の経済史・社会史系ゼミとインゼミを行い、三田祭論文の発表とディスカッションを行います。
⑤課外活動
親睦を深めるため、定期的に食事会を開催しています。
⑥三田祭
3年生は三田祭論文コンテストに向け、論文作成に取り組みます。昨年は2つのグループに分かれて、今年は1つの大きなテーマについてゼミ員全員で論文作成に取り組んでいます。
⑦夏休み
三田祭論文に向けて、自主的に資料・文献を読み進めます。また、定期的に集まり、手に入れた情報を共有することで、三田祭論文のテーマを具体的なものにしていきます。
⑧合宿
新歓合宿・夏合宿ともに行っていません。
⑨授業
ゼミ必修授業はありません。
⑩経費
年会費・合宿費等は基本的に必要ありません。輪読文献を買う際は、自費での購入です。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書
ゼミで扱っている輪読文献を読むほか、特に森林や農村などについて、興味をもったものについて色々調べてみることがゼミ試験対策になると思います。

7. 先生が担当している講義
経済史入門Ⅰ（日吉・春学期　水2）

8. ゼミHP・SNS
HP:
http://seminar.econ.keio.ac.jp/iidaken/
Twitter：@iidaseminar

9. 連絡先
外ゼミ代表　谷田部　華子
連絡先　hanako.yatabe@keio.jp
内ゼミ代表・入ゼミ担当　青木　建
連絡先　aoking0029@gmail.com

太田淳研究会

―経済史―

1.　研究分野

東南アジア経済、東南アジア経済史

2.　学生への要望

東南アジアに強い関心があること、自分から進んで勉強する意欲があること

3.　選考について

① 募集人員：10 名程度
② 選考内容：成績、面接
③ 選考基準：成績と面接に基づき、総合的に判断する。

4.　ゼミ員構成

3 年生 11 人（男 7、女 4）、4 年生 7 人（男 4、女 3）・留学生 0 人です。

5.　活動内容

① ゼミ（火曜2，3限）
今年度は 9 月に行われたインドネシア研究調査、11 月の三田論発表に向けて 4 月から 3 グループに分かれて取り組んできました。ゼミでは主に輪読と新聞記事報告を行っており、様々な議論を交わしています。来年度からは留学生も受け入れるつもりです。国際交流の機会がとても多く、ゼミ生一同楽しく異文化交流を深めています。
② サブゼミ
なし
③ パートゼミ
なし
④ インゼミ
SFC の野中研究会、東洋大学の長妻研究会とで 12 月に実施予定
⑤課外活動
インドネシアでの研究調査、その他日本国内での調査
⑥三田祭
グループ毎の論文発表
「EPA 制度によるインドネシア人看護師・介護福祉士の受け入れと問題点」「インドネシア人技能実習生」「e-commerce の発展」の 3 グループです
⑦夏休み
合宿、インドネシア調査（9 月 2 日～13 日）
⑧合宿
今年度は 1 泊 2 日の秩父合宿
⑨授業
東南アジア言語、アジア経済史
⑩経費
ゼミ費 3000 円、その他合宿費、インドネシア調査のための費用

6.　ゼミ試験対策で使用した参考書

試験なし、面接のみ

7.　先生が担当している講義

ECONOMIC HISTORY of ASIA（春・三田・火曜 4 限）
経済史入門Ⅱ（秋・日吉・月曜 5 限）
自由研究セミナー（春秋セット・日吉・月曜 4 限）

8.　ゼミ HP

http://www.clb.econ.mita.keio.ac.jp/otaatsushi/
「太田淳　慶應」で調べてもすぐ出てきます。

9.　連絡先

ゼミのアドレス：otaseminar2015@gmail.com
外ゼミ：太田奈央
メールアドレス：smile2446@gmail.com
入ゼミ：筬島陸
メールアドレス：riku-0701@outlook.jp

神田さやこ研究会

―アジア経済史―

1、研究分野

アジア経済史。教員の担当が南アジア（インド、バングラデシュなど）なので、南アジアに関する研究が中心となる。具体的には、アジア地域の経済発展のダイナミズムおよび経済・社会が抱える諸問題（エネルギー・環境、貧困・格差、女性など）を理解するうえで重要な歴史的背景やそのなかでつくられてきた社会的・文化的特徴について、長期的視点にたった研究をおこなう。ただし、他のアジア地域に関心がある学生や、経済史以外の歴史分野（文化・芸術、経営、環境など）も歓迎する。

本研究会での最終目的は卒業論文を完成させることにあるので、各自設定したテーマに基づいて研究を進めてもらう。3 年生の春学期には、(1)基本文献の輪読と討論を通じて、基礎知識および研究の基本的フレームワークを習得し、(2)三田祭発表用共同研究の課題を設定する。夏休み中には、その課題に基づいて多くの文献を読み、研究を進める。秋学期には、(1)三田祭発表にむけた報告・討論をおこない、論文を完成させる。三田祭後、(2)具体的な卒業論文のテーマを設定し、研究に着手する。4 年生は個別に卒業論文の執筆を進め、ゼミでは研究や議論をリードする役割をになう。

2、学生への要望

アジア地域に関心をもち、積極的に課題に取り組むことができる意欲的な学生の参加を期待します。卒業論文作成に向けての約 2 年間、英文を含む多くの文献を読み、議論し、報告し、書いてもらうことになるので、そのつもりで参加してください。

3、選考について

①募集人数：AB 合計 10 名程度
②選考内容：1. レポート　2. 成績　3. 面接
③選考基準
レポート・成績・面接で総合的に判断する。

4. ゼミ員構成

3 年生 5 人(うち男 5 人)
4 年生 0 人

5. 活動紹介

① ゼミ（火曜 4,5 限）
神田ゼミではインドを中心とした南アジアを対象とした経済史を研究しています。アジア地域の経済発展のダイナミズムおよび経済・社会が抱える諸問題を理解するため、その歴史的背景や社会的・文化的特徴について、輪読やディスカッションを通じて研究を進めています。昨年度から募集が再開されたゼミのためまだゼミ生が少なく、みなさんと共に素敵なゼミにしていきたいと思っています。何か疑問や気になることがあるという方はお気軽にお問い合わせください！

② サブゼミ
なし

③ パートゼミ
なし

④ インゼミ
なし

⑤課外活動
なし

⑥三田祭
三田論発表

⑦夏休み
三田論発表へ向けた準備

⑧合宿
今年度はなし

⑨授業
南アジア経済史 a（春（三田）、火曜1限）、南アジア経済史 b（秋（三田）、火曜1限）

⑩経費
今年度はなし

6. ゼミ試験対策で使用した参考書
なし

7. 先生が担当している講義
南アジア経済史 a（春（三田）、火曜1限）、南アジア経済史 b（秋（三田）、火曜1限）、経済

史入門 I（春（日吉）、金曜2限）、経済史概論 II（秋（日吉）、水曜4限）

8. ゼミHP・SNS

なし(今後開設予定です)

9. 連絡先

外ゼミ代表中石遥翔　メールアドレス
shonanhs11@softbank.ne.jp
入ゼミ担当　　笠井僚太　メールアドレス
ryo-ta_mos.919@i.Softbank.jp

崔在東研究会

―近代社会経済史―

1.　研究分野

本研究会では、近代化過程で人々が逢着していた様々な問題について多国の比較研究を行う。担当者の専門領域は 19 世紀後半から 20 世紀前半のロシア・ソ連の社会経済史であるが、関心領域はロシアに限らず、ポーランドとハンガリーなどの東欧諸国、ルーマニアとブルガリアなどのバルカン諸国、そしてイギリス・ドイツ、フランスなどの西欧諸国を含んでいる。なお、本研究会では韓国（朝鮮）、日本、中国なども視野に入れて、比較経済史的研究を進め、ユーラシアの視点からヨーロッパを相対化していくような研究と議論を試みたいと思っている。

比較研究の素材は、前近代社会の農村構造であり、また近代化の過程でもたらされた諸変化である。具体的には「家族－世帯」、「共同体」、「土地」を共通テーマとする。世代継承の基礎単位である「家族－世帯」と「共同体」のあり方は国によって異なり、「土地改革」と近代化過程における対応も異なる。さらに、「ジェンダー」、「人口」、「植民と移民」、「農民運動」、「社会主義」、「労働と労使関係」などもその射程に入る。

前近代社会から近代社会への移行は国によって非常に多様な形で行われるが、いずれも極めて変化に満ちた興味深い過程を見せている。人々がどのように変化の時代を生き延びようとしたのか、各国の政府はどのような政策を講じていったのか、変化と相違をもたらす原因とその結果を究明していくこと、さらには現代とのつながりを模索することが、本研究会の基本課題となる。

研究会では、まず共通テーマの関連文献の輪読を行う。輪読文献は、共通テーマに関連する多国の事例研究の中でピックアップし、議論の叩き台とする。

メンバー全員に、輪読と議論などを通じて独自の研究テーマを見つけると共に、実証的論文（卒業論文）をまとめていくことを義務とする。

なお、研究会はあくまでも学生が主体となって自主的に運営されることを原則とする。

2.　学生への要望

何よりも論理的な思考を通じて、自分なりの見解を確立していくことを重視したい。人の意見を鵜呑みにすることなく、さまざまな意見や論理について常に問いかけ、物事を広く相対的に見る姿勢を身に付けていくことを願っている。

なお、経済と社会を歴史的にアプローチする楽しさと必要性を共有できることと、比較史的視点と現代の視点からの積極的な問題提起と議論を期待する。

3.　選考について

①　募集人員

A 日程、B 日程あわせて 10～15 人程度（経済学部以外の学生も含む）

②　選考方法

- 欧文または和文論文のレビューの提出
- 面接：志望動機、関心のあるテーマ、語学力（英語、ロシア語、韓国語、その他）、 現代と歴史についての問題意識などを問う。
- 成績表のコピーの提出

③　選考基準

志望動機と問題意識、語学力を重視する。

4. ゼミ員構成

3年生16名(男子11名、女子5名)
4年生19名(男子13名、女子6名)

5. 活動紹介

①　ゼミ（火曜4、5限）・・・授業の前半は三年生が主体となって輪読を行い、後半は四年生が自分の去年の三田祭論文の内容を紹介するとともに、卒論のテーマ設定を行います。三田祭の時期が近づくと三年生も三田祭論文のテーマ設定を徐々に進めていきます。

輪読は毎週3人が指定され、教材の要約と疑問点を上げだします。これを元に指定されたコメンテーターが自分の意見を述べます。

② サブゼミ・・・特になし
③ パートゼミ・・・特になし
④ インゼミ・・・特になし
⑤課外活動・・・特になし
⑥三田祭・・・三田祭論文の発表を行います。
⑦夏休み・・・各自研究を進めつつ、自由に過ごしています。
⑧合宿・・・先生が温泉好きであるため、毎年温泉地での合宿を決行しています。今年は2泊3日で草津に行きました。
⑨授業・・・ゼミ必修授業はありません。
⑩経費・・・ゼミ運営費用のほか、合宿参加者は合宿費を支払う必要があります。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書・・特になし

7. 先生が担当している講義

専門外国書購読(露)(三田、春学期、火曜1・2限)
Economic History of Russia(三田、秋学期、火曜1・2限)

8. ゼミHP・SNS

https://twitter.com/choizemi2015

9. 連絡先

外ゼミ代表　内山拓巳
連絡先　uch.taku@gmail.com
内ゼミ代表　角知明
連絡先　sumi-japanese-do@gmail.com
入ゼミ担当　今津清純
連絡先　imz.tns@gmail.com

中西聡研究会
―（近世・近代日本経済史）―

1. 研究分野

本研究会では、19 世紀から 20 世紀前半の日本経済を対象とします。その際、実証的研究を重視し、先行研究の書籍のみならず、統計資料・古文書など具体的な資料を利用して研究を進めることを期待します。もちろん、統計資料の扱い方や古文書の読み方は教員が指導しますので、技術的な予備知識は特に求めません。ただし歴史に強い関心をもって研究しようとする意欲のある方を望みます。

研究会の進め方は、文献購読と個別研究報告を組み合わせて行います。春学期は、日本経済の歴史に関する基本的文献を輪読し、秋学期は個別研究報告を中心に進めます。3年生は、関東の他の大学とのインターゼミを実施していますので、三田祭発表に参加するとともに、その内容をインターゼミでも報告してもらいます。また、博物館見学・資料館見学なども行い、そのなかで4年生に卒業論文として「完成」させる研究テーマを選んでもらいます。

研究テーマは、19 世紀から 20 世紀前半の日本経済に関することであれば何でも構いません。もちろん4年生にはその研究テーマについての先行研究のフォローや自らの分析結果を含めて、より具体的な報告を求めますので、自分が本当に研究したいテーマを選んで下さい。

参考までに、教員の研究テーマは、近世（徳川時代）～近代（主に明治・大正期）における日本の市場構造・商家経営や消費生活に関することで、代表的著作として、中西聡『近世・近代日本の市場構造』（東京大学出版会、1998 年）、中西聡『海の富豪の資本主義』（名古屋大学出版会、2009 年）、中西聡『旅文化と物流』(日本経済評論社、2016 年)があります。

教員の研究スタイルとして、日本各地の旧家を訪れ、そこの蔵に所蔵されている古文書を長い時間かけて整理させていただき、それらを解読・分析して論文にまとめるという地道なフィールド・ワークを行っています。そのため、これまでに日本各地を調査して巡りました。趣味は鉄道です。また推理小説も愛読しています。

2. 学生への要望

本研究会では、研究分野から考えて、根気と行動力が求められると思います。前述のように本研究会では、東京近郊の現地調査（博物館・資料館巡り）を研究会メンバーで一緒に行いますので、真剣に歴史の研究をしてみたい方にはお勧めの研究会と言えます。ただし、期待した資料にすぐ出会えるわけではありませんので、卒業論文作成のためには、粘り強さが何より求められます。とは言え、そうした粘り強さは、学生諸君が社会人になった際に、必ずプラスになるでしょう。

なお、研究分野から考えて、卒業論文の作成にかなりの時間が取られると思われるので、卒業に必要な単位を順調に修得しており、3・4年次は、研究会では研究にそれなりの時間を割くことのできる学生を望みます。

3. 選考について

①募集人数：7～10 名程度

②選考内容：レポート、面接、成績表をもとに総合的に判断します。

＊他学部の志望者も同様の選考内容で行います。

4. ゼミ員構成

3 年生 9名(男7名、女2名)(留学中0名)

4 年生 7 名(男7名、女0名)(留学中0名)

5. 活動紹介

① ゼミ（水曜 4,5 限）

こんにちは！私たち中西研究会では日本経済史を勉強しています。春学期は『時代を超えた経営者たち』（井奥成彦編著）を輪読し、その後三田祭に出す論文の準備に取り掛かります。他大学とのインゼミもおこなっており、今年は明治大学・高千穂大学・駒澤大学と共におこなっています。それと並行して年 4 回

の楽しいフィールドワークもあります！また、この研究会はサブゼミもパートゼミもないため、サークル活動と資格勉強、体育会との両立も無理のない範囲で可能です。和やかな雰囲気の中西研究会にぜひ足を運んでみて下さい。

② サブゼミ

なし

③ パートゼミ

なし

④ インゼミ

今年は明治大学・高千穂大学・駒澤大学と共におこなっています。

⑤課外活動

フィールドワーク（年4回）

⑥三田祭

今年は「明治期日本の経済政策と企業行動―財閥系企業と非財閥系企業の比較」というテーマに決まりました。

⑦夏休み

なし。

⑧合宿

なし

⑨授業

ゼミ必修ではありませんが、ゼミ生の多くが中西先生の日本経済史（水曜 3 限）を履修しています。

⑩経費

フィールドワークで訪れる博物館の入場料など

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

日本経済の歴史（中西聡編）

※ゼミ試は「これまで日本経済史について勉強してきたこととこれから勉強していきたいこと」についての 2000 字のレポートと面接です。この中西先生の本を読んで自分がどの分野を研究したいかを考えておくといいでしょう！

7. 先生が担当している講義

日本経済史 a/b（三田、水曜日３限）

経済史入門Ⅱ（日吉、金曜日２限）

8. ゼミHP・SNS

ゼミ HP

http://seminar.econ.keio.ac.jp/nakanishi/index.html

Twitter

@nakanishi_zemi

9. 連絡先

外ゼミ代表　中島千沙

連絡先　b-s.lemon.ilys@i.softbank.jp

入ゼミ担当　藤田慶

連絡先　kei.f.zemizemi@gmail.com

松沢裕作研究会
―日本社会史―

1. 研究分野

この研究会では、日本の近世・近代社会（19世紀・20世紀前半の日本社会）のあり方を取り扱う。

本年度春学期は小山静子『良妻賢母という規範』（勁草書房、1991年）の輪読と、長野県の一農民の日記『胡桃澤盛日記』の輪読をおこなった。胡桃澤日記は来年度以降も継続して読んでゆく予定である。その後は三田祭論文に取り組んでいる。三田祭論文の共通テーマは「近代日本の学生」となる予定である。

ゼミナールの最終目標は、各自が自らのテーマを設定し、一次史料に基づく卒業論文を執筆することである。

卒業論文テーマの設定は自由であるが、その研究方法は歴史学的なものであることが求められる。その際必要となるのは、史料の精密な読解である。史料の書き手は現在の私たちとはことなった環境のもとに暮らしていた人々であり、私たちの経験を安易に投影してはそれを読み誤ることになる。

担当者の研究については、『自由民権運動』（岩波書店、2016年）がもっとも簡易なものである。その他の業績については http://researchmap.jp/yusaku_matsuzawa/を参照していただきたい。

2. 学生への要望

経済学部生の皆さんは、これまでの学習を通じて、経済学のさまざまな理論やその現実への応用について学んでこられたものと思う。経済学の理論の明晰さ、またそれによる現実の分析の鋭利さは、人間が、自分たち自身の社会を理解するうえで獲得した、人類の貴重な知的遺産である。

しかし一方で、経済学理論の明晰さ、鋭利さに魅せられつつも、どこか現実の複雑さを前にして納得の行かない気分を抱えている人もいるのではないかと思う。そうした場合、歴史とその複雑さの世界に身を浸してみるのも、賭けてみる価値のある試みではないだろうか。

私たちの日常生活は些細な出来事の積み重ねでできている。史料を残した過去の人々という、他者の声を謙虚に聞くこと、他者のかすかな声に耳を澄まし、そこに意味を見出していくことは、私たちが日常生活のなかで出会うささいな経験をよりよく理解するために益するところがあろう。

そのように過去の人々向き合うためには、しかし、現代に生きる私たちの側にもそれなりの準備が必要である。そのため、学生のみなさんには、なるべくたくさんの書籍や文献に目を通してほしい。幸い慶應義塾大学は優れた図書館を有している。在学中に徹底的に図書館を利用することを強く要望したい。

また、担当教員は、三田の専門科目「日本史史料講読」を担当しているが、本研究会参加者には当該科目の履修を求める。

3. 選考について

①募集人員：全日程合計８名

②選考内容：レポートと面接による。

③選考基準：レポート課題となる文献を正確に読解できているか否か。

4. ゼミ員構成

3年生：男子7人　女子0人(他学部生なし)

4年生：男子8人　女子0人(他学部生なし)

5. 活動紹介

① ゼミ（火曜 4・5 限）

本研究会では春学期には史料・日記研究の基礎を学ぶために、教授の指定した書籍を輪読します。また、それと並行してグループ単位での史料研究を行います。

秋学期にはゼミ員が独自に設定したテーマに基づいて三田祭論文を書き上げていきます。本研究会は各自の裁量で研究を推し進められるので、自らの関心に沿った内容を学ぶことができます。

② サブゼミ

本研究会ではサブゼミを行いません。

③ パートゼミ

本研究会ではパートゼミを行いません。

④ インゼミ
例年、他の経済史系のゼミとのインゼミを行っています。
⑤課外活動
研究内容に応じて博物館などへの巡見を行うことがあります。
⑥三田祭
毎年積極的に参加しています。今年度のテーマは「大正時代の日本の学生像」を予定しています。
⑦夏休み
例年、卒業論文の進捗報告を兼ねたゼミ合宿を行っています。また、年度に応じて、親睦を深めるための様々な活動を行っています。
⑧合宿
毎年 9 月ごろに行っています。昨年度は富岡製糸場、今年度は日光を訪れました。
⑨授業
ゼミ必修講義として、「日本史史料講読」（春秋、火曜 3 限）が設定されています。
⑩経費
年会費については特に設けられていません。合宿などに関しては別途費用がかかります。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書
入ゼミ試験に必要なレポート課題に用いる文献は毎年変わるので、後日発表される試験内容を参照してください。

7. 先生が担当している講義
日本史史料講読（春秋(三田)、火曜 3 限）
日本社会史(春(三田)、火曜 2 限)
歴史的経済分析の視点(春(日吉)、水曜 2 限)
社会問題(秋(日吉)、水曜 5 限)

8. ゼミHP・SNS
Twitter：＠matsuzawasemi
ゼミ HP：
http://web.econ.keio.ac.jp/staff/yusaku/seminar.html

9. 連絡先
外ゼミ代表　齋藤達哉
tatsuya31100801@gmail.com
入ゼミ担当　樋口健太
kenta.higuchi.5417@gmail.com

計量経済学・統計

河井啓希研究会

田中辰雄研究会

長倉大輔研究会

星野崇宏研究会

宮内環研究会

河井啓希研究会

―計量経済学、産業組織論、医療経済学―

1. 研究分野

私の研究会では「応用ミクロ理論にもとづく実証分析」についての研究を行います。
近年のミクロ経済学では、従来の理論では出てこなかった製品の品質、財の差別化、情報の非対称性といった問題を明示的にとりあげた研究が盛んとなっています。一方、計量経済学では企業や家計の詳細なミクロデータの蓄積から、質的選択モデル、パネル推計、セミパラメトリック推計等の新しい分析手法が開発されています。
従来、計量経済学はマクロモデルに代表される景気や経済成長の大まかな推測に利用されていましたが、近年では上記の理論とデータの蓄積からより具体的な政策評価に利用されています。例えばアメリカでの通信産業や航空機産業自由化等の政策決定においてたくさんの実証研究が報告されています。
私は2年間のゼミナールを通して応用ミクロ理論、計量経済学理論、コンピュータ等の分析手法の基礎的なトレーニングを行いますが、最終的には学生の皆さんが疑問に感じた政策的な問題を経済理論にもとづいて解釈したうえで実証分析を前提とした具体的な政策提言をできるまでのお手伝いをしたいと思っています。
今年の本ゼミでは、Cabral(2017) Introduction to Industrial Organization MIT press の輪読を行っています。各章で登場するトピックに合わせて、自然独占と最適規制、同質財寡占市場とカルテル形成、製品差別化と市場支配力、価格差別、情報非対称性、標準化とネットワーク等といった産業組織論や医療経済学の理論についてもを取り挙げます。
3年生の段階で計量経済学の基礎理論と離散選択モデル等のより高度な方法論を学習するため三田で開講されている計量経済学中級ならびに上級を履修してもらっていますが、本ゼミでも Greene, *Econometric Analysis*, Prentice Hall と Stock & Watson, *Introdustion to Econometrics*, Pearson を利用しながら理論だけでなく統計パッケージ(R と stata)を用いた実習をおこないます。

2. 学生への要望

理論的な興味ばかりでなく政策的な問題意識をもち、自分で実証分析をやってみたいという意欲的な学生を募集します。しかし自分でやりたいテーマを現段階で持っていなくとも結構です。ゼミ活動を通じて必ずテーマを見つけることが出来るはずです。日吉ではミクロ経済学、マクロ経済学、統計学をしっかり勉強してきてください。また輪読する論文はすべて英語なので多読に慣れていることも必要です。計量経済学のゼミなので、計量経済学概論や情報処理についてご存知ならばより望ましいです。

3. 選考について

募集人員：16 名程度（AB両日程）

選考内容：
A 日程　筆記試験(ミクロ経済学と統計学、90 分)、成績表、面接試験(10 分)
B 日程　成績表、面接試験

選考基準：最低限の知識とあふれる意欲

筆記試験の範囲など詳細についてはゼミの Web Page(http://seminar.econ.keio.ac.jp/kawai/)を参照してください。

4. ゼミ員構成

４年生(１８期)：２１人(男子１８人、女子３人)
３年生(１９期)：２６人(男子２０人、女子６人)、うち留学中２人

5. 活動紹介

① ゼミ（水曜４、５限）

３年生が産業組織論の参考書である Cabral(2017) Introduction to Industrial Organization 2nd を輪読します。主に4限では章ごとに割り当てられた 3 年生がプレゼンを

行い、先生やゼミ生が質疑応答しながら理解を深めていきます。また5限では需要関数や費用関数等の専門論文を先生自ら紹介してくださいます。秋には3年生の三田祭論文と4年生の卒論の中間発表が行われます。

② サブゼミ）
3年生は5月に行われる産業研究所主催のStata 講習会に参加し、統計ツールの扱いに習熟します。一から丁寧に教えてくださるのでツールの基礎から学ぶことができます。

③ パートゼミ
三田祭論文のパートに分かれて週に1、2回集まり研究を行います

④ インゼミ
なし

⑤課外活動
なし

⑥三田祭
毎年1パート4～5人に分かれ各自決定したテーマに基づく実証分析を行い、論文を執筆します。今年度は自動車、金融、医療等様々な分野に分かれ研究を進める予定です。

⑦夏休み
パートゼミの内容を夏休みも同様に行い、合宿で中間発表を行います。

⑧合宿
9月中旬に夏合宿を行います。2泊3日で3年生は三田論、4年生は卒業論文の中間発表を行います。去年は草津温泉に行き勉強だけでなくボウリングやゴルフなども楽しみました。

⑨授業
計量経済学中級(火曜1・2限、春集)
計量経済学上級(春秋)

⑩経費
合宿費3万円弱
Stata 講習会参加費 1000 円

6. ゼミ試験対策で使用した参考書
ミクロ経済学・演習ミクロ経済学(武隈真一)

7. 先生が担当している講義
統計学ⅠⅡ(日吉、水曜2限)
計量経済学上級(三田、金曜2限)

8. ゼミHP・SNS
ゼミ HP
http://seminar.econ.keio.ac.jp/kawai/
Twitter
@kawaizemi2018

9. 連絡先
ゼミ代表 田中 一成
連絡先 iseo3225@docomo.ne.jp
入ゼミ担当 立川 陽香
連絡先 kawaisemi2017@gmail.com

田中辰雄研究会
―IT 産業の実証分析―

1. 研究分野

本研究会では、情報化をテーマとして、計量経済分析の基礎と応用を学ぶ。1990 年代末から始まる情報化の流れに日本は乗り遅れ気味であった。近年ではブロードバンド化と携帯電話などで失地を回復し、アニメやテレビゲームなどコンテンツの分野で一定の成功を収めたが、これも近年、iPhone や iPad、そして電子書籍など新しい動きに翻弄されている。

このように IT 産業での近年の変化はめまぐるしい。このような変化を経済学としてどうちらえるべきだろうか。日本が IT 分野で出遅れた理由はどこにあるのか。復活の道筋はあるのか。また、IT 産業の各分野について経済政策としてできることがあるだろうか。本研究会では、このような問いに対して、実証的に着実に分析することをテーマにする。この分野はデータが未整備であるので、まずデータの収集から始めなければならない。理論の学習→仮説の設定→データの収集→計量での実証という通常の研究サイクルをそのままたどることになる、このようなサイクルは学者やシンクタンクなどとの調査に携わる者であれば誰でもたどるものであるが、大学でこのサイクルをきちんとたどる機会はゼミしかない。本ゼミではこのサイクルを一通り体験してもらうことになる。

2.学生への要望

広い意味での IT 産業のどこかの分野に興味のある人か、あるいは計量分析に興味のある人を歓迎する。

広い意味での IT 産業とはコンピュータと通信だけに限らない。取り上げるテーマとして予想されるものをあげておく。ソフトウェア、産業、情報化と産業組織、情報家電、携帯電話、iPhone、スマートフォン、電子書籍、ゲーム・映画・アニメ・音楽などコンテンツ産業、ベンチャー企業、電気通信産業、
インターネット、電子商取引、情報化投資、著作権問題、オープンソース、地域情報化、ソーシャルゲーム、Facebook などが考えられる。

最近のトレンドをこのようなテーマのどれかに興味があるとゼミでの議論に参加しやすいだろう。

計量分析の学習は三田での計量経済学中級をマスターすることが必須となる。それを超える話題はゼミ内で適宜取り上げて学習する。日吉での計量経済学概論を取っていることが有利であるが、三田からはじめても十分追いつける。要はやる気である。ゼミ生は 16 人程度である。例年の平均値をとると、計量分析に関心がある人が 8 人程度
(うち、パソコン好きな人 3 人、ネット系ビジネスをやりたい人 2~3 人、オタクな人 2~3 人)となっている。

最後に一番大事なのは「手と足」のやる気である。ここで手と足のやる気とは、データを集めるために歩き回ることや、データを手で打ち込むことを厭わないことをさす。IT 分野は研究が始まったばかりで、整ったデータベースは存在しない。そこで、国会図書館をまわったり、perl でプログラムを組んでウェブから集めたりする事になる。これを厭わない人に来てほしい。本研究会が対象にするのは先行研究の少ない分野であり、学生の立場でも新しい知見を見出すことは不可能ではない。事実、過去に学生が私の共同の形で論文をだしたことが何度
もある。そのような挑戦を行おうというパイオニア精神のある人を期待したい。大学院進学希望の人も歓迎する。

3.選考について

①募集人員:15 名程度
A 日程のみ(人数不足時に B 日程)
②選考内容:レポート+面接+成績表
③選考基準:レポート 7 割、面接 2 割、成績表 1 割
(1~3、昨年度資料)

4. ゼミ員構成
3年生　14 名(男　12 名　女　2 名)
4年生　 13 名(男　11 名　女　2 名)

5. 活動紹介
① 本ゼミ　水曜　4, 5　限
4～6 月は IT 産業や計量分析手法に関する専門論文の輪講を行います。その後はテーマごとに 3、4 人の班に分かれて三田論を書き進めます。
② サブゼミ　水曜　6　限　(基本的には無し)
③ パートゼミ　特に無し
④ インゼミ　特に無し
⑤課外活動　特に無し
⑥三田祭
三田論の発表を行います。
⑦夏休み
各自論文作成のための作業を行います。
⑧合宿
4 月　新歓合宿
9 月　夏合宿
⑨授業
計量経済学中級 a,b　(火曜日 1,2 限　春集)
⑩経費
　ゼミ費　500 円
　合宿費　計 30000 円程度

6. ゼミ試験対策で使用した参考書
特に無し。

7. 先生が担当している講義
計量経済学中級 a,b (三田　火曜日 1,2 限)
計量経済学概論　(日吉　水曜日 2 限)

8. ゼミHP・SNS
http://seminar.econ.keio.ac.jp/tanakasemi

9. 連絡先
外ゼミ代表　中川真人
　連絡先　mac0503jp@yahoo.co.jp
内ゼミ代表　小川徹
　連絡先　svain2b8929@gmail.com
入ゼミ担当　松井圭介
　連絡先　keisuke.matsui@gmail.com
入ゼミ担当　森本留名
　連絡先　sunshineforce1230@gmail.com

長倉大輔研究会
―計量経済学―

1. 研究分野
私の研究会では計量経済学と呼ばれる分野を研究しています。計量経済学とは、経済データを統計的に分析する際に発生する様々な問題を解決する手法について研究、開発し、またそれらの手法を用いて現実のデータを分析する(実証研究)分野です。統計学の手法を基礎とし、他の分野のデータにない経済データ特有の問題を解決するために様々な方法が考えだされています。私の研究会では基本的には計量経済学の理論を学びます。ゼミ生の三田論や卒論はそれらを現実のデータに応用した論文が多いですが新たな手法について理論の論文を書くゼミ生もいます。論文のテーマは計量経済学の手法が関連しているのであれば何でも可としています。3 年生はいくつかのグループに分かれて三田祭の論文を書く事を目標として進めていきます。3 年生の前半は計量経済学の手法やその手法を実際に実行する際のソフトウェアの使い方(R というフリーのソフトウェアを使っています)等についてさらに勉強し、中盤から後半にかけては三田祭の論文のテーマを探すために既存研究のサーベイ(論文発表)をします。論文のテーマが決まった後はそれぞれのグループ毎に途中経過を発表してもらいます。4 年生は基本的に卒業論文を書くことに集中してもらう予定です。成績はゼミや論文執筆グループへの

参加度、貢献度、ゼミ中の態度などを見て総合的に判断して付けます。

2. 学生への要望
(1) 計量経済学を学ぶ過程で、統計学や数学も意欲的、自発的に勉強できる。
(2) 自分で積極的に論文のテーマを探すことができる。
(3) ゼミ内で与えられた仕事は責任を持ってやる。
という学生を歓迎します。私のゼミでは自主性を重視していますので(やや放任ぎみなのかもしれませんが)、何事も積極的に取り組んでいける学生を期待しています。

3. 選考について
募集人数:
特に制約は設けていませんが、だいたい毎年 10 人から 15 人くらいの間です。
選考内容:
面接、試験を行い、また指定論文の要約と成績表も提出してもらいます。
選考基準:
上記の内容を見て総合的に判断します。

指定論文について等、ゼミのページ:
https://nagakurastatisticsfrom2011.jimdo.com/ に随時情報を載せていきます。

4. ゼミ員構成
3 年生 15 名(男 14 名、女 1 名)(留学中 0 名)
4 年生 10 名(男 8 名、女 2 名)(留学中 0 名)

5. 活動紹介
① ゼミ(月曜4, 5限)
本ゼミでは4限に計量経済学の様々な手法の理論的な面を学んだ上で、5限に R を実際のデータを用いて演習を行うという形式をとっています。4限では長倉教授に講義をしていただき、5限では4年生の先輩方に教えてもらっています。
② サブゼミ(春学期水曜4, 5限)
パネルデータについての教科書を輪読することで、理解を深めています。
③ パートゼミ
三田論のパートごとに分かれて集まっています。内容、日程ともにパートごとに異なります。
④ インゼミ
行っておりません。
⑤課外活動
特にありません。
⑥三田祭

3 年生がパートごとに 1 本ずつ論文を制作し、提出しています。

⑦夏休み

活動は合宿のみで、三田論作成のため各パートが自主的に集まることがあります。

⑧合宿

9 月中旬に 2 泊 3 日で行われます。三田祭論文の途中経過を報告した後、ゼミ員の交流を深めています。

⑨授業

上記の本ゼミ、サブゼミおよび春学期の時系列分析の講義がゼミ必修となっています。

⑩経費

都度必要額を集めています。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

線形代数　教科書
微分積分　教科書
統計学　講義レジュメ

7. 先生が担当している講義

演習(春後半(三田)、水曜日 4、5 限)
時系列分析 b(秋(三田)、金曜日 3 限)
統計学 II (秋(日吉)、木曜日 2 限)
統計学 I (PEARL)(秋(日吉)、木曜日 1 限)

8. ゼミHP・SNS

https://nagakurastatisticsfrom2011.jimdo.com/
https://twitter.com/nagakura_2014

9. 連絡先

外ゼミ代表　江崎　卓翔
連絡先　ezaki.takuto@keio.jp
内ゼミ代表　田中　諒
連絡先　rytnk199616@keio.jp
入ゼミ代表　古畑　和輝
連絡先　f_kazuki@keio.jp

星野崇宏研究会

—計量経済学・行動経済学・人工知能とその応用—
(マーケティングや経営、社会現象について)

1. 研究分野

指導教員はこれまで統計学・計量経済学・機械学習の基礎研究と、マーケティング・行動経済学・脳科学・公衆衛生など様々な分野への応用研究を行ってきました。また、様々な分野の企業の顧問や共同研究を行っており、その関係から企業から提供いただいた実店舗の購買履歴データ、Web サービスでの利用履歴データ、市場調査データや SNS データなどによる共同研究を行っています。さらに店舗や EC サイトでのフィールド実験、学生を対象とする調査や経営者・担当者へのインタビューなどを実施する場とノウハウを研究室として有しています。

このような経緯から当研究会では、経済学部の研究会としては珍しく、基礎的な研究だけでなくマーケティンングや行動経済学の応用など、より実践的な分野に関心のある学生も歓迎しており、理論と実践を両立し、磨きあう場となることを目指しています。当研究会では下記に記載する分野に関心のある学生を指導可能です。

【基礎的な分野】

統計学と計量経済学/いわゆるビックデータ解析(統計学と機械学習の中間領域)/行動経済学と心理学(ヒトの非合理性と行動の傾向の理解)

【応用的な分野】

マーケティング。金融、消費財メーカー、小売業、Web サービス、政府公共機関、NPO など/行動経済学の応用。特に企業・組織の経済学や、公共マーケティングへの応用/人的資源管理や組織行動などの経営学/流行や同調などの社会現象の経済学的理解/教育や医療など応用計量経済学

バラエティに富んでいますが、データ、統計学、数理モデルなど実証的なアプローチを用いた経済・経営・人間行動の研究についてであれば対象は限定しません。

研究室ではまず基礎固めとして各人の関心に沿ってグループ単位で統計学と計量経済学、マーケティングや経営のための経済学、行動経済学や心理学などの基礎的な文献についての討議をします。また、座学だけでなく、何らかのプロジェクトに参加することで学ぶ、オンザジョブトレーニングが非常に有効だと考えています。そこで、マーケティング大会への参加・企業との共同企画開発(下記課外活動を参照)・データ解析コンペへの参加・リアルな場での実証実験などに取り組んでいます。ちなみに指導教員は日本の AI 研究の中心である理研 AI プロジェクトのチームリーダーも兼任し AI の数理と経済経営への応用の研究も行っています。

2. 学生への要望

経済のグローバル化と技術革新、産業構造の変化のペースは一段と早くなっており、今後本学部を卒業しても将来が完全に保証されるわけではない時代が来るでしょう。所属する組織がどこであれ自分の力で活躍し、所属組織さらには社会に貢献する有為な人材として育っていただくために、当研究会では時代によらず必要とされる力を身につけてもらいたいと思います。昨今流行りのビッグデータに代表されるようなデータ解析の技術だけにとどまらず、マーケティングなどの様々な手法をもとに自らの発想力を磨きさらにはそれを実現に移していく能力を是非当研究会の学びの中で獲得していただきたいと思います。

3. 選考について

①募集人員:A 日程で 18 名程度
②選考内容:レポート、面接、成績表
③選考基準:各自の関心事項に対して学び実践する意欲と積極性を重視します。統計学やビッグデータ解析に関心と適性のある学生を 8 名程度、残りをマーケティングや行動経済学に関心と適性のある学生とします。

4. ゼミ員構成

3 年生 19 名(男 12 名,女 7 名)(留学中 3 名)
4 年生 18 名(男 9 名,女 9 名)(留学中 0 名)

5. 活動紹介

① 本ゼミ（火曜 3 限、火曜 4 限）

マーケティングや行動経済学、計量経済学の基礎を学ぶとともに、各班の毎週の進捗状況をプレゼン形式で発表しそれに対する先生やゼミ生からのフィードバックを受けています。また、先生の顧問先の企業の方をお招きして講義を行っていただく機会もあります。

② サブゼミ（火曜 5 限）

マーケティング手法やデータ解析手法について輪読形式で学びを深めています。また、プロジェクトごとに集まって研究方針や具体的な手法を話し合っています。

③ パートゼミ

解析班:　野村総合研究所主催マーケティング分析コンテスト/第 6 回データビジネス創造コンテスト(慶応義塾大学 SFC 研究所主催)

マーケティング班:　企業との共同研究

④ インゼミ

本年度は青山学院大学経営学部横山ゼミさんとのインゼミを行いました。

⑤課外活動

企業との共同研究、有給インターン派遣、例えば

・リクルートライフスタイルとの位置情報を用いた訪日外国人へのマーケティング施策研究

・富士通研究所との地方創成施策の評価の共同研究

・花王とのデジタルマーケティングの共同研究

・コカコーラとの価格弾力性の共同研究

・トライアルカンパニーとの購買行動理解の共同研究

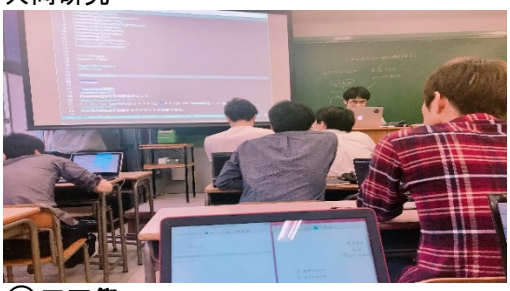
・インテージとのメディア接触行動の共同研究

・LINE とのネットいじめの共同研究

・無印良品と EC と店頭での購買行動の共同研究

・日経リサーチとの金融行動への行動経済学の応用についての共同研究

・プロトコーポレーションとのアドテク最適化の共同研究



⑥三田祭

論文の発表や展示を行います。一昨年新規ゼミとして史上初の三田祭論文金賞を獲得しました。

⑦夏休み

プロジェクトごとに定期的に集まり研究を進めます。

⑧合宿

9 月に熱海で 2 泊 3 日の合宿を行いました。

⑨授業

ゼミとしての必修授業はありません。

⑩経費

年会費（3千円）や合宿費（今年 2.6 万）などです。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

特にありません。

7. 先生が担当している講義

星野先生は、ベイズ統計学(通年/火曜 2 限)と計量経済学中級(春学期/水曜 3,4 限)を担当されています。

8. ゼミHP・SNS

ゼミ HP　http://hoshinoseminar.com/

ゼミ Twitter　@hoshinoseminar

9. 連絡先

外ゼミ代表/陸瑛里香/ eririri03@gmail.com

内ゼミ代表/小林協介/ kyosuke.kobayashi@keio.jp

入ゼミ代表/中村華奈子 kanako-nakamura.fee@keio.jp

宮内環研究会
―市場の数量分析―

1. 研究分野

当研究会の研究分野は「市場の数量分析」です。諸君はミクロ経済学で、”The Edgeworth box” を用いるなどして ”Pareto Optimality” の概念を学んだはずです。市場はこの意味で資源の最適配分を実現する装置ですが、市場のこの機能が作動するためには一定の条件が必要です。主にこの研究会では市場機能の作動についてミクロ経済学に基礎をおきながら統計学的、計量経済学的観点から分析を進めます。

研究会の最終目的は卒業論文を仕上げることです。研究会ではこの目的のために、論文の書き方についての勉強、およびそれを実践する過程での多くの議論が不可欠です。論文は単なる学習記録とは異なります。論文によって明らかにされる知見が社会の知的財産とならなければ論文の意味がありません。たとえば象の体の毛穴の数を数えたところで、それが社会にとって有用な知見とできるか否か、この点が論文では問われます。さらに論文は科学的作法に基づいて構成された仮説、および適切に選ばれた観測方法によって得られた観測事実、これら両者を突合せて仮説の検証結果を記述します。したがって論文作成の過程では、仮説の構成、観測方法の選択、これら両方が適切であるか様々な観点からの検討が必要です。このために研究会では参加者各自の論文を仕上げる過程で多くの議論を行います。

すでに市場の分析を行った論文を参考にすることはよいことです。この領域の多くの論文は英語で書かれています。英語の論文を読むことに抵抗があれば、英語の論文に慣れることも大事な目的の一つです。

以上を要約すると、論文の書き方の勉強、論文作成過程での議論、英語で書かれた論文にも慣れて多くの先行論文を読む、主にこれらの活動を通じて市場の数量分析を進めます。

2. 学生への要望

当研究会を志望する学生諸君は、三田に来る前に日吉で学んだ科目の内容をしっかりと復習し、自分のものにしておいてください。これまでは解くべき問題と正解が与えられることが多かったでしょう。しかし三田の研究会では自身が解くべき問題を見つけ、自分が持っている知識をどのように適用すれば知りたいことが分かるのか、そのためにはその問題への接近法は何が適切なのか、このように考える作法を三田の研究会では学びます。そのためには日吉で学んだ科学的知識が確かなものでなくてはなりません。その準備を来年の 4 月までにしっかりと整えておいてください。

3. 選考について

④ 募集人員：AB 日程合わせて 10 名程度

⑤ 選考内容：事前レポート、志願書および成績表による書類審査

⑥ 選考基準：日吉で学んだことを市場の数量分析のために適用する準備ができているか。

4. ゼミ員構成

3年生 12 名（男 9 名、女 3 名）（留学中0名）
4年生 10 名（男 9 名、女 1 名）（留学中0名）

5. 活動内容

①本ゼミ（火曜4・5限）
②サブゼミ（火曜6限）
本ゼミでは論文や文献の輪読、または個人研究や三田祭論文についてのプレゼンテーションを中心に行います。発表に対して宮内先生、ゼミ生から質問を受け、それに答える形でゼミは進行します。個人研究に関しては、計量経済学・統計学の枠組みにとらわれず、自由な課題設定をすることが可能です。サブゼミ・パートゼミでは自由にそれぞれの課題を研究する時間にしています。
③④ パートゼミ・インゼミ 特に無し

⑤課外活動　今年度はソフトボール大会に参加しました。
⑥三田祭　三田祭論文の発表と、今年度は中庭で模擬店を出店します。
⑦夏休み　合宿に向けて各自論文の準備を進めます。
⑧合宿　今年度は9月12日～14日の日程で新潟県の酒田というところに行きました。酒田には隔年でいくのですが、来年度はゼミ生で話し合って行く場所を決めます。昨年は2泊3日で群馬県の草津にて合宿を行いました。3年生は三田論文の発表と4年生は卒業論文の発表を行います。飲み会やその他のお楽しみも自由に決められます。
⑨先生が担当している講義
計量経済学概論(日吉、秋学期、月2)
自由研究セミナーa,b(日吉、月1)
社会科学基礎論 a,b(三田、火3)
演習(三田、春学期、月4)
計量経済学上級 b(三田、秋学期、月4)　☆ゼミ必修
計量経済学上級 b（三田、秋学期、金曜日1限）☆ゼミ必修
演習（三田、春学期、金曜1限）
⑩経費
合宿費等。

6.　ゼミ試験で使用した参考書
日吉での勉強を復習すれば十分です。
授業で使用した参考書で対策可能です。

8.　ゼミ HP
seminar.econ.keio.ac.jp/miyauti/index.html
Twitter　: @miyauchi_2017

9.　連絡先
外ゼミ代表　森瑞季　メールアドレス
morimiretoss@gmail.com
入ゼミ担当　小林直輝メールアドレス
kd3kdck@gmail.com

産業・労働経済学

赤林英夫研究会

植田浩史研究会

太田聰一研究会

三嶋恒平研究会

赤林英夫研究会

―計量分析と実験による教育の経済学・家族の経済学―

1. 研究分野

教育の経済学・家族の経済学

どのような理論も、現実の問題の解決に対して有効でなければ意味がありません。この研究会では、経済理論を学ぶだけではなく、現実のミクロデータの計量分析と経済実験を通じ、経済学を社会の改善のために生かす手法と実践を学びます。担当者の現在の関心は**教育経済学**と**家族の経済学**ですが、それらの基礎となる**労働経済学**についても学びます。そこでは、今後の日本にとって最も重要な、しかしお金だけでは解決できない、教育、家族、労働の問題を正面から扱います。

ミクロデータの計量分析は「ビッグデータ」の基礎技術の一つとして、ビジネス・マーケティングにおいても大きな価値を持っています。研究会で学ぶ視点や分析手法は、シンクタンクや国際機関での政策評価に使えるだけでなく、未来の IT 社会におけるデータの価値を理解し、データに基づいた新しいビジネスの可能性を考えるきっかけにもなります。

また、**行動経済学・実験経済学**の手法の広がりは、教育や家族の分析のアプローチを変容さえつつあります。担当者は、子どもや家族を対象とした経済実験を実施しており、研究会の参加者は、それらのプロジェクトへの積極的関与を期待されます。

卒論・三田祭研究では、上記のアプローチであれば、広い範囲の社会経済問題からテーマを選ぶことができます。そこでは、問題発見・理論構築・データ開発・実証と、オリジナリティを重視します。

英語によるプレゼンテーションと討論

自分の考えを日本語で説明できるということは、もはや社会が皆さんに求めるスキルの十分条件ではありません。グローバル化は、英語で説明し、議論できる能力を要求します。研究会では原則英語の文献を読み、プレゼンテーションの3分の2を英語で行うことを目標にしています。**英語に自信のない人も、人一倍のやる気があれば参加できます。また本年度より、PEARL の学生を受け入れる予定です。**

さらに研究室のプロジェクトに参加

本研究会では、勉強会方式に加え、研究室のプロジェクトに参加する意欲のあるゼミ生も募集します。本格的な研究の一端を経験したいと思う人には、是非積極的に参加してもらいたいと思います。

これらの学習を通じた最終目標は、**現実の新しい経済社会事象と向き合う時に必要な、自分の頭で思考し、事実を分析し、人に伝え、社会を変えるための力**を獲得することです。その力とは、経済学的な視点と論理、データを解析する技術、そしてへたな英語でも臆せず使うパワーです。これらは、皆さんが社会に出てから成長し続けるための、一生の財産になるでしょう。

2. 学生への要望

本研究会では、多様な関心を持つ人を歓迎します。ただし志望するためには、日吉で初級ミクロ経済学又はミクロ経済学入門と統計学の単位をすべて取得していることを最低条件とします。計量経済学概論の履修も強く勧めます。

・facebook ページ　慶應義塾大学経済学部赤林英夫ゼミナール

・twitter　@akbzemi2017

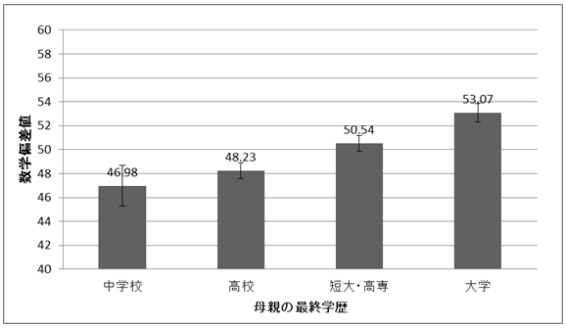
に必ず目を通しておいて下さい。入ゼミの最新情報が発信されています。

・ゼミナール参加者は Stata による統計分析を習得します。そのため、Stata の購入が必要です。

研究内容の紹介

本研究室では、**最先端の教育経済学研究**を行っています。特に、慶應義塾大学パネルデータ設計・解析センター、こどもの機会均等研究センターと連携し、日本で唯一、研究目的で利用可能な、学力を含む子どもの追跡データ(JCPS)を収集しています。JCPS は、世代間の格差の伝搬の分析や、家庭内教育の国際比較に利用されています。研究室では、他に、政府や自治体のデータを利用した教育政策の評価分析や、子どもを対象とした経済実験を行っています。

母親の学歴と子どもの数学の偏差値
(赤林他 2012)



3. 選考について(2016 年度)

①募集人数　10 人。原則 A 募集のみ。4年生、他学部も応募可

②選考内容　（以下予定）レポート提出・教員面接・日吉の成績表の組み合わせ。

③選考基準　1-2 年で勉強している証拠があること、自分で問題を考え、明快に説明できること。やる気と行動力。英語力は入ゼミ時には不問だが、強烈な向上心は必要。

4.　ゼミ員構成

3 年生　10名(男8名、女2名)(留学中1名)
4 年生　6名(男3名、女3名)(留学中1名)

5.　活動内容

①本ゼミ（水曜日4・5限）

今年の春学期は、計量経済学と教育経済学、また統計分析ソフトの Stata に関する英語文献やネット上の資料、動画を用い、グループになってそれぞれ要約やデモンストレーションなどを行い発表しました。毎回各グループの発表に対して 3・4 年生でディスカッションを行い、先生からも意見を伺ったりすることで応用ミクロ経済学全般の知識の獲得と、プレゼン能力の向上を図ることが出来ました。英語の文献や資料、動画を用い、プレゼンと発表後の質疑応答も積極的に英語で行いました。

秋学期は三田論文・卒業論文の中間発表を中心に行う予定です。

②サブゼミ

特になし

③パートゼミ

特になし

④インゼミ

今年は現在検討中です。

⑤課外活動

ゼミ生は有志で赤林英夫先生の研究室が行っている教育政策・家族政策の評価分析プロジェクトに参加することができ、研究現場の最前線を体験することができます。

今年度は11月中に行われます。

⑥三田祭

今年は「奨学金」と「進学の意思決定の要因」をテーマに論文を執筆します。適宜先生からアドバイスを頂きながら、各班それぞれメンバーが協力しあって進めています

大変なことも多い三田論ですがこの経験は学生生活の財産になるでしょう。

⑦夏休み

３年生は自主的に三田論のパートごとに集まり、三田論の作業を進めました。

⑧合宿

９月１日から二泊三日の夏合宿が行われ、３年生は三田論の中間発表を、4年生は卒業論文の中間発表をそれぞれ英語と日本語を交えて行いました。また、普段の授業でも行われる論文の輪読に加え、グループディスカッションも行いました。

⑨授業

今年はミクロ経済学中級 I、計量経済学中級、労働経済論がゼミ必修授業でした。

⑩経費

テキスト代（コピー代含む）、Stata（統計ソフト）の学生版購入代、新歓・夏合宿代、飲み会代などがかかります。

6.　ゼミ試験対策で使用した参考書

今年度も成績表とレポートの提出と教授面接にて評価を行う予定です。筆記試験を行う予定はありません。レポートの課題は未定ですが、日吉のミクロ経済学・統計学のテキスト、プリントを参考にすることを推奨します。

昨年はレポート課題として、論文の要約を行いました。昨年の課題論文の詳細はゼミの facebook ページにあります。

7.　先生が担当している講義

労働経済学（三田、春学期前半・水曜日、金曜日 1 限）

家族と教育の経済学 a（三田・秋・水曜日1限）

8.　ゼミ HP

ゼミの facebook ページがあります。『慶應義塾大学経済学部赤林英夫ゼミナール』と検索してください。

9.　連絡先

外ゼミ代表　藤田　将伍
メールアドレス　sfsyosan18@gmail.com
入ゼミ担当　村松　昂　川島　好太郎
メールアドレス ko_muramatsu@gmail.com

植田浩史研究会

― 産業論、企業論、中小企業論 ―

1. 研究分野

植田浩史研究会では、日本や海外の産業、企業についての研究を文献や実際の企業訪問などを通じて行います。研究会での勉強や経験を通じて、現実の産業、企業、技術に対して、歴史的視点、現状分析的視点、国際的視点から考察していきます。企業や産業・地域の現場で起きていること知るとともに、そこで起きている問題を正確に理解し、多面的かつ論理的に分析していく力をつけていくことを課題としています。

日常のゼミでは、国内外の産業や企業に関する文献を輪読しています。アカデミックな研究書からビジネス書に近いものまで、多くの文献に目を通し、具体的な問題から日本経済や世界経済の現状や課題について議論しながら、勉強しています。

また、夏休みには毎年2泊3日程度で特定地の地域に滞在し、地元の企業などを訪問する地域調査を実施しています。最近では、2011年札幌、2012年函館、2013年十勝・帯広、2014年倶知安・ニセコ、2015年十勝・帯広、2016年函館、2017年十勝・帯広、と北海道が続いています。東京とは全く異なる環境で企業や地域、そしてそこに住む人々がどのような営みを行い、どのような課題に直面しているのか、地域の企業を見学し、経営者の方々と話をする中で勉強していくのか、調査合宿の課題です。

また、調査合宿では、後述する商工中金懸賞論文のテーマ別にグループを作り、グループで訪問先と質問内容を決め、グループごとに準備を進めてきました。このほか、夏休みや春休みに企業訪問を行うなど、企業や産業の実態を肌で感じられる場を持てるのが、この研究会の一つの特徴になっています。

3年生は、中小企業向け金融機関である商工中金の研究機関、商工総合研究所の懸賞論文にも挑戦しています。商工総合研究所が決めた中小企業に関する研究テーマに対して、自分たちで課題を設定し、調査対象を決め、ヒアリングや資料を集めながらグループで論文作成をしています。今年度は、金融や産業に関するテーマに対し、グループに分かれて、研究しています。

2. 学生への要望

まず、現実の産業や企業の動向に関心を持ち、何事に対しても深く突っ込んで考え、調べていくこと、そしてそのための労をいとわないこと
を要望します。

研究会は、第1に学ぶ場ですから、予習や宿題は必ず行う、欠席はしない、議論には必ず参加し、積極的に発言する、ことを最低限守るべきこと、と思ってください。

また、サークルなどとは異なり、ゼミはゼミの仲間と一緒に悩みながら勉強を進めていく場です。仲間と一緒に勉強していくことは、学問する上ではもちろん、新しい友達を作っていく上でも非常に重要な場です。

研究会に参加する2年間は、期間としては決して長いものではありませんが、人生の中で、もっともいろいろなことをじっくり考えられる期間です。この2年間に、出来る限り多くのことに接し、多くのことを吸収し、多くのことを学び、考えてもらいたいと思っています。

3. 選考について

①募集人数

例年15名前後を募集しています。来年度も同じ人数で募集する予定です。

②選考内容

例年、入ゼミ希望者に対して課題を設定し、6000～8000字程度のレポートを出してもらいます。その上でレポートの内容を参考にした面接を行っています。来年度についても、同様な形式で選考を行う予定です。但し、レポートの課題や字数については、年によって異なりますので、注意してください。

また、レポートの内容や研究会活動への意欲を確認するなどの目的で、面接（個人またはグループ）を実施しています。

選考は、入ゼミレポートと面接の総合判断で行います。
③選考基準
産業・企業に対しての関心の高さや最低限の経済学や社会に対する知識、勉強やゼミ活動への意欲を評価しています。

4. ゼミ員構成
3年生 22 名(男 15 名、女 7 名)(留学中 1 名)
4年生 21 名(男 12 名、女 9 名)(留学中 0 名)

5. 活動紹介
① ゼミ(金曜 4,5 限)
輪読を中心に行います。先生が指定された文献の要約と討論する。議論テーマを担当者がそれぞれ作成し、それを元にディスカッションします。さらに、今年からは各班 5 人班を作り、グループディスカッションをして意見をまとめ、ゼミ員全員と共有します。また、4 年生は卒業文の発表を本ゼミで行っています。
② サブゼミ(月曜 4,5 限)
3 年生がいくつかのグループに分かれて、商工中金主催の中小企業懸賞論文を制作しています。今年度は「中小企業の多様な人材」「ソーシャルビジネスの発展と中小企業」「中小企業の生産性向上と金融機関の事業性評価」「人口減少化での小規模企業の存続・発展と地域金融機関の役割」をテーマに、各グループで企業訪問や研究・分析を重ねて論文を作り上げます。
③ パートゼミ
今年度は特になし。
④ インゼミ
今年度は特に予定なし。

⑤課外活動
当ゼミの大きな特徴の一つで、現実の産業・企業・技術に即して学ぶためにフィールドワークを積極的に行っています。今年度は 6 月中旬に「大田区加工展示技術展示商談会」に行きました。その他にサブゼミや夏合宿でも数多くの企業に訪問し、精力的に実地の経験を積みます。

⑥三田祭
三田祭ではサブゼミや合宿で作成した懸賞論文を三田祭論文として発表しています。

⑦夏休み
夏休みは夏合宿と論文合宿を行い、それと並行して三田祭で発表するための懸賞論文を仕上げます。

⑧合宿
3 年生だけで行く夏合宿は、懸賞論文のテーマに合わせて先生と相談し合宿地を決めます。今年度は北海道帯広へ訪問し、地場産業への実施調査を行いました。3、4 年生全員で行く論文合宿では、首都圏近郊で懸賞論文と卒業論文の中間発表を行います。三田祭ではサブゼミや合宿で作成した懸賞論文を三田祭論文として発表しています。

⑨授業
幅広い分野の産業や企業、現実の事例を踏まえて色々な角度の視点から分析し、フィールドワークを積極的に行い、多面的に分析、洞察する力を養う。

⑩経費
輪読で使用するための教科書代＋夏合宿代＋その他

6. ゼミ試験対策で使用した参考書
ゼミ試験の課題が「特定の産業、または企業を取り上げ、事業環境と競争構造の変化、現状と課題について述べよ」だったので、それに応じた参考書を各自用意すること。

7. 先生が担当している講義
今年度はなし

8. ゼミHP・SNS
URL:http://seminar.econ.keio.ac.jp/ueda/

9. 連絡先
外ゼミ代表:
石田摩希 maki.ishida0709@keio.jp
入ゼミ担当:
杉本宙睦 hirosugimoto515@gmail.com

太田聰一研究会
―労働経済学―

1.研究分野
研究分野は労働経済学です。研究テーマとしては、計量経済学にはじまり、労働市場の均衡、賃金格差、労働組合の役割、雇用慣行、昇進とキャリア、失業問題など極めて多岐にわたるのが特徴です。

《太田先生について》
～About Professor Ota～
京都大学経済学部卒業、同大学院経済学研究科博士前期終了の後、名古屋大学経済学部助教授、同大学院経済学研究科教授を歴任。2005 年に慶應義塾大学経済学部教授に就任しました。最終取得学位：Ph.D.受賞歴：冲永賞，エコノミスト賞

2. 学生への要望
《ゼミの雰囲気》～What's Ota Seminar like?～
太田ゼミと他のゼミの違いは特にその自由度の高さにあります。明確な目的意識を持っている人にとっては、それを発揮するこの上ない環境になります。しかし、その代わりにゼミ員には高いレベルを要求します。ゼミを行う日には徹底的な質問、話し合いが交わされます。その日のプレゼンでは、ダメなアウトプットに対してはダメだと言い切られます。それはそのように振る舞うことがお互いのためになると全員が理解しているからです。
さらに、太田ゼミでは週1回しか顔を合わせないため、時間の濃度を非常に大切にしています。例えば、論文執筆のための合宿では栄養ドリンクを大量に並べて文字通り死ぬ気で勉強しますし、イベント後の飲み会では徹夜で遊び散らかすのが常です。

ゼミ生は各々様々なバックグラウンドを持っています。サークルでの運営・活動に勤しんでいる者、部活でスポーツに携わる者、海外・社会人に数多くの人脈を持つ者。ゼミ生それぞれがゼミ以外での活動にも勤しみ、自身のバックグラウンドの充実、目指す人間像の確立を図っています。しかし、各々の活動と両立してゼミでの活動にもしっかりと参加でき、責任感のある方に志望していただきたいと考えています。それでは、たくさんの2年生の皆さんが太田聰一研究会を志望してくださることをゼミ生一同願っております。

3. 選考について
《入ゼミ》～How do I get into Ota Seminar?～
・A 日程、B 日程ともに「ゼミ生の面接のみ」
・成績提出なし、ペーパーテストなし
・事前課題について…労働経済に関する論述課題（A日程：4000-5000 字以内の課題を 2 稿、
B日程：400 字以内の課題を 2 稿）を実施
・求める人物像…積極的に発言をする行動力のある人・責任感の強い人
・昨年度の倍率 A 日程 2.1 倍(9/19)B 日程 5 倍(6/30)
・参考資料 レポート課題は毎年内容が異なるため、決まった参考文献は特にありません

4. ゼミ員構成
3年生：15 名(男 11 名、女 4 名)(留学中 0 名)
4年生：15 名(男 11 名、女 4 名)(留学中 1 名)

5. 活動紹介
① ゼミ（水曜 4,5 限）
グループディスカッションと輪読を中心に行います。グループディスカッションでは毎週担当者が労働経済学に関連するテーマを選択し、現状分析や課題などをプレゼンします。プレゼンを踏まえ、テーマに関するお題に対し 3 年生 4 年生全員でディスカッションをします。また輪読では、先生から指定された文献を各週の担当者が要約として発表し、発表内容に対してゼミ員と先生で議論を交えます。
② サブゼミ
行っておりません。
③ インゼミ
今年度は法政大学とインゼミを行う予定です。
⑤課外活動

ソフトボール大会等
⑥三田祭
三田論の発表を行います。
⑧合宿
新歓合宿:
5 月に 1 泊 2 日で宿泊し、ソフトボール大会の練習やゼミ員同士の親睦会を行います。
夏合宿:8 月に 2 泊 3 日で宿泊し、三田祭論文の執筆を進めます。
⑨授業
ゼミ必修授業はありません。
⑩経費
新歓合宿:5000 円
夏合宿:25000 円

6. ゼミ試験対策で使用した参考書
レポート課題は毎年内容が異なるため、決まった参考文献は特にありません。
7. 先生が担当している講義
・経済学で考える人生設計:勉強・家庭・キャリアの選択(日吉後期金曜 5 限)
・演習半期(三田前期木曜 2 限)
・専門外国語購読 a/b(英)(三田前期木曜 1 限)

三嶋恒平研究会

―産業・労働経済―

1. 研究分野

本研究会では、工業経済、新興国、企業戦略、イノベーションに関する実態と歴史と理論の 3 点に関するバランスのよい理解を目指します。この背景には、学生の皆さんに自分の頭で考え、自分なりの意見を持ち、それを他者との意見を通じて高め合っていってほしい、という本研究会のねらいがあります。

まず、本研究会では経済、経営の実態把握に向けたフィールドワークに取り組んでいきます。フィールドワークとは企業や官庁などに足を運び、企業を取り巻く経済状況や競争環境について経営者などにインタビューを行い、現場において自分の目や耳など五感をフルに働かせながらその問題点を探っていく、というものです。フィールドワークは単に現場を訪ねるだけでなく、訪問先企業・官庁の業界分析、質問事項の作成、アポイントメント、スケジューリング、報告書作成、プレゼンなど企画立案から管理運営、評価分析というビジネス・プロセスに準じたステップを踏んでいきます。

フィールドワーク先は日本企業の中でもグローバルな競争優位を有する製造業が中心になりますが、製造業にまつわるサービス業、金融業も対象となり、学生の興味関心も優先したいと考えています。

また、フィールドワークに際して、歴史と理論が現場の問題点を発見し、その解決策を考察するためのツールになると考えます。そうしたことから、本研究会では歴史と経済・経営に関する理論についても学んでいき、特に(1)新興国・日本の産業・経済発展のありよう、(2)企業の組織と戦略に焦点を当てようと考えています。そこで皆さんの興味関心を踏まえながら、例えば、以下の文献のいくつかを研究会では取り上げる予定です。

青島矢一・加藤俊彦(2012)『競争戦略論 第 2 版』東洋経済新報社。
末廣昭(2014)『新興アジア経済論　キャッチアップを超えて』岩波書店。
井上達彦(2014)『ブラックスワンの経営学　通説をくつがえした世界最優秀ケーススタディ』日経 BP 社。
藤本隆宏(2003)『能力構築競争』中公新書。

2. 学生への要望

3 年生は三田論、4 年生は卒業論文を書き上げることを目的にゼミでの活動に主体的に取り組むこと、ゼミに毎回出席し議論に参加すること、課題等期日を守って提出すること、は最低限守ってください。

フィールドワークはアポとりや質問作成、訪問先への移動、事後のお礼等煩雑な作業も多く発生します。また、自分の研究テーマと一見関係がないような組織を訪問調査することもあります。これらを厭わず取り組めるかどうかも重要です。

さらに本研究会は上記のような学びにおいて、ベンチャー・中小企業の社長、大企業の管理職・若手社員、官庁職員、他大学の学生、アジアの新興国の学生など幅広い人たちと接し、交流する機会を数多く設けていきます。それゆえ、本研究会は「何でもやってみよう」という積極さを学生の皆さんには望みたいと思います。

3. 選考について

① 募集人員:約 10 名
② 選考内容:レポートと面接
③ 選考基準:
(レポート)文献の理解度、論理性、オリジナリティの 3 点と研究会でやりたいこととの具体的な関連性
(面接);これまで頑張ってきたこと、将来の目標、研究会でやりたいことの 3 点が本研究会とどのように関係しているか。

4. ゼミ員構成

3年生:12 人(男子 6 人、女子 6 人)
4年生:14 人(男子 10 人、女子 4 人)
(留学中 1 名)
修士 1 年:1 名(留学生)

5. 活動紹介

① ゼミ（火曜4・5限）

本研究会では、工業経済、新興国を中心とする国際経済、企業戦略、中小企業論に関して実態と歴史と理論の 3 点のバランスの良い理解を目指しています。
具体的には課題図書、フィールドワークに関するプレゼンテーション、ゲストスピーカーによる講義などの活動を通して上記の分野の基礎を身につけます。
前期の後半から後期にかけては 4 年生の卒業論文に関する発表・ディスカッションも行います。

② サブゼミ（金曜4・5限）

実際に企業に足を運び経営者の方々にヒアリング調査を行うフィールドワーク、そのための質問事項の作成、ゼミで扱う課題図書やゲストスピーカーに対する議論を中心に進めています。活動内容は大変濃く忙しいため、ゼミに時間を割ける方をお待ちしております。

③インゼミ

今年度は昨年度に引き続き慶應商学部の井口ゼミとインゼミを行います。

④課外活動

ソフトボール大会、IB インカレ

⑤三田祭

今年度は三田論ブースに参加します。昨年度は模擬店も出店しました。

⑦夏休み

合宿の準備、三田論準備のために各班で集まり作業することがあります。

⑧合宿

夏休みに国内合宿、海外合宿を行います。
今年度は熊本とベトナムを訪問しました。

⑨授業

三嶋先生の工業経済論（三田、通年、火曜日 2 限）がゼミ必修にあたっています。

⑩経費

合宿費等

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

特にありません。レポート執筆のための課題図書を読み込みます。

7. 先生が担当している講義

工業経済論（三田、通年、火曜日 2 限）

8. ゼミHP・SNS

ゼミ HP
https://mishimasemi.wordpress.com/
Twitter
@mishimazemi2018

9. 連絡先

外ゼミ代表　伊藤太壱
taichi.ito.1102@gmail.com
内ゼミ代表　岩瀬美由希
miyuki-iwase@keio.jp
入ゼミ担当　白井悠香
harucororin@keio.jp

制度・政策

駒村康平研究会

寺井公子研究会

土居丈朗研究会

山田篤裕研究会

駒村康平研究会
―社会保障・社会政策―

1.　研究分野

少子高齢化の進展、所得格差・貧困の拡大のなか、年金、医療、介護、生活保護、障害者、児童福祉といった社会保障制度に関わる多くの問題が人々の関心を集め、最近も社会保障・税一体改革として重要な政策課題となっています。さまざまな社会保障のための費用は、年額約 120 兆円、日本の GDP の2割以上を占め、今後もどんどん大きくなることが予想されます。本ゼミでは、高齢化社会の進展のなかで、社会保障制度がどのような役割を果たし、どのような問題を抱えているのか、そしてどのような改革案があるのか、それをどのように実行していくのかを研究していきたいと思います。また学内・他学部、他大学等、外部機関との研究交流、見学、各種研究会での報告なども進めていきたいと思います。なお現在の私の研究テーマは、高齢化社会、格差・貧困、雇用問題、生活保護、および子育て支援政策、障害者福祉、年金制度改革が中心となっています。

2015 年度の実績・課題は以下の通りです。

大学交流会：早稲田大学、同志社大学。

三田祭発表：「将来の社会保障制度について：技術革新と労働問題に関する報告」

2.　学生への要望

ゼミは「静以修身、倹以養徳」(「優れた人は静かに身を修め、徳を養う。無欲でなければ志は立たず。穏やかでなければ道は遠い。学問は静から才能は学から生まれる。学ぶことで才能は開花する。志がなければ学問の完成はない『誡子書』」)の考えに基づいて運営していきます。学生の皆さんには、質実剛健、元気で明るい人、積極的な人をのぞみます。また、普段から英語の学習、PC の積極的な活用を期待します。

3.　選考について

① 募集人員：15 名前後

② 選考内容：事前レポート、指定図書に基づく筆記試験と面接

③ 選考基準：レポートについては、社会保障制度について明確に関心があるか、きちんとした日本語を論理的に書くことができるかといった点に注目します。具体的なレポートの課題は後日発表しますが、例年、社会保障制度の課題についてのレポートを求めています。

筆記試験については、レポート作成のために指定した文献の理解について 20 分－25 分程度の記述試験となります。

面接はレポートの内容に関する質疑、社会への問題意識・将来の志、ゼミ活動における貢献や協調性の有無といった点から評価します。

連絡先

研究室棟 543 号室内線 23433

メールアドレス：bzr05433@nifty.ne.jp

学期中は、研究室への電話およびメールで、長期休暇期間中はメールアドレスで連絡を。

1.　ゼミ員構成

3 年生　19 名(男 10 名、女 9 名)

4 年生　19 名(男 11 名、女 8 名)

2.　活動内容

① 本ゼミ（水曜 4・5 限）

3 年生は、『「ココロ」の経済学　行動経済学から読み解く人間のふしぎ』

依田　高典　(著)の輪読を行います。週2人程度のペースで担当章ごとにプレゼンテーションを行い、その発表に対する疑問点やより詳しく知りたいことなどをレポーターが中心となり質疑応答します。またその際に駒村先生からレポーターへの質問、指摘があり、内容補足として先生が出席されている会議等のお話も聞くことができます。4年生は卒業論文の発表、製作を行います。

② サブゼミ

行っておりません。

③　パートゼミ
駒村研究会では、4 班に分かれてパートゼミを行っております。各班のテーマは駒村先生の専門分野である年金以外は社会の情勢によって毎年変わります。今年のテーマは①年金②教育問題③障害者問題④労働問題となっております。班ごとの活動ですので、学生主体で時間を決め、週一回程度集まっています。

④　インゼミ
今年は、来年の 1 月に早稲田大学とインゼミを行います。また 12 月に同志社大学の佐々木ゼミともインゼミを行う予定です。
ユース年金学会への参加もしております。

⑤　課外活動
定期的に三田アカデミーという勉強会を行っています。社会で活躍されている OB や社会人の方々を講師としてお招きして、実際の企業の仕事内容やエピソードなど様々な分野の業界の現状を知ることができます。

⑥　三田祭
班ごとにパートゼミで勉強してきたことを発表する場です。ぜひお越しください！

⑦　夏休み
論文発表に向けて、班ごとに集まり、パートゼミを行います。

⑧　合宿
例年、9 月の上旬～中旬にかけて行っております。内容は、3 年は班ごとの研究成果の中間報告、4 年は卒業論文の中間報告が主です。

⑨　授業
駒村先生が担当されている講義は必修です。そのほかにも、人口論、労働経済、医療経済などゼミの研究内容に密接に関わる講義も推奨されています。

⑩　経費
合宿費以外は徴収しておりません。

3.　ゼミ試験対策で使用した参考書
昨年度ゼミで指定された課題図書
『中間層消滅』（角川新書）
『日本の年金』（岩波書店）

4.　先生が担当している講義
社会政策論(三田、秋学期、火曜日３限)
社会福祉論(三田、秋学期、火曜日２限)
生活保障の再構築(三田、秋学期、水曜日２限)

5.　ゼミ HP
http://seminar.econ.keio.ac.jp/komamura/

6.　連絡先
外ゼミ代表　坂井　敦史
連絡先　winner_853.ski@icloud.com
内ゼミ代表　徳丸　大至
連絡先　siidarumakuto@yahoo.co.jp
入ゼミ担当　亀井　星良
連絡先　s.b4.0510.k@googlemail.com
坂田　茉子
連絡先　altrincham@ezweb.ne.jp

寺井公子研究会
―公共経済学・財政学・政治経済学―

1. 研究分野

公共経済学は、政府の経済活動を分析対象とする学問です。市場メカニズムだけでは解決できない問題ーたとえば、外部性の発生、経済主体間の情報の非対称性、機会や結果の不平等―について、政府がどのような対応をするのが望ましいかを考えます。

実際、政府は課税、公共事業、退職年金・医療保険・介護保険などの社会保険の提供、生活保護制度による国民の生活水準の保障、規制など、様々な手段を用いて経済政策を行っています。政策は個人や企業の意思決定に影響を及ぼしますし、所得や資産の分布を左右します。現行の制度や政策がどのような役割を担っており、どのような効果を生み出しているか、何が問題か、を考察することは、とても重要なことだと考えます。そのうえで、人々を経済的により幸せにする政策のありかた―たとえば、保育サービスの拡充と給付金では、育児支援としてどちらが効果的か、オリンピック施設の建設費用は誰が負担するべきか、市町村合併は行政費用を節約できるか、増税すべきか、あるいは国債発行で財源調達をしたほうがよいのか―を探求するのも、公共経済学に期待される役割です。

一方、政治経済学は、政治的要因が政策の選択・実行に、どのような影響を与えているのかに注目します。特に、選挙、議会などの政治制度が、政治家、官僚、利益団体、有権者の行動にどのような影響を与えるかについて、経済学の分析手法を用いて考察します。望ましい政策の実施を妨げている要因について考えることも、同様に重要なことだと考えます。

私自身は、国家間の利害対立を解決できる制度設計、日本の財政再建を進めるためにはどのような制度改革が必要かに特に関心を持って、ゲーム理論を応用しながら、研究を進めています。

2. 学生への要望

研究分野の性格から、理論と現実の双方に関心を持っていることが非常に重要だと考えています。現実の経済で起こっている様々な問題の本質的な原因は何かを、つねに考える姿勢が重要だと思いますし、一方で、現実の部分、部分を観察しているだけでは、経済の大きな流れや、望ましい経済のあり方を見失うこともあります。このような考えに立って、基本的理論の学習・理解と、データを読み、扱えることの双方にウエイトをおいて、研究会の活動を進めていきます。

特に、ミクロ経済学と統計の基礎的知識を習得していることを前提とします。経済政策について豊富な知識を持っている必要はありませんが、関心と学ぶ意欲を持ち、かつ意欲を持続できる人、根気強く文献を読み、自分で考えることのできる人、またゼミは集団で学習する場ですので、積極的に活動に参加することで他のメンバーに良い刺激を与えることのできる人の応募を期待しています。

3. 選考について

①募集人員: 15 名程度

② 選考内容:

(a)小論文

テーマ:「書籍、学術論文、あるいは新聞記事から、我が国の経済政策・公共政策に関して書かれた論述文を一つ取り上げ、それについて議論しなさい」

字数:3000～4000 字

o取り上げた論述文の出典(タイトル、著者名、発行年月(日)等)を明記すること

(b) 面接

(c) 1・2 年次の成績

③ 選考基準: 選考内容(a)～(c)のそれぞれについて、特に次の点を重視します

(a): 文章力、**議論が具体的か、文献をよく読み、深く考察しているか**

(b): 関心、意欲

(c): 参考程度(ミクロ・マクロ・統計)

4. ゼミ員構成

4年生(5期生):17人(男子11人、女子6人)

3年生(6期生):16人(男子10人、女子6人)

5. 活動紹介

① ゼミ（水曜4、5限）

今年度の春学期は『マクロ経済学　新版』（有斐閣）、その他公共政策、マクロに関する論文の輪読、三田祭論文のテーマ発表を行いました。
秋学期は、教科書、論文の輪読や、三田祭論文の中間発表、卒業論文の中間発表などを行う予定です。

② サブゼミ（月曜4限）

基本的に3年生のみで行います。
春学期はデータ分析に必須のツールとして統計ソフト Stata の操作方法を習得しました。
秋学期は三田祭での論文の発表・展示に向け、班ごとに論文執筆に取り組みます。今年は地域班、環境・震災班、財政班、労働班に分かれて論文を執筆します。

③ パートゼミ

三年生は6月下旬から各自の興味に応じていくつかの班に分かれ、三田祭論文執筆のため、自主的に班ごとに行います。

④ インゼミ

現在のところインゼミを行う予定はありません。

⑤課外活動

経済学部ゼミナール委員会主催のソフトボール大会に参加します。

⑥三田祭

班ごとに完成させた論文を展示・発表します。

⑦夏休み

11 月の三田祭に向け、論文の班ごとにパートゼミを行い、論文執筆のための調査・研究・分析を進めます。なお、積極的にサークルやインターンに取り組むゼミ生も多く、これらとの両立は十分に可能です。

⑧合宿

日光鬼怒川にて二泊三日で行います。主に三田祭論文・卒業論文の中間発表を行います。

⑨授業

普段のゼミや論文執筆の上で必要な知識を得るため、ゼミで履修を推奨する授業があります(経済政策論など)

⑩経費

年会費等はありません。合宿費は例年三万程です。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

各自が入ゼミ小論文で取り上げるテーマに応じ、適宜お読みください。

7. 先生が担当している講義

経済政策論　a/b (三田、水曜日３限)

8. ゼミHP・SNS

Twitter @teraizemi2017
HP　http://seminar.econ.keio.ac.jp/teraiseminar/

9. 連絡先

・外ゼミ代表：柳川輝
（akiraukiuki510@gmail.com）
・内ゼミ代表：草塩恵理
（ekusashio@gmail.com）
・入ゼミ代表：松村渉吾
（shogo.soccer.617@gmail.com）

土居丈朗研究会

― 財政学・公共経済学・政治経済学 ―

1. 研究分野

財政学、公共経済学、政治経済学

本研究会は、財政金融政策をはじめとする経済政策を政治経済学的に考える力を養うことを目的とします。主に税制改革、社会保障政策、地方分権改革、公共投資政策、国債管理政策などを対象に、政治の影響を考慮しつつ経済学的にどう分析できるかに取り組みます。経済理論を用いた分析はもちろん、税財政制度など経済政策にまつわる諸制度の理解や政治情勢にまつわる知識を深めた上での考察も重視しています。

春学期では、教科書や論文などを用いて経済政策を分析する基礎を身につけ、秋学期では、より高度で現実的な経済政策課題を取り上げて具体的な調査・分析作業を進め、三田祭で発表する論文（三田祭論文）をグループで作成することを予定しています。これまでに、ゼミ員が三田祭で研究発表した論文の具体的なテーマには、税制（所得税、法人税、消費税）のあり方、社会保障問題（医療、介護、年金、保育）、地方財政の諸課題、財政健全化を実現する具体策、財政政策への政治が及ぼす影響の分析などがあります。

本ゼミでは、３年生時春学期には各ゼミ員に事前に与えられた文献について発表してもらい、それに基づき皆で議論をしながら進めます。経済分析に不慣れな3年生のために、４年生がサポートしつつ、分析方法などを必要に応じて指導します。夏休みから秋学期にかけては、数名のグループ（パート）に分かれてそれぞれのテーマで三田祭論文を執筆し、その進捗報告・指導を行うとともに、他大学とのインゼミなどの準備を行います。４年生時には、各自で執筆する卒業論文の発表・指導も行います。必要に応じて、経済理論とデータを扱った計量経済学的分析について、自力でできるノウハウを習得できるよう実習を行います。

また、サブゼミでは、３年生を中心としたゼミ員が自発的に集まって、教科書として、

土居丈朗『入門｜公共経済学』日本評論社

土居丈朗『入門｜財政学』日本評論社

などを講読する予定にしています。

2. 学生への要望

最近のわが国では、税制改革、社会保障制度改革（年金、医療、介護等）、地方分権改革、そして公共投資、国債管理など財政金融にまつわる諸政策において、経済学的に専門性が高い政策課題に直面しています。こうした政策課題は、高度に政治的な意思決定を伴う局面が多く、それらを理解する上でも経済学的な素養が必要となってきています。

ゼミでは、特に、様々な経済政策について、経済効果だけでなく、政治の影響（選挙制度、官僚制度、政党内の政策決定過程等）も考慮した「政治経済学」の理解を深めることを狙いとします。そのため、現実の財政金融政策や政策決定過程などに高い関心を持っている学生の参加を望みます。それとともに、近代経済学の考え方を愛し、より高度な理論や分析手法をゼミや文献講読などを通じてもっと身につけたいという向学心のある学生を歓迎します。

また、ISFJ(日本政策学生会議)や公共選択学会学生の集い等への参加、懸賞論文への応募、他学部や他大学のゼミとの交流(インゼミ)、ゼミ対抗ソフトボール大会など、対外的なゼミ活動に関心のある学生も歓迎します。

3. 選考について

- 募集人数

A・B 両日程合わせて 15 名前後（過去の募集では毎年、A 日程のみで定員に達したため B 日程は実施せず）

- 選考内容

筆記試験（60 分；マクロ・ミクロ・英語（英文和訳のみ）、全て持ち込み不可）と面接。筆記試験時に成績表提出。

- 選考基準

筆記試験の得点・成績表と面接時に感じられた本人の意欲等で判断します。筆記試験か日吉での成績のどちらかで、マクロ・ミクロともにB相当以上の成績が求められます。英語は少なくとも「足切り点」を超える必要があります。

- 他学部からの志願

経済学部以外の学生も採用する可能性はあります。（2003、2004、2006、2008、2009、2011、2013、2014、2016 年度で各 1 名採用）

- **連絡先**

担当者本人へは、

電子メール：tdoi@econ.keio.ac.jp

ウェブサイト：

http://web.econ.keio.ac.jp/staff/tdoi/

略歴、研究活動、参考文献等は、上記 URL で情報を公開中。

入ゼミに関する情報は、今後

http://web.econ.keio.ac.jp/staff/tdoi/seminar.html にて随時更新する予定。

4. ゼミ員構成

4年生:21 名(男子 11 名、女子 10 名)(うち商学部 1 名、留学 2 名)
3年生:20 名(男子 11 名、女子 9 名、うち留学中 1 名)

5. 活動紹介

① ゼミ(火曜 4,5 限)
【春学期】3 年生は各自の関心に沿った論文を先生に紹介頂き、内容を発表します。4 年生は卒業論文の中間発表を行います。
【秋学期】3 年生は三田祭論文・ISFJ に向けたパートでの論文執筆活動を行います。4年生は卒業論文の進捗報告を行い、先生からアドバイスを頂きます。

② サブゼミ(春学期木曜 4,5 限)
土居丈朗『入門公共経済学』(日本評論社)の輪読と時事問題を題材としたディスカッションを行い、論文執筆に向けた基礎知識と思考力を鍛えていきます。秋学期はパート毎の論文執筆活動が中心となります。

③ パートゼミ(秋学期パート毎に調整)
三田祭論文・ISFJ 論文に向け、パート(今年度は財政/税制/地方/医療・介護)に分かれて論文執筆を進めます。夏休みや秋学期を中心に自主的に行っています。

④ インゼミ(不定期開催)
今年は 9 月 11 日に、慶應 SFC の中室牧子研究会とインゼミを行いました。例年、東京大学の伊藤元重研究会や慶應 SFC の竹中平蔵研究会ともインゼミを行っています。

⑤課外活動
ISFJ 日本政策学生会議の論文コンテストに参加します。昨年は地方・保育パートが優秀賞・政策提言賞、税制/財政/医療・介護パートが分科会賞を受賞し、全パート受賞を果たしました。また、今年度の経ゼミソフトボール大会で優勝を果たしました。

⑥三田祭
三田論の出展・発表を行います。例年、中庭での出店にも力を入れており、昨年はドーナツ屋を出店しました。

⑦夏休み
夏合宿と ISFJ の中間カンファレンス、インゼミ等があります。

⑧合宿
例年 5 月に新歓合宿、9 月に夏合宿を行います。今年度の新歓合宿は 1 泊 2 日で湯河原に、夏合宿は 2 泊 3 日で草津に行きました。

⑨授業
ゼミ必修はありませんが、多くのゼミ生が土居先生の担当講義を受講しています。

⑩経費
年会費は 1000 円です。ゼミ合宿の費用がその都度 20000～30000 円かかります。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

実務教育出版『公務員試験 新スーパー過去問ゼミ マクロ・ミクロ経済学』を使用していた人が多いようです。出題分野・過去問はゼミ HP に掲載されているので参考にしてください。

7. 先生が担当している講義

財政論 a・b(三田、木曜日 1 限)
企業金融論 a・b(三田、火曜 3 限)

8. ゼミHP・SNS

HP:http://doinyusemi.wixsite.com/doisemi(Twitter:@doi_nyusemi)

9. 連絡先

外ゼミ代表 岡田尚弥
Mail:naoya9115251@keio.jp
内ゼミ代表 小山諒
Mail:koyapi@keio.jp
入ゼミ代表:清水大夢
Mail:simi-hiro0420@keio.jp

山田篤裕研究会

—社会保障（年金・医療・介護・労災・雇用保険、生活保護、社会福祉）と雇用政策—

1. 研究分野

さまざまな社会問題を取り除き、人々の生活をより善くすること。それが社会政策です。「社会が生み出す病(やまい)にたいする処方箋」と言い換えられるかもしれません。処方箋を出すには、根拠に基づき、診断する必要があります。小ゼミでは、より善き人々の暮らしを目指し、エビデンスに基づき、社会政策を実証研究します。

超高齢化にもかかわらず、日本の社会保障給付費（年金・医療・介護等）はかなり抑制され、そのひずみが人々の生活不安として表れています。財政的に社会保障費を一律抑制する単純な発想では、社会問題を解決できません。とくに先進国中、日本は就業率が高いにもかかわらず貧困率は高く、育児・介護による離職は多く、長時間労働や正規・非正規間の賃金格差、所得格差のみならず健康格差の存在、社会的排除等、解決すべき社会問題は山積しています。

社会政策（Box 参照）の体系全体のバランスを考えつつ、各政策が人々の生活・社会問題にどう影響しているか実証し、財政との整合性も勘案しつつ、解決策を模索する必要があります。

小ゼミでは、各自の関心に応じ個別研究テーマを設定し、より善き人々の暮らしのため、社会政策にできることは何か、一緒に追究します。

なお担当教員の研究分野は貧困・格差、最低所得保障、高齢者雇用等が主ですが詳細は CiNii、KOSMOS などで検索した論文・著作を参照してください。

BOX：「社会政策」とは

社会政策は大きく、社会保障・福祉政策と雇用政策の 2 つに分けられます。

雇用政策には、最低水準の賃金を定めた最低賃金法、長時間労働等を禁じた労働基準法、就職・仕事内容の男女差別を禁じた男女雇用機会均等法、公共職業訓練や公共職業安定所などがあります。

社会保障・福祉政策には、高齢期や稼得者死亡時の家族の所得保障（老齢、遺族年金）、失業時や育児・介護休業時の所得保障やサービス（雇用保険、介護保険、保育サービス）、最低生活水準に満たない場合の所得保障（生活保護）、傷病時の医療サービスや所得保障（医療保険）、障害を負った場合の所得保障やサービス（障害年金、障害者サービス、労災保険）などがあります。

2. 学生への要望

社会問題に何となく関心ある学生から、社会政策の知識を将来のキャリアに活かしたい学生（研究者、公務員、ジャーナリストなど）まで広く歓迎します。

小ゼミに入るため必要なのは、①社会問題への強い関心、②地道な作業（文献・データ収集・分析など）のための根気のみです。専門的分析手法や社会政策の知識は入ゼミ後、一から学べるよう、手ほどきします。

ゼミ活動を通じ、根拠に基づき、より善き人々の暮らしのため「新しい知見」を提示することが小ゼミでの最終目標です。研究の 9 割は文献・データの収集・分析という、労働集約的で地道な作業ですが、そうした過程を経ることで「新しい知見」に出会う学問的喜びもあります。

また社会政策は、我々の生活に網の目のように張り巡らされており、知らないうちにさまざまな恩恵を受けています。この社会政策を小ゼミでより深く理解することで、一有権者としても将来、より善き政策を判断・選択できるよう（あるいはその判断材料を提供できるよう）になってほしいと願っています。

表面的な情報（倍率等）に惑わされることなく、自分の関心に合ったゼミを選択してください。熱意ある学生に出会えることを楽しみにしています。

3. 選考について

① 募集人数：A 日程のみ 20 名。

② 選考内容：(a)事前提出レポート（6000 字程度）、(b)課題文献に基づく簡単な記述式筆記試験（30 分程度）、(c)教員面接(レポート内容、ゼミでの研究テーマに関する質疑応答)、(d)成績表。※学生面接なし。詳細は 1 月下旬発表。

③ 選考基準：(a)～(d)に基づく総合判断。レポートは、課題図書以外に、できるかぎり多くの関連文献（専門書籍・論文）を読み込み、引用・参照すると、高評価になります。

また専門科目・語学に関する入ゼミ筆記試験の代替として成績表提出を求めますが、何よりも社会問題への関心の強さ、自分の考え、「こだわり」を重視しており、そうした点はレポートを基に判断しますので、とにかくレポートに力を入れて下さい。

4. ゼミ員構成

3 年生 17 名(男 11 名、女 6 名)
4 年生 21 名(男 12 名、女 9 名)
※含留学中 1 名

5. 活動内容

① 本ゼミ(月曜 4・5 限)

今年の本ゼミでは、『社会政策』駒村康平・山田篤裕ら(著)・『21 世紀の不平等』アンソニー・B・アトキンソン(著)・『不平等の再検討:潜在能力と自由』アマルティア・セン(著)・『これからの「正義」の話をしよう』M.サンデル(著)の 4 冊(予定)に関して、毎週担当グループがレジュメ形式で要点を報告しています。
秋学期については例年 3 年生・4 年生の研究報告とそれに対する指導が中心に行われます。

② サブゼミ(木曜 4・5 限)

パートゼミ毎に分かれ、自分達で設定した研究テーマに基づき、研究活動に取り組んでいます。

③ パートゼミ

研究テーマごとに、少人数での研究班(パートゼミ)を構成し、論文作成を行います。三田祭論文や ISFJ 日本政策学生会議(他大学合同の論文コンテスト)で高評価が得られることを目指し、研究班ごとに取り組んでいます。
今年のテーマは、介護、医療、労働、災害、住宅の5テーマです。なおパートゼミの研究テーマは、ゼミ員各自の関心ごとに沿って自ら設定しているので毎年異なります。

④ インゼミ

ありませんが ISFJ 日本政策学生会議への参加を通じ、他大学・他ゼミとの交流があります。

⑤ 課外活動

パートゼミ活動の一環として、ISFJ 日本政策学生会議へ参加しています。昨年度も複数の論文が受賞しています。

⑥ 三田祭

ブースにてポスターセッション形式での論文発表を行います。また別途、口頭でのプレゼンを行います。

⑦ 合宿

今年度も有志参加の 1 泊 2 日の新歓合宿で親睦を深め、全員参加の 2 泊 3 日の夏合宿では、主に卒業論文、各パートの共同研究の中間報告と質疑応答、指導が行われました。

⑧ 夏休み

研究班毎に集まり論文作成を随時進行します。8 月中に大まかに論文を完成させ、今年は 9 月上旬の夏合宿で中間報告を行いました。

⑨ 授業

ゼミ必修科目である「演習」、「社会政策論」、「社会福祉論」、「医療経済学」、「生活保障の再構築」を履修し、社会政策研究や分析を行う上で必要な知識・分析手法を学びます。

⑩ 経費

輪読書購入の他、合宿費、ISFJ 参加費、経ゼミ費等が適時必要になります。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

濱口桂一郎編【2013】『福祉と労働・雇用』ミネルヴァ書房
椋野美智子・田中耕太郎【2015】『初めての社会保障(第 12 版)』有斐閣
山田篤裕他編【2014】『最低生活保障と社会扶助基準』明石書店

7. 先生が担当している講義

演習 a,b(三田、春、火曜 3,4 限)
社会政策論 a,b(三田、春秋、火曜 2 限)
生活保障の再構築 (三田、秋、水曜 2 限)

8. ゼミ HP

http://seminar.econ.keio.ac.jp/yamadasemi/
Twitter @yamadaseminar

9. 連絡先

外ゼミ代表 名和 真也
メールアドレス jjlsnawa@gmail.com
入ゼミ担当 小林 誠
メールアドレス
kobamako69rock@keio.jp

経済学史・思想史

池田幸弘研究会

川俣雅弘研究会

高草木光一研究会

池田幸弘研究会

―経済学史・経済思想史―

1 研究分野

ゼミを開講してから、もっぱら新自由主義の経済政策思想という研究主題を考察の対象にしてきた。前期は、反ケインズ派による著作を輪読の対象とする。今年はハイエクの『自由の条件』を輪読の対象としている。いままで輪読の対象としたものとして、ハイエクの『隷従への道』、同『法・立法・自由』などがある。これにより、ゼミの参加者は反ケインズ的な経済思想について一定の見通しがえられたはずである。毎年、後期には、四年生の卒業論文の報告が行われる。このために、四年生はある時期までに、各自のテーマと当該テーマについての参考文献表を作成することが求められる。三年生については、秋に小樽商科大学、福井県立大学、龍谷大学とのインターカレッジ・セミナーも予定している。内容もさることながら、プレゼンテーションの技術も磨くことが念頭にある。卒業論文の内容について私のほうから制約することは考えてはいないが、経済思想、あるいは経済政策思想が担当者にとっては指導しやすい。ここでいう経済思想はケインズやスミスのような偉人のそれにとどまらない。偉人の経済思想をなんらかの形で体現した民間人、あるいは日常感覚のレヴェルで経済のことを思考の対象とした経済人、これらの思想はみな広い意味での経済思想であり、いずれも研究の対象となる。一例をあげよう。 ハイエクなどの新自由主義的経済思想は、サッチャーやレーガンの経済政策に反映され、それが今日の日本の経済政策論議に一定の影響を与えるに至っている。たとえば、小泉政権下での構造改革が、どの程度ハイエク的な発想に基づいているかを検証することも当研究会の研究対象となる。経済思想は死んだ思想ではない。実務家の観念がいかに過去の経済思想に拘束されているかを強調したのはかのケインズであるが、当研究会ではこのケインズの発言を具体的に論証していくことが一つの大きな課題となっている。

2 学生への要望

経済学のような科学には、つねに学理と実践とのあいだの往復運動が必要である。実際の経済や実践についてなんの興味も持たないような経済学研究者はほめられたものではないし、また逆に日々の実践のなかで原理的な問題にぶちあたらないようなビジネスマンもさびしいのではないだろうか。実践で生じた問題について、広い意味での学理からの追求がもとめられているのである。こうした実践を意識した上での本格的な経済学研究は、むしろ卒業後にはじまるものなのかもしれない。もちろん、私としては、大学人であるという制約から前者について助言を与えるということが主となるが、学生諸君が社会にでたときにおこりうるさまざまな問題に対処するための一定の視角を与えるということについては、おおいに興味があり、ゼミ員とはさまざまな問題について議論していきたいと考えている。なお、日本語を母語としない学生の参加も歓迎する。ゼミ全体の運営は日本語だが、個別報告、ディスカッションの一部を英語で行う準備はある。したがって、一定レベルの日本語能力がある学生は本ゼミナールに参加可能である。

3 選考について

① 募集人員：合計で最大 15 名程度。

② 選考内容：

A 日程: 面接による。

B 日程: 簡単な筆記試験(成績証明の提出を要する。ただし参考程度。)

③ 選考基準：

A 日程: 日吉での学習や読書についてうかがうことが多い。特段の準備は必要ないが、日吉で経済思想の歴史や近代思想史を受講していれば、当該分野についての一定の見通しを得ることができよう。

B 日程: 筆記試験と日吉での成績による。重点は前者にある。

4.ゼミ員の構成
4 年生(19 期生):17 人(男子 16 人、女子 1 人) (うち他学部 0 人、留学中または留学予定者 0 人)
3 年生(20 期生):12 人(男子 12 人、女子 0 人) (うち他学部 0 人、留学中または留学予定者 0 人)

5. 活動紹介
①ゼミ(水曜 4,5 限)
池田ゼミでは経済思想史を主に研究しています。一口に経済思想史といっても扱う内容は様々であり、それが魅力でもあります。本ゼミでは、ハイエクの書籍を中心に輪読し、経済思想史を様々な観点から考えディスカッションを行っています。池田ゼミには様々なバックグラウンドを持ったゼミ生が所属しています。議論をする上で多様な考え方に触れることができ、自分の価値観が広がることはもちろん非常に有意義なゼミ生活を送ることができます。
②サブゼミ(月曜日 4 限)
サブゼミでは主に学問のすゝめを用いて、福沢諭吉の歴史や人物像について学んでいます。基本的には 3 年生は全員参加で、四年生は自由参加です。本ゼミと同様毎週輪読をし、それについてのディスカッションや教授からの説明があります。
③パートゼミ
なし
④インゼミ
なし
⑤課外活動
なし
⑥三田祭
なし
⑦夏休み
なし
⑧合宿
今年は 9 月の中旬に二泊三日で河口湖に行きます。基本的に全員参加で、3 年生は本ゼミと同じようにディスカッションを行い、四年生はそれに加えて卒業論文の作成を進めます。
⑨授業
なし
⑩経費
飲み会や合宿費含めて、年間 2~3 万円程度

6.ゼミ試験対策で使用した参考書
なし

7.先生が担当している講義
経済学史 2a

8.ゼミ HP.SNS
http://seminar.econ.keio.ac.jp/ikeda/

ツイッター
@seminar_ikeda

9.連絡先
外ゼミ代表
(佐藤大樹、daiki080811@gmail.com)

入ゼミ代表
(山口貴大、
chopper50.yamagu@i.softbank.jp)

川俣雅弘研究会

―経済学史―

1．研究分野

研究分野は基本的に経済学史ですが，経済学史にはさまざまなアプローチがあります。私の経済学史研究は，経済学の歴史に理論史的にアプローチすることです。すなわち，研究対象である過去の理論をそれらの理論の発展型であると考えられる現在の理論から解釈し，公理系として定式化した上でそれらを比較・対照し，理論の歴史を公理系の展開として把握し，その理論の進歩を特徴づけるという研究をしています。

こうした私自身のアプローチと，今まで経済学史の研究を希望する人がいなかったという事情があり，はじめは，経済学史の具体的な研究対象である一般均衡理論および厚生経済学において蓄積された基本的知識について学んでいます。また，知見を広げるために，経済学の応用分野の著書の一部や論文，社会科学の基本的考え方を形成した社会科学の古典の主要部分を読んでいます。

こうして得られた知見を手がかりとして関心を広げ，各自卒論のテーマを選びます。卒論は，研究会で学んだ基礎知識にもとづいて，各自関心のあるテーマについて経済学的分析を行うことになります。

要するに，この研究会のテーマは一般均衡理論および厚生経済学について基本的知識を学んで，具体的な経済問題の分析に応用すること，あるいはそれらの経済学の歴史について考察することであるといえます。

2．学生への要望

大学で学問を学ぶのは，専門分野の知識を身につけるためでもありますが，最も重要なのは既存の研究を追体験することにより，さまざまな研究方法を学び，自分で新しい研究を行う方法をマスターすることです。自分自身の研究努力に応じて得られるものがあります。時間を有効に活用してください。

また，ゼミの運営にはいくつかの役割分担があって，通常の授業を行うだけでは済みません。ゼミに入るということは，そうした役割を分担するということを意味します。こうしたゼミの運営にも責任をもって参加してください。

3．選考について

①募集人員：全体で 10 数名

②選考内容：英語とミクロ経済学の筆記試験と面接を行います。

③選考基準：研究意欲があり実際に努力をしていること。経済学史に関心をもつ人を優先的に採用します。

4.　ゼミ員構成

3 年生　21 名(男 19 名、女 2 名)

4 年生　15 名(男 14 名、女 1 名)

5.　活動内容

①　本ゼミ（火曜 4,5 限）

グループに分かれテキストにそってプレゼンテーションを行います。教授も適宜アドバイスをくださるため理解を深められます。

②　サブゼミ

なし

③　パートゼミ

なし

④　インゼミ

なし

⑤　課外活動

特になし

⑥　三田祭

なし

⑦　夏休み

夏休みはそれぞれ春学期の授業をもとにグループワークで理解を深めます。

⑧　合宿

今年は冬期に開催予定です。講義とグループワークをもとにプレゼンテーションを行います。

⑨　授業

経済学史

⑩　経費

合宿費 30000 円

6.　ゼミ試験対策で使用した参考書
武隈慎一さんの「演習ミクロ経済学」を使用した人が多いです。

7.　先生が担当している講義
経済学史(三田、火曜日 2 限)
経済思想の歴史（日吉、月曜 5 限）

8.　ゼミ HP
http://www.clb.mita.keio.ac.jp/econ/kawamata/

9.　連絡先
外ゼミ代表　中村春樹
メールアドレス　21518183@keio.jp
入ゼミ担当(代表)　石川貴大
メールアドレス
gt22taka1001@gmail.com

高草木光一研究会
― 社会思想史 ―

1. 研究分野

私自身の専門領域は 19 世紀フランス社会思想史であるが、ゼミ員の研究テーマは広義の「社会思想史」から選択しうるものとする。これまでの本研究会の卒業論文を見ても、ルソー、マルクス、ウェーバー等の大思想家の古典を研究するというオーソドックスなものから、ファッションやメディア、「らい病院」や吸血鬼伝説を対象にするものまで、選択の幅は広い。現代社会に対する何らかの批判的問題意識をもち、歴史的、思想史的方法で研究しようとする意思があれば、対象に限定はしない。

もとより社会思想史は、その学問の性質上、学際的なものにならざるをえない。経済学、歴史学、哲学、社会学、政治学、文学等々、隣接の諸分野の成果を学びつつ、今後その確立を目指している新しい分野でもある。もちろん社会思想史にも一定のディシプリンはあるが、むしろ新たな社会思想史をつくるという気概をもって研究に取り組んでもらいたい。

ゼミの活動は個人報告と輪読からなる。これまで輪読に使用した主な文献は以下のとおりである。

・アガンベン『ホモ・サケル』(以文社)
・アーレント『人間の条件』、『革命について』(ちくま学芸文庫)、『イェルサレムのアイヒマン』、『暴力について』(みすず書房)
・イリイチ『脱病院化社会』(晶文社)、『生きる思想』(藤原書店)
・カント『永遠平和のために』(岩波文庫)
・クーン『科学革命の構造』(みすず書房)
・シュミット『政治的なものの概念』(みすず書房)
・シンガー『実践の倫理』(昭和堂)
・セン『合理的な愚か者』(勁草書房)
・ハイエク『科学による反革命』(木鐸社)
・ハーバーマス『公共性の構造転換』(未來社)
・バーリン『自由論』(みすず書房)
・フーコー『監獄の誕生』、『性の歴史』全 3 巻(新潮社)、『臨床医学の誕生』(みすず書房)
・プラトン『国家』上下(岩波文庫)
・マルクス『経済学・哲学草稿』(岩波文庫)
・J・S・ミル『自由論』(岩波文庫)
・ランシエール『民主主義への憎悪』(インスクリプト)

2. 学生への要望

自分自身の問題意識と社会思想史という学問領域との接点を見いだしておくことが必要である。具体的には、以下の著作等を読んで、自分が研究したい大まかなテーマを決めておくこと。

・慶應義塾大学経済学部編『変わりゆく共生空間』、『マイノリティからの展望』、『家族へのまなざし』、『経済学の危機と再生』<市民的共生の経済学>全4巻(弘文堂)
・高草木光一編『「いのち」から現代世界を考える』(岩波書店)
・高草木光一編『一九六〇年代　未来へつづく思想』(岩波書店)
・高草木光一編『思想としての「医学概論」』(岩波書店)
・高草木光一『岡村昭彦と死の思想』(岩波書店)

3. 選考について

1　募集人員　AB 日程あわせて 8 名程度。
2　選考試験　小論文と面接による。小論文の課題は事前に知らせる。
3　選考基準　卒業論文を書く意欲と能力があるかどうかを判断する。

4.　ゼミ員構成

3 年生 8 名(男 7 名、女 1 名)(留学中0名)
4 年生 6 名(男 6 名、女 0 名)(留学中0名)

5.　活動内容

①本ゼミ(水曜4・5限)

4限では、3年生による課題図書の輪読発表とそれに対するディスカッション、5限では、3年生による書評とそれに対するディスカッション、または4年生による卒論中間発表が行われます。今年度(2016 年度)は、課題図書

として丸山真男『「文明論之概略」を読む』（岩波書店）を読みました。書評では、マキアヴェリ『君主論』やプラトン『メノン』、ニーチェ『道徳の系譜学』などが扱われ、難解な内容に対する白熱した議論が交わされました。

②サブゼミ
今年度は実施しておりません。

③パートゼミ
今年度は実施しておりません。

④インゼミ
今年度は実施しておりません。

⑤課外活動
特にありません。

⑥三田祭
高草木ゼミは、三田祭論文に参加しておりません。そのため、4年生は卒論の準備や研究のために、3年生は自分自身の関心を深めるために自由に時間を費やすことができます。

⑦夏休み
合宿のほかには、特に活動はありません。合宿については後述します。

⑧合宿
夏休み中に2泊3日の合宿を行います。例年、箱根へ行き、箱根高原ホテルに宿泊しています。合宿では、主に全員分の書評の発表を行います。

⑨授業
必修の授業はありませんが、多くのゼミ員が三田の高草木教授の「社会思想史」の授業を履修しています。

⑩経費
各学期に2～3冊の課題図書を購入する必要があります。また、合宿費が必要となりますので、併せて約3万円ほど経費がかかります。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

筆記試験を実施する予定はありませんので、ゼミ試対策の参考書はありません。しかし、課題レポートの題材として人文科学系または社会科学系の本を選択することになるので、各自の問題意識に照らして検討しておくと良いでしょう。

7. 先生が担当している講義

社会思想史 a/b(三田春、水曜日1・2限)

8. ゼミ HP

高草木ゼミでは SNS でゼミ紹介や入ゼミ情報の提供をしています。ぜひご覧ください。

○Facebook　@takakusagi.seminar
https://www.facebook.com/takakusagi.seminar/
○Twitter　@keio_takakusagi
https://twitter.com/keio_takakusagi

9. 連絡先

外ゼミ代表　柳原隆史
連絡先　takayana427@icloud.com

入ゼミ担当　鈴木大貴
連絡先　suzuki711@outlook.jp

社会思想史

坂本達哉研究会

壽里竜研究会

坂本達哉研究会

―社会思想の歴史と理論―

1 研究分野

私の研究分野は英米を中心とする社会思想史です。イギリスの 18 世紀思想史が専門で、ヒュームやスミスがその中心です。 同時に、私の学問的関心は幅広く、19 世紀のミルやマルクス、20 世紀ケインズやロールズ、日本の福沢諭吉や丸山真男にまで及んでいます。『社会思想の歴史－マキアヴェリからロールズまで』（名古屋大学出版会）をぜひご覧下さい。

偉大な思想家の言葉が現代人の知性と精神に訴えると言うことを、私はヒューム、スミス、ルソー、ミル、ケインズ等の思想家たちから教わりましたが、古典的な思想家たちの諸作は、みな同じ力をもっています。「古典」のもつこの強靭な力を皆さんに実際に感じてほしいと希望しています。それは学問だけの問題ではありません。皆さんのこれからの人生にとって、大きな指針と励ましになるでしょう。

グローバル化した現代社会が直面する問題は、いずれも高度に複雑で、さまざまな利害が絡み合い、これまでの常識や良識が通用しない世界です。

現代の格差問題や過激なテロリズムの問題と取り組もうとするとき、経済学の理論的知識だけでは十分ではありません。経済学の基礎知識の上に、経済学そのものを生み出した近代社会と資本主義の歴史と思想を深く知らなければなりません。

こういうときこそ、一度立ち帰るべきは古典的な思想の世界です。複雑な現象の根底に、意外と古くて新しい基本的問題が潜んでいることを発見するでしょう。「経済学の父」であったアダム・スミスが「道徳哲学」の教授であったことの意味をもう一度かみしめたいと思います。

皆さんには、社会思想の研究を通して、物事を歴史と思想の幅広い視野から柔軟に考えることのできる学問の方法を学んで欲しいと思います。

2 学生への要望

私の専門は上に書いたとおりですが、研究会の学生諸君の研究テーマはまったく自由です。学生諸君の個性や自由を最大限に尊重します。「古典」の力を実感してほしいという考えには変わりありませんが、「古典」の範囲は幅広く、学生一人一人の選択の余地は無限です。

希望としては、混迷する人類社会の現状において、人間と社会にかかわる物事を根本から考え直してみたいという意欲があってほしいと言うことです。社会思想にかんする予備知識は必要ありません。ゼミ員間の対等な関係と自由な研究態度の尊重は、私が最も重視する坂本研究会のポリシーです。

坂本研究会の大きな特徴は、その多様性と国際性です。それは、学生の国籍、学部、ジェンダーの多様性を意味し、留学経験者の多さを意味します。中国、韓国、台湾の学生が毎学年いることが、ゼミでの議論に奥行きと深みをあたえてくれています。結果として、皆さんは卒業後の糧になる人間的成長と国際交流の豊かな経験を得ることができます。

研究会の目的は、学生ひとり一人が、学問的な切磋琢磨をつうじて人間としての成長（「個」の確立）を実現することです。ゼミは、卒業単位を稼ぐためでも、就職活動の一環でも、友達づくりの場でもありません。この点を十分に理解した学生諸君の入会を希望します。

3 選考について

① 募集人員：
今回は、複数回の選考を合わせて、10-15 名を考えています。とくに、多様性重視のポリシーにもとづいて、外国人学生の入会を歓迎します。

② 選考内容：
当日の小論文と面接によります。小論文は現代の政治・経済・社会問題への思考力を確かめます。面接は自己主張力と個性を見ます。いずれも特別の準

備は必要ありませんが、『社会思想の歴史』(上記)の一読を薦めます。

③ 選考基準:
なぜ坂本研究会を志望するのか、その動機・理由を明確にしておいて下さい。

4. ゼミ員構成

4 年生:16 人(男子 15 人　女子 1 人)
3 年生:11 人(男子 5 人　女子 6 人)

5. 活動紹介

① ゼミ(水曜 4 限、水曜 5 限)

坂本達哉ゼミでは社会思想を主なテーマと死、レポーター形式で課題図書の輪読をしています。レポーターの発表の後にその内容についての討論を行い、理解を深めていきます。討論中はいつも活気があり、和やかな雰囲気の中で様々な人の考え方に触れることが出来ます。今年の春は J.S.ミルの「自由論」など 3 冊を読みました。

② サブゼミ

ゼミとして毎週曜日を指定して集まるといったことは特にしておりませんが、学生の希望によって行う場合もあります。

③ パートゼミ

なし

④ インゼミ

予定はありません

⑤課外活動

ソフトボール大会に任意で出場しています。

⑥三田祭

学生希望で参加しております。今年度の参加予定はありません。

⑦夏休み

下記の合宿のみ

⑧合宿

例年は 9 月中に箱根で二泊三日の合宿を行っています。主な内容は研究発表と討論のセットで、4 年生は卒論の途中報告、3 年生は卒論を意識した内容発表となっております。討論が終わってからは飲み会などもあり、ゼミ生同士の親睦を深める大切な行事となっています。

⑨授業

坂本先生の授業を履修する以外は特にありません。

⑩経費

合宿費約 2 万円
ゼミ費 2000 円
ゼミで使用するテキスト代

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

特別の試験対策は必要ありませんが、坂本先生の「社会思想の歴史」を一読することをお勧めします。

7. 先生が担当している講義

歴史的経済分析の視点(PEARL):春(日吉)火 1、歴史的経済分析の視点(B):秋(日吉)火 4
社会思想史 b(HISTORY OF SOCIAL THOUGHT):秋(三田)金 4

8. ゼミHP・SNS

Twitter:sakamoto18

9. 連絡先

外ゼミ代表　金子　dytgacde7x@i.softbank.jp
入ゼミ担当　柴田
t_shibata@z7.keio.jp
内ゼミ担当　宮本
kohakum@keio.jp

壽里竜研究会

―社会思想・社会思想史―

1、研究分野

私の専門は 18 世紀ヨーロッパの社会思想史であり、主な研究対象はデイヴィッド・ヒュームやジャン＝ジャック・ルソーなどである。ヒュームは経済学の祖と言われるアダム・スミスの親友でもあり、経済学的な著作も残しているが、同時に哲学者（倫理学も含む）・歴史家としても知られている。また、ルソーは、経済学史に個別の貢献をしたわけではないが、文明批判という形で商業活動を中心的な原理とする近代社会そのものを批判した思想家であった。いずれも特定の学問の名前を冠した「○○学者・思想家」と限定されない点に特徴がある。

そこで、本ゼミにおいても、経済（学）的な領域と他領域（哲学・政治・法・倫理）との関連について考えていきたい。ゼミにおける研究対象は、18 世紀に限定せず、広い意味での哲学––政治哲学（公共哲学）と経済思想・倫理––における様々な「主義」である（本ゼミの守備範囲を知るための一つの手がかりとして、ゼミで輪読予定のマイケル・サンデル著『これからの「正義」の話をしよう：いまを生き延びるための哲学』〔鬼澤忍訳、ハヤカワ・ノンフィクション文庫、2010 年〕を参照）。本ゼミを通じて、一見すると経済学とは関係のなさそうに見える諸問題も、私たちが目指す社会のあり方とは切っても切れない関係にあること、経済学的思考の適用範囲の広さと限界とを学んでもらいたい。最終的には、資本主義とグローバリゼーションを特徴とする現代社会に対して、それぞれのゼミ生が自分なりに一貫した立場を作り上げられるようになることを目標としている。

ゼミの進め方については、代表的な思想的立場（功利主義、リベラリズム、リバタリアニズムなど）を扱った本をテキストとし、輪読・ディスカッションを中心とする。また、学期末ごとのレポート提出を義務づけ、ゼミ生の問題発見能力・批判的思考・論理的思考を養うことに努めている。

本研究会は 2017 年度が初開講であり、2018 年度は二年目にあたる。まだゼミのスタイルについては模索中なので、ゼミ活動について自発的かつ積極的な提案ができる学生の応募を希望している。

2、学生への要望

本ゼミで扱うテキストに数式は出てこないが、政治学・哲学・倫理学・歴史など、多分野にわたる幅広い知識が必要となってくる。「数学が苦手だから」という消極的な理由での応募は勧めない。ふだんから本を読む習慣を身につけていること、幅広い関心を持っていることが求められる。本ゼミで学ぶ内容について特別な予備知識を持っている必要はないが、遅刻・欠席、議論への不参加、提出物の遅延・未提出は、成績評価・単位取得に著しく影響する。予習・復習もせず、ゼミの最中、黙って座っているだけで単位がくることはない。ゼミ生間の人間関係について、サークル的な親しさは求めていない。むしろ、一個人として、相手との間に個人的な親しさがなくても自分の意見を伝えられる公共性こそ必要であると考えている。

3、選考について

①募集人数：10 名程度
②選考内容：レポートと面接（レポートの条件については、別途「入ゼミ選考方法」で指示する）。
③選考基準：日頃の読書・問題関心について質問する。

4. ゼミ員構成

3年生の人数 10 人(今年からのゼミのため4年生はいません)・男 7 人　女 3 人・留学生の数 1 人

5. 活動紹介

① ゼミ（月曜 45 限）

本研究会ではマイケル・サンデル『これからの正義の話をしよう』を皮切りに、テキストの輪読・ディスカッション、レポート作成を通し

て、経済問題を含む社会問題を様々な哲学的立場から考察していきます。経済問題を哲学的に考えるというのは、難しく感じられますが、実際は身近な問題を取り上げ、興味深い題材をもとに活発な議論が繰り広げられています。本研究会は今年一年目のゼミです。先生を中心とし、皆で話し合いゼミを作りあげていくことは、とても魅力的です。既存のゼミにはない面白さがあります。

② サブゼミ

なし

③ パートゼミ

なし

④ インゼミ

なし

⑤課外活動

なし

⑥三田祭

なし

⑦夏休み

なし

⑧合宿

伊豆で 1 泊 2 日の合宿を行います。春学期に提出したレポートの添削を行ったり、映像をみてそれに対する議論を行ったりします。

⑨授業

なし

⑩経費

合宿費　1 万円

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

なし

7. 先生が担当している講義

経済思想の歴史 1（日吉、春学期月 1、History of Social Thought1（三田、春学期金 4）

8. ゼミHP・SNS

Twitter　2017 年度慶応壽里竜研究会 @keiosusato

HP　http://susatosemi.site/

9. 連絡先

外ゼミ代表

関根江里子　eriiiikoooo@gmail.com

内ゼミ代表

近江倫太朗　vpf294@keio.jp

入ゼミ担当

上田弦　chyoriyuke19950512@gmail.com

安保慶亮　keiowpc1188ambi@docomo.ne.jp

経済地理

河端瑞貴研究会

武山政直研究会

河端瑞貴研究会

―空間社会経済研究、地理情報科学（GIS）―

1 研究分野

本研究会では、「空間」を切り口に、現実の都市・地域の経済・政策課題を分析します。分析には、地理情報システム（GIS）を活用します。GIS の強みは、空間情報を視覚化できるだけでなく、空間的位置関係に基づく分析を行えることにあります。医療、環境、交通、福祉、防災などの政策課題には、都市・地域の空間構造と密接に関わるものが少なくありません。発達の著しい GIS と空間データで分析すると、そうした課題に新たな知見を提供できると期待しています。近年は、GIS と空間統計を組み合わせた研究にも力を入れています。

慶應義塾大学には ArcGIS（GIS ソフトウェア）のサイトライセンスが導入されており、塾生は無料で利用できます。

2 学生への要望

都市・地域の「空間」（地理）に関わる社会経済問題に興味があり、研究したい人。また、GIS の習得と活用に意欲のある人を歓迎します。

3 選考について

①募集人員：約 15 名

②選考内容：

i. 1 次試験：筆記試験（統計学、ミクロ経済学（教科書持込可、電子機器持込不可）

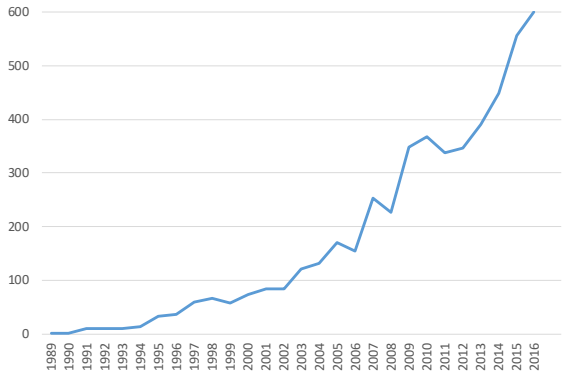
ii. 面接試験（1 次試験合格者のみ）

・ 試験当日に、成績表を持参してください。（1・2 年）〔学籍番号・氏名を記載した keio.jp 印刷物可〕

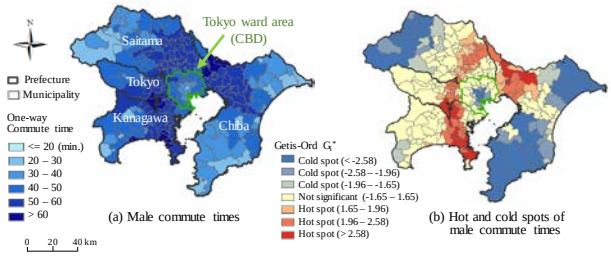
・ 願書の志望理由の中で、研究してみたい都市・地域の「空間」に関わる社会経済問題を説明してください。

③選考基準：先輩・仲間と協力しながら、積極的に研究会をつくり、関わろうとする学生を歓迎します。将来の留学希望者も歓迎します。

④最新情報については、教員および研究会ホームページ・Twitter を確認してください。



GIS と経済に関連する学術文献数



東京都市圏の通勤時間

4. ゼミ員構成

4 年生：15 人（男子 11 人、女子 4 人）

3 年生：17 人（男子 13 人、女子 4 人）（うち留学中 1 人）

5. 活動紹介

① ゼミ（火曜 3,4 限）

1. 輪読：経済地理・都市経済学・計量経済学についての本を主に取り扱い、知識を深めています。
2. GIS,Stata 演習：前半にスキルを学び、後半にそのスキルを用いて、経済分析を行っています。スキルだけでなく、有効な使い方や切り口についても学ぶことが出来ます。

3. 論文報告：4 年生は卒業論文、3 年生は三田祭論文について定期的に報告を行っています。

② サブゼミ（火曜 5 限）

サブゼミは 3 年生のみで自主的に行います。現在は GIS 演習や論文の研究を進めています。

③ パートゼミ

現在は行なっていません。

④ インゼミ

現在検討中です。

⑤課外活動

特筆すべきものはありません。研究において必要になった際、各自で行います。

⑥三田祭

3 年生が 5 人程度のグループに分かれて、論文を作成し、発表します。

⑦夏休み

論文発表に向けて、ゼミ合宿等で研究を行います。

⑧合宿

毎年 8 月か 9 月に関東周辺で 2 泊 3 日程度の合宿を行います。オンオフのはっきりした楽しくも充実した合宿です。

⑨授業

河端先生の経済地理をゼミ必修として 3 年生で履修します。また、計量経済学の基礎的な知識が必要となる為、計量経済学の授業も推奨されています。

⑩経費

教科書代、合宿費等。また、GIS を自宅で使用したい場合、ある程度のスペックを持った PC が必要となります。詳しくはゼミ員にお尋ねください。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

日吉時代に使用したミクロ経済学、統計学の参考書。特別に推奨されている参考書はありません。

7. 先生が担当している講義

経済地理（三田、通年、火曜日 2 限）
経済と環境（日吉、秋、月曜日 2 限）

8. ゼミHP・SNS

HP: https://kwbt2017.wixsite.com/mizuki-zemi
Twitter: @kwbt_seminar

9. 連絡先

外ゼミ代表　木下　公貴
koki.under.the.tree@gmail.com
内ゼミ代表　竹村　立輝
takeriki1211@softbank.ne.jp
入ゼミ担当　鈴木　裕太
yuta0515coma4164@keio.jp

武山政直研究会

―サービスのデザインとイノベーション―

1 研究分野

本研究会では、サービスデザインの方法論を学ぶとともに、サービス発想からのビジネスイノベーションをテーマに実践的な研究を行います。

サービスデザインは、1980 年代に誕生した、デザインとビジネスを横断する知のフロンティアです。特に近年のサービスは、情報ネットワークの発展と普及を背景に、人の活動、モノ、メディア、活動、場所の組み合わせによって実現されるようになっています。そのような様々な資源の組合せによって、新たな価値や事業を生み出すことに、この分野のチャレンジと面白さがあります。

研究への導入として、まずデザイン思考を体験的に学びます。デザイン思考は、問題の性質や範囲が明確でない状況において、探索的に問題と解答を同時に導いていく創造的な問題解決法です。それは、抽象と具象、感覚と論理を往復するところに特徴があります。またデザイン思考への入門に続き、戦略的にサービスのイノベーションを生み出すためのデザインディスコースや発想法、共同デザインワークショップなどの技法を順に習得していきます。

研究活動の多くは大学と企業の連携による産学共同研究プロジェクトとして遂行され、他学部の研究室とのコラボレーションも行っています。

2017 年度に取り組んでいる研究テーマは、以下の通りです。

1) 綱島サステナブルスマートタウンの地域交流サービスの事業企画
2) 家を出て街で暮らす未来社会の生活支援サービスのプロトタイピング
3) 育児する父親を応援するパパ友コミュニティサービスの提案
4) 日常の生活習慣をより良いものにする行動デザインの手法開発

2 学生への要望

社会やビジネスの構造が大きく変動する今日において、新しい価値を生み出すために、正解の無い可能性の世界を探索し、未来に形を与えていく、デザイン力が求められています。

デザインというと、カッコいいスタイリングや特別な才能を持ったデザイナーの話と思われがちですが、今あるものの前提を疑い、新たな可能性を想像して、実現しようとする意欲を持つすべての人に、デザインの能力を発揮するチャンスが与えられています。

現在の学校教育では既存の問題に正答することが重視され、自ら新しい問題を設定し、答えをデザインすることを学ぶ機会は、ほとんど与えられていません。多くの学生たちも、大学の授業やゼミを、体系化された知識を身につけ、それを用いて正解を導くスキルを学ぶ場ととらえているのではないでしょうか。

本研究会では、製品やサービス、ビジネスモデル、社会の組織や制度、知識や常識は決して正解ではなく、すべて可変であるとの前提から知的な冒険をはじめます。そして、これまでにない豊かさや喜びをつくり出そうとする意思と勇気を持った学生たちが、志を同じくする学内外の人々との交流を通じて、自らのアイディアを具現化する試行錯誤を繰り返しています。

このような研究会の問題意識と文化に共感し、世の中をプレイフルに変えていくスピリットに満ちあふれた学生との出会いを、心より楽しみにしています。

3 選考について

① 募集人員：15 名程度
② 選考内容：
1 次）レポートと成績票コピー
2 次）面接
③ 選考基準：研究動機ほか

4. ゼミ員構成

4 年生(14 期生)：12 人(男子 7 人、女子 5 人)
(うち他学部 2 人、留学中または留学予定者 0 人)

3 年生(15 期生):13 人(男子 6 人、女子 7 人)(うち他学部 4 人、留学中または留学予定者 0 人)

5. 活動紹介

① ゼミ(月曜日4・5限)

経済地理・サービスデザイン

本研究会ではインタビューや実地調査、プロトタイプの作成などを通じて、サービスデザインについての研究を行っていきます。1年間の主な流れとしては、2ヶ月間のミニプロと8ヶ月間の本プロという2つのプロジェクトを行っていきます。プロジェクトごとにいくつかの班に分けられ、それぞれの班ごとに活動しています。本ゼミでは各班の発表及び発表に対する先生からのフィードバックをいただき、サブゼミ・パートゼミでは班ごとにプロジェクトに取り組んでいます。

② サブゼミ(水曜日4・5限)

③ パートゼミ(不定期)

④ インゼミ(不定期)

⑤課外活動

⑥三田祭

三田論なし。

⑦夏休み

活動あり。

頻度は班によって変わります。

⑧合宿

あり。

⑨授業

経済地理 (三田、通年、月曜日 2 限)

経済と環境 (日吉、春学期、火曜日 5 限)

⑩経費

合宿費のみ。額は年によって変わります。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

毎年 HP に記載されています。昨年度は課題文を読み、それに続く2つの設問についての自分の考えを A4 用紙 4 枚以内でまとめるという形式でした。また、別途映像データや課題に関するファイルを提出することも可能で、課題の提出に加えてさらに成績表の提出と教授面接がありました。

7. 先生が担当している講義

経済地理 (三田、通年、月曜日 2 限)

経済と環境 (日吉、春学期、火曜日 5 限)

8. ゼミHP・SNS

HP: http://keg-lab.jp/

Twitter: @Takeyama_2018

LINE@: @wdv7015j

9. 連絡先

外ゼミ代表　北浦 俊 メールアドレス

kitakitaurara@gmail.com

入ゼミ担当　町田 侑芽 メールアドレス

yume5hogwarts@gmail.com

開発経済学

大平哲研究会

山田浩之研究会

大平哲研究会

―地域経済学・開発経済学―

1. 研究分野

国内外の地域経済に関する諸問題について勉強しています。具体的な地域を取りあげ、その経済の動きを理解するための経済学の手法を学習することが研究会の主な活動内容になります。

開発経済学の理論の考え方を確認するように努力しています。具体的な経済分析の際には、基礎にある理論の考え方の理解よりも、分析者にとって都合の良い結論をはやく出すことのほうが優先され、ツールの機械的な適用だけをおこなうことが多いものです。しかし、どのような理念に基づいて作られたものなのかをきちんと理解していかなければ、分析の内容が希薄になります。まちがいを犯す可能性もあります。都道府県庁、援助機関が実際につかっている研究報告書を正確に読む能力を身につけることが目標ですが、その基礎にある経済学の考え方を確認することに時間をかけます。

最近の開発経済学ではミクロ経済学の考え方を知ることも重要になってきています。現場で活躍する個人がどのような行動原理で行動しているかを経済学の知見に基づいて考察することではじめて意味のある経済政策が立案できるようになっています。

研究会での学習では、法律や制度・習慣、時事的な知識を集めることにも力をいれなければなりません。しかし、博識になることよりも、ものごとを見る基本的な視点を身につけることこそが大学での学習での眼目です。経済学の考え方を基礎にしながら地域経済を理解することを本研究会では重視します。

実際の研究会活動は本ゼミとサブゼミとにわかれます。今年度の本ゼミでは、三田祭論文の参考文献について理解を深める輪読、三田祭論文の中間発表、フィールドワークの聞き取り練習などをおこなっています。サブゼミでは学生が自主的にテーマを選び、本ゼミのテーマを深める作業をします。その際、可能な限り実際の現場を見るようにしています。文献調査でわかったつもりになっても、実際の現場を訪問し、関係者の話を聞くと理解が深まるものです。

国内、国外のバランス、理論と実際のバランス、等々、さまざまな面でのバランスと多様性を大事にしています。

2. 学生への要望

入ゼミ時点での経済学の理解度はそれほど高度なものを要求しません。大事なのは、マクロ経済学、ミクロ経済学、統計学、どれでも物怖じせず理解しようとする姿勢と、そのための基礎学力です。数式展開をはじめとする理論操作の能力よりも、理論の考え方を理解しようとする学生が集まることを望んでいます。

3. 選考について

①募集人数: 12 名程度
②選考内容: 未定
昨年度の例:
(1)今すぐ三田祭論文を書くことを想定した研究計画書の作成
(2)面接と成績表の提出
③選考基準: 非公開です。

4. ゼミ員構成

3年生 11 名（男 9 名、女 2 名）（留学中 0 名）
4年生 8 名（男 6 名、女 2 名）（留学中 1 名）

5. 活動紹介

① ゼミ（火曜 4,5 限）

輪読と各サブゼミグループの発表をおこないます。今年度は三田祭論文の各サブゼミグループ参考文献を輪読しています。

② サブゼミ（グループによる）

サブゼミで扱うテーマは自分たちで自由に決めることができます。今年度は教育バウチャーによる日本の教育格差の是正、芸術祭による地域活性化、北陸新幹線延伸による福井県への経済効果の 3 つについて研究しています。

③ パートゼミ

②を参照してください。

④ インゼミ
おこなっていません。
⑤課外活動
飲み会、旅行などを適宜ゼミ員が企画しています。
⑥三田祭
本年度はサブゼミで扱うテーマについての発表をおこなう予定です。
⑦夏休み
夏合宿以外は参加必須の活動はありません。しかし、3 年生はグループごとに三田祭論文完成に向けて活動します。
⑧合宿
5 月: 新歓合宿（1 泊 2 日）
ゼミ員の親睦を深めるため、茨城県石岡市にある有機農園のあらき農園で農業体験をし、近くのコテージに宿泊しました。
9 月: 夏合宿（1 泊 2 日）
長野県安曇野市にて 3 年生の三田論の完成に向けての発表や、4 年生の卒論中間発表、そして BBQ を楽しみました。
⑨授業
先生が三田で開講している授業はゼミでの理解を深めるために必須なので履修が必要です。
⑩経費
新歓合宿と夏合宿あわせて 3 万円程度です。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書
昨年度は課題のテーマが人それぞれだったので、決まった参考書はありませんでした。

7. 先生が担当している講義
・マクロ経済学初級 II（日吉、秋学期火曜 1 限）
・農業経済論 a,b（三田、火曜 3 限）
・格差と援助の経済学 a,b（三田、水曜 1 限）
・マイクロファイナンス論（三田、春学期水曜 2 限）

8. ゼミHP・SNS
ゼミ HP:
http://www.econ.mita.keio.ac.jp/staff/tets/kougi/seminar/
Twitter:
@OhiraSeminar

9. 連絡先
外ゼミ代表　竹内 賢志郎
入ゼミ担当　北原 彩帆
ohira_seminar@tets.econ.keio.ac.jp

山田浩之研究会
―開発経済学・経済発展論―

1. 研究分野

私の研究分野は広く言うと経済発展論、とりわけ開発経済学です。開発経済学は開発途上国や新興国が直面する様々な課題を扱う研究分野です。よって、計量経済学、ミクロ経済学、マクロ経済学を基礎にし、応用分野からの必要な知識をも総動員して課題に取り組む必要があります。私自身のこれまでの研究も、為替制度に関する国際金融分野のものから開発途上国の現地医療従事者の働くインセンティブまで、多岐に渡っています。

これらを踏まえ、本研究会では主にアジア・アフリカを中心とした新興国・開発途上国の経済問題に関しての知識及び分析能力の習得に主眼を置く予定です。とりわけ、関心分野のトピックの分析を行えるようなデータ分析の能力を磨きます。さらに論理的思考能力・文章執筆能力・プレゼン能力を養うために、グループに分かれての論文の執筆とチームに分かれてのディベートを開催する予定です。学生の希望と主体性を重んじた上で、可能であれば海外合宿も検討します。他大学の研究会とのインゼミも予定しています。

私自身が、「自分が学部時代にこんな研究会があったら良かったなあ…」という研究会にしたいと考えています。ただし、あくまでゼミ生の自主性を尊重したいと考えています。また、青年海外協力隊や、海外留学、国際機関での経験の話なども(もし聞かれたら)ゼミ生とはしたいと思っています。今回で 4 回目の募集となりますが、3 期生までのゼミ生は自主性を大いに発揮し、教員の予想を上回るパフォーマンスを見せてくれています。

将来国際機関で働きたい人や国際的な仕事をしたい人、開発経済・国際経済の研究者を目指す人向けの研究会を念頭に置いていますが、日本の将来を真剣に考えたいという人も歓迎します。

2. 学生への要望

開発経済学に興味を持たれる学生さんのきっかけ・動機は様々だと思いますし、大きな心意気をもってゼミを志望してくれることは大いに結構だと思います。ただし、そういった心意気だけで通用するほど世の中は甘くありません。心意気の土台となる様々な能力をこの研究会を通して身に付けて行って欲しいと思います。ゼミの活動は日が経つにつれて本格化し、時間を惜しみなく注ぎ、レベルも上がります。強い問題意識と、ゼミに積極的に参加・貢献したい学生のみを求めます。「緩いゼミ」や「楽勝ゼミ」ではないので、やる気が続かない人の応募はお勧めしません。

また、日吉のミクロ・マクロ・統計といった基礎的な科目をしっかり履修し、取りこぼさないようにして下さい。これらはゼミで学ぶ内容の土台となるだけでなく、再履修のために日吉に通うことになると、本ゼミ以外での活動に支障をきたし他のゼミ員に迷惑がかかる可能性があるからです。

3. 選考について

①募集人員：約 10 名
②選考内容：レポート、成績、面接
③選考基準：レポート、志望動機、成績、面接による総合評価。

4. ゼミ員構成

4 年生：9 人(男子 4 人、女子 5 人)（うち他学部 0 人、留学中または留学予定者 0 人）
3 年生：10 人(男子 5 人、女子 5 人)（うち他学部 0 人、留学中または留学予定者 1 人）

5. 活動紹介

① ゼミ（水曜 4,5 限）

＜春学期＞『開発経済学-貧困削減へのアプローチ』を用いて開発経済学の基礎を学ぶとともに、『Introduction to Econometrics』の輪読を行い計量経済学を学びました。また学期の後半では、4 年生による卒論の中間発表を進めました。

＜秋学期＞三田祭までの期間は、三田論の執筆やフィードバックを行い、三田論を執筆していきます。

② サブゼミ（水曜 6 限、金曜 1 限）

3 年生の中で話し合い、サブゼミの日数や曜日を決定します。

＜春学期＞プレゼンやディスカッション、計量経済学の演習を行いました。

＜秋学期＞三田論の執筆活動を進めます。

③ パートゼミ

パートゼミは行っていません。

④ インゼミ

早稲田大学の開発経済学ゼミである、戸堂ゼミと行う予定です。

⑤課外活動

本年度の試みとして、3 年生の有志で外部の NPO 団体にインタビューを行っています。記事などの詳細は HP 上に掲載しているので、ぜひチェックしてみてください！

⑥三田祭

今年度は 2 つのグループに分かれ、それぞれ 1 本の論文を執筆します。

⑦夏休み

グループごとに、三田祭論文の執筆準備を進めました。

⑧合宿

今年は 9 月に、アフリカのルワンダ共和国で 6 日間のスタディ・ツアーを行いました。

⑨授業

山田先生が開講している、「開発経済学」を必修授業としています。また、実証分析で必要となる知識を習得するために、田中辰雄先生の「計量経済学中級」を履修することが推奨されています。

⑩経費

ゼミ費 5,000 円、その他諸費（教科書代、合宿費など）。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

事前に発表された課題から、各自内容に合わせた参考図書を使用します。

7. 先生が担当している講義

AID AND DEVELOPMENT(PCP)(春（三田）水 3）
DEVELOPMENT PROGRAM EVALUATION IN DEVELOPMENT COUNTRIES(PCP)（秋(三田)水 3）
開発経済学 a/b（春/秋(三田)金 2）

8. ゼミHP・SNS

Twitter:山田浩之研究会 @hyamadaseminar
Facebook:慶應義塾大学山田浩之研究会 @hyamadaseminar
HP:慶應義塾大学山田浩之研究会 (http://486915.wixsite.com/hyamadaseminar)

9. 連絡先

外ゼミ代表 黒川創貴
内ゼミ代表 鈴木理文
入ゼミ担当 安井夕葵
連絡先 hyamadaseminar@gmail.com

応用ミクロ経済学

津曲正俊研究会

藤田康範研究会

津曲正俊研究会
―ミクロ経済理論とその応用―

1. 研究分野
私は、ミクロ経済学、特に「契約理論」の分野で研究活動を行っております。「契約理論」は、2016 年のノーベル経済学賞受賞対象になった非常にホットな研究分野です。人々の行動を織り込みながら制度・組織をどう設計したらよいかを検討する理論です。社会問題の多くは、人間行動を適切に制御できない制度・組織設計の失敗として説明できます。問題がなぜ発生するのか、解決策はあるのか、などを分析するために有用な理論です。

研究会では、ゲーム理論、契約理論を含む最先端のミクロ経済理論を幅広く学び、それを用いて現実の経済問題を分析する能力を磨くことを目的に活動します。第一の柱は、皆さんが日吉時代に学んだミクロ経済学基礎の理解をさらに深めると同時に、「ゲーム理論」や「契約理論」など比較的新しい理論分野を専門書の輪読・議論を通じて学習することにあります。第二の柱は、経済理論の応用分野の文献を読むことで、理論が現実問題の分析にどう用いられているか学習することにあります。マーケットデザイン理論、国際貿易論、産業組織論などミクロ経済理論を基礎として発達した研究分野の文献の輪読を考えております。2018 年度に扱うテキストは未定ですが、研究会に在籍する 2 年間にミクロ経済理論とその応用を幅広く勉強できるように配慮したいです。3 年生のときには、経済問題の分析に経済理論を応用する場としてパートごとの共同研究を推進してもらいます。また最終的な研究成果は、皆さんの関心に応じた研究テーマでの卒業論文として提出してもらいます。

2. 学生への要望
経済理論は、必死になって考えて習得できることが多く、忍耐強さが要求される研究分野です。経済理論に高い関心を持ち、さらに深く学習・研究する意欲をもった学生の参加を望みます。パート研究や卒業論文に関しては、テーマに強い制約をおかず、学生の関心をできるだけ尊重する形をとっていますので、経済理論の基礎研究と同時に、理論を用いた様々な応用研究に関心のある学生にも対応しうる研究会であると思います。ただし、円滑に運営する都合上、ミクロ経済学の基礎をしっかり理解している必要があるので、入会選考はその点を重視します。

3. 選考について
①募集人数： １０名程度
②選考内容： 筆記試験（日吉のミクロ経済学初級程度の内容）、面接（面接時に1・2年の成績表のコピーを持参すること）
③選考基準： 筆記試験によりミクロ経済学初級程度の内容をよく理解しているかを評価します。面接では研究会に向けての学生の意欲を評価します。成績表で日吉での全般的な学習成果を確認します。合否判定において、筆記試験の結果を特に重視します。

4. ゼミ員構成
男 12 人

5. 活動紹介
ゲーム理論(水曜 4 限) ...「複数の意思決定をする主体が、その意思決定に関して相互作用する状況を研究する理論」 です。ゲーム理論を学ぶことによって、
(1)合理的な思考・ロジカルシンキングの訓練ができる
(2)戦略的・論理的な観点から、討論することができる
などのメリットを享受できます。
産業組織論(水曜 5 限) ...2 年生の後期で扱う、不完全競争市場をメインに、さらに深く勉強していきます。例えば、 企業が 1 社のみの「独占市場」、2 社~数社の「寡占市場」での企業の行動を分析します。
パートゼミ(各自)
1、企業組織...企業内の組織設計や職務設計、人事政策について勉強しています。
2、雇用と制度設計 ...ミクロ経済学を基礎とした、現実の制度や現象の分析に取り組んでいます。
3、行動経済学 ...標準経済学では説明できない非合理的な現象を人間の行動心理に基づいて研究しています。
合宿...今年は群馬の中沢ヴィレッジに二泊三日で合宿をしました！
授業...ミクロ経済学中級(火曜 3 限)がゼミ必修です。

6. 先生が担当している講義
ミクロ経済学初級(春:木曜1限 秋:火曜2限)
ミクロ経済学中級 1A(火曜 3 限)

7.ゼミHP・SNS
https://tsumagarizemi.jimdo.com/

8. 連絡先
外ゼミ代表 中村健介
内ゼミ代表 中山海誠
入ゼミ係 高橋直希 井上友貴

藤田康範研究会

―経済政策・応用経済理論―

1. 研究分野

本研究会は経済政策・応用経済理論を研究分野とし、日本経済・世界経済に関する新聞・雑誌等の内容を理解して平易に説明し論評する能力を養うこと、経済理論の活用方法を身につけて専門論文を執筆できるようになること、そしてその上で、感動を設計できるようになることを主な目標とします。各種の企業情報、研究所等が発行する雑誌の論文、『経済財政白書』、「ハーバード・ビジネス・レビュー」等を楽しめるようになることがおおよその目安です。

「コトづくり・ココロづくり」やプロモーション方法など、「感動の設計」に関する具体的課題を企業の方々からいただいてその解決案を提示させていただき、評価していただく機会を多く用意しています。

学生一人ひとりが新たな才能を発掘して相互に良い刺激を与え合い、「自他共栄」の中で大学生活の後半を充実させ、より良い社会人になるための準備をしていただきたいと希望しています。

（具体的な課題解決のために経済理論がどのように役立つかについて関心のある方は、藤田康範『経済戦略のためのモデル分析入門』（慶應義塾大学出版会）（特に序章と第 1 章）をご覧下さい。）

2. 学生への要望

本研究会は、「独立自尊」の個人によるグループワークを基本としています。各班が担当個所の報告を行い、その上で質疑応答を行なってお互いに高めあうことを目指していますので、建設的な意見交換を行うことに慣れておいて下さい。学生一人ひとりがそれぞれの背景を大事にし、互いに異なり互いに尊重できる存在であり続けていただきたいと思っています。

プレゼンテーションにおいて最善を尽くすのみならず、プレゼンテーションをしていない時でも適切に振舞えることが理想です。

必要なことがらは責任を持って教え、無理なく丁寧に進行するように努めていますので、特に独自に学習を行う必要はありません。慶應義塾大学経済学部の 2 年生として誠実に生活し、交友関係を築いていただければ十分です。

3. 選考について

①募集人数

昨年度までと同様に A 日程で約 15 人を募集しますが、真剣に希望する人にはできる限り入会していただきたいので、応募人数が多い場合には、これまで通り募集人数を増やす予定です。（これまで、ゼミ員数が増えても、少人数を望んで受験された方々が失望しないように、最大限の努力をしています。）

②入ゼミ選考方法

(1) 事前レポート

現実経済や経済学、ものの考え方等に関するレポートです。昨年度と同様の内容であり、複数の課題資料の中から一つを選択し、その課題資料を契機として考えたこと感じたことを A4 用紙 2 枚にまとめていただく予定です。数理的な分析を行う必要はありませんが、論理的な文章構成を心がけて下さい。内容は 12 月中旬頃に告知します。提出期限は入ゼミ試験日直前の予定です。

(2) 論述試験

応募される方々の力が最も発揮されるよう、「日本の経済」・「ミクロ経済学」・「マクロ経済学」・「経営学」の中から 1 科目を選択して解答していただきます。（科目の選択は試験当日、試験問題を見てからで結構です。また、「ミクロ経済学」については、負担にならないよう、秋学期の学習内容を試験範囲としています。）1 時間程度の試験時間、B4 用紙 1 枚程度の解答量を予定しています。それぞれに関しては、本および範囲を明確に定め、12 月中旬頃に告知します。

(3) 面接

担当者（=藤田康範）による 5~10 分程度の個人面接です。夢を抱いていてその実現のために本研究会が役立つ方々の入会を希望しますので、自分自身を適切に PR できるよう考えておいて下さい。

③選考基準

様々な背景を持つ人たちが交わって知識を共有し、分業と協業によって経済や学問に関する理解を深める場にしたいと考えていますので、明るくて前向きである人、新しいことが

らを驚きと喜びをもって受け入れられる人、意見の共有を好む人の入会を希望します。

◎連絡先
電子メール：yfujita@econ.keio.ac.jp
住所：〒108-8345　東京都港区三田 2-15-45
慶應義塾大学経済学部　藤田康範

4. ゼミ員構成
4 年生(17 期)：26 人(男子 7 人、女子 19 人)(他学部 2 人、留学中または留学予定者 3 人)
3 年生(18 期)：33 人(男子 9 人、女子 24 人)(他学部 0 人、留学中または留学予定者 2 人)

5. 活動内容
①　本ゼミ（水曜4･5限）
月に 1 つ程度先生や外部の企業の方から与えられる課題について、5～6 人のグループで取り組みます。課題の内容は経営戦略を考えるものが多く、現実に存在する問題を題材とした実践的訓練となります。課題の発表形式はプレゼンテーションから動画まで、様々です。先生、ご協力いただいた企業の方、ゼミ生に向けての発表を経験することになりますが、社会で活躍する上で必要不可欠であるプレゼンテーション能力が驚くほど身に付きます。経済学そのものに関する授業が行われることはありませんが、課題を解決する上で必要な経済学、経営学の知識や考え方等は、必要に応じて先生にご享受いただきます。
②　サブゼミ
本年度は実施しておりませんが、課題解決・発表準備のために、必要に応じてゼミ生が空き時間に自主的に集まり活動を行うことが多々ありました。
③　パートゼミ
特にパートに分けるシステムはありませんが、三田論など、それぞれの得意分野でパートごとに分かれて準備を進めることもあります。
④　インゼミ
今年度も東京大学大学院工学系研究科松尾研究室とともに活動をさせていただく予定です。
⑤　課外活動
慶早戦の応援や、我孫子市の PR 動画を作成する際には実際にグループに分かれ我孫子市を訪問、さらに先生と交流のある外部の企業の方々と、ゼミの時間外にも多岐にわたる活動を行っています。
⑥　三田祭
論文発表の予定です。
⑦　夏休み
9 月公開の我孫子市 PR 動画について班ごとにミーティング・編集を行いました。
⑧　合宿
5 月には親睦を深めるための新歓合宿を、9 月には「強化合宿」を行いました。
⑨　授業
三田開講、月曜 2 限の経済政策のミクロ分析と木曜 3 限の金融資産市場論をゼミ生は履修しております。
⑩　経費
合宿やゼミ T シャツ、毎月開催する誕生日会の費用等はその都度必要ですが、その他かかる経費は特にありません。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書
『ゼミナール日本経済入門第 25 版』日本経済新聞社
『演習ミクロ経済学』新世社
『スタディガイド入門マクロ経済学(第 5 版)』日本評論社
『経済戦略のためのモデル分析入門』慶應義塾大学出版会
2016 年度はこの 4 冊の中から得意なもの一つという方式でした。

7.　先生が担当している講義
自由研究セミナー（日吉、月曜日 5 限）
金融リテラシー(春(日吉),金曜 5 限)
経済政策のミクロ分析（三田、月曜日 2 限）
金融資産市場論（ 三田、木曜日 3 限）

8.　ゼミ HP
http://seminar.econ.keio.ac.jp/yfujita/

9.　連絡先
外ゼミ代表　西出咲
b100mybloom97@gmail.com
入ゼミ代表　渡辺直樹
naoki_s600@keio.jp

財政社会学 井手英策研究会

医療経済学 井深陽子研究会

行動経済学 大垣昌夫研究会

政策研究 北尾早霧研究会

人口論 津谷典子研究会

都市計画 長谷川淳一研究会

応用分析

マッケンジー・コリン研究会

井手英策研究会

―財政社会学・社会問題―

1.　研究分野

僕の担当科目は財政社会学、社会問題です。歴史的なアプローチから財政や社会の問題、そして日本社会のこれからについて学んでいます。近年、経済のグローバル化にともなって、日本社会のありかたは大きな変化を遂げつつあります。こうした社会の変容を、戦前以来の財政のありかたとの関連から研究しています。とくに、経済的要因だけではなく、信頼や規範、痛税感といった社会的要因が財政運営にどのような影響を与え、そのことが社会にどのような反作用を与えているのかに関心を持っています。

2.　学生への要望

ゼミでは3つのイベントがあります。1）春に広島県の介護施設を訪ねる、2）夏休みに全国の大学と合同ゼミをひらく、3）12 月に京都大学との討論会をおこなう、です。これらすべてへの参加が単位取得の前提ですので、サークル等のイベントとの調整をできることが入ゼミの条件となります。

春学期は古典の輪読と合同ゼミへの準備をします。それらをもとに討論会へのペーパーを書き上げるのが秋学期の課題です。サブゼミでの準備もありますし、ゼミの活動は相当活発なものだと思います。

研究会を学生生活の中心にできない諸君には大きな負担になりますが、「2年間思いっきり勉強したい」という意欲のある学生諸君にとってはやりがいのあるゼミです。僕も可能な限り時間を割いて飲み会やイベントに参加しています。やる気のある学生諸君の応募を期待しています。

3. 選考について

1　募集人員：10 名強
2　選考内容：ペーパー提出と面接。
3　選考基準：ペーパーや面接の内容はもちろん、応募書類やメールでのやりとりも含めて総合的に判断する。

4. ゼミ員構成

4 年生（7 期）10 人（男子 7 人、女子 3 人）他学部 0 人、留学中または留学予定者 1 人
3 年生（8 期）10 人（男子 6 人　女子 4 人）他学部 0 人、留学中または留学予定者 1 人

5. 活動紹介

①　ゼミ（水曜 4.5 限）

当研究会では、先生の専門分野である「財政社会学」の視点から勉強を進めています。「財政社会学」とは、貨幣による統治や中央政府の意向と、財政の受益者である国民との関係を包括的にみることによって、従来の財政学以上に社会と向き合うことができる学問を指します。具体的なゼミの活動内容としては、輪読と研究、また課外での活動です。輪読では、福祉国家の理想とされるスウェーデンの財政や社会福祉について学び、またそれらの日本への適応性について検討しました。その後、社会保障班と教育班の 2 班に分かれて研究を行い、9 月の合同ゼミ合宿で研究成果を発表しました。今後の課外での活動としては、12 月の京都大学でのインゼミなどが予定されています。ご質問等あればお気軽にお問い合わせください。

②　サブゼミ（金曜 5 限）

サブゼミでは、教育班と社会保障班の 2 班に分かれ、毎週の発表の準備などを行っています。

③　パートゼミ

なし

④　インゼミ

通常の授業の時間では行っておりません。

⑤課外活動

・5 月　広島県福山市の介護施設訪問と地域のお祭りに参加
・9 月　蔵王での合同ゼミ合宿
・12 月　京都でのインゼミ

⑥三田祭

12 月にインゼミがあるため、三田祭論文での発表はしない予定です。

⑦夏休み

9 月に合同ゼミ合宿があり、またその準備をしました。

⑧合宿

前述の様に、5 月（1 泊 2 日）、9 月（2 泊 3 日）、12 月（1 泊 2 日）があります。

⑨授業

ゼミ必修ではありませんが、先生の授業である財政社会学（後期、金曜 3.4 限）は履修しています。

⑩経費

年会費はありませんが、合宿ごとに交通費と宿泊代がかかる場合があります。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

筑摩選書『分断社会を終わらせる』井手英策、古市将人、宮崎雅人、2016 年

その他にも先生の著書を読んでおくと、助けになるでしょう。

7. 先生が担当している講義

財政社会学（後期、金曜 3.4 限）

8. ゼミHP・SNS

Twitter アカウント　井手英策研究会 @ideseminer

ゼミ HP http://seminar.econ.keio.ac.jp/ide-seminar/

9.連絡先

外ゼミ代表　浅見英里香

erika106675339@gmail.com

内ゼミ代表　荒木将

rak_ashoi@keio.jp

入ゼミ担当　石田亮太

ryota.ishida18@outlook.jp

井深陽子研究会

― 医療経済学 ―

1. 研究分野

医療経済学は、英語対訳の Health Economics という呼称が示す通り、人間の経済活動と健康の関わりについて学ぶ経済学の一分野です。

経済は個人や企業、政府の活動から成り立っています。これまで皆さんが学んだ経済の動きを学ぶ理論において、健康という要素を明示的に扱うことは無かったかもしれませんが、実際の経済活動の多くの部分で健康という要素が様々な形で関わってきます。

例えば、ミクロ経済学で学んだ労働と余暇にそれぞれどれだけの時間を投入するかという問題を考えてみましょう。ジムなどで体を動かすことに時間をあてるのか（余暇）、それともその時間をアルバイトにあてるのか（労働）、というような意思決定は、日常的に行われていることでしょう。この様な意思決定は、経済活動と個人の健康状態の両方に影響を及ぼします。すなわち、健康状態と経済活動は相互依存関係にあるわけです。

国家は個人の集合体からなりますから、このような個人の単位での健康と経済活動の依存関係は、国の経済政策や医療保健政策を考える上でも重要になります。

本研究会では、医療経済学の諸課題をデータを用いて実証的に分析することを目指します。経済学は人間の意志決定や経済の動きを精緻な理論を用いて分析することが大きな特徴です。同時に、構築された経済理論が妥当であるのかについて、データを用いて検証する実証研究が、1990 年前後を境にますます重要になってきていることが専門の学会誌においても指摘されています。

政策の議論において、Evidenced-based という言葉がよく聞かれますが、実際に行われた政策の有効性を評価する政策評価の分析は実証分析の一つの形態です。実証分析の一つの魅力は、ある政策の効果を評価する場合に、効果があったかどうか、だけではなく、その効果がどの程度の大きさであったか、を定量的に評価することができる点です。

本研究会では、実証分析に必要な計量経済学の手法を学んだ上で、その手法を利用した医療経済分野の研究を学びます。

2. 学生への要望

医療経済学（Health Economics）は、経済学においては、比較的新興の分野であり、未だ解明されていない問題がたくさんあります。最近では、日本でも科学的根拠を提供するのに十分な質の高い個票（主に個人レベル）のデータが入手可能となり、この様な諸問題を分析する能力を有する人材の必要性が一層高まっています。研究分野の内容に加え、この様な点に魅力を感じる方を歓迎いたします。

研究会は少人数で学ぶことの出来る貴重な機会です。少人数であるということは、どの場においても、一人一人の果たす役割が非常に重要になってきます。個人の果たす役割の重要性を十分に理解して、研究会活動を行っていただける方を希望します。

また、積極的であることは、研究会活動を自分にとって、また担当教員を含めたメンバー全員にとって充実したものにするために重要です。ただし、積極性のあり方には色々ありますので、必ずしもリーダーシップを取ることを得意とすることを求めるわけではなく、自分にあった積極性を追求して下さることを期待しています。

最後に、本研究会は 2 年目の新しい研究会ですので、皆さんのアイデアや行動により盛り上げて下さることを楽しみにしています。

3. 選考について

①募集人員：10 名程度
② 選考内容： A)ミクロ経済学、統計学、英語の筆記試験(合計で 90 分), B)面接, C)成績表, D)レポート（B 日程のみ）
③選考基準：A)から D)より総合的に判断。

4. ゼミ員構成
4 年生（1 期生）:6 人（男 5 人，女 1 人）
3 年生（2 期生）:12 人（男 10 人，女 2 人）
留学生 0 名

5. 活動紹介
① ゼミ（水曜 4 限，5 限）
前期は本の輪読を行います。今年は医療分野から 1 冊（『医療のなにが問題なのか』松田晋哉（勁草書房））、計量経済学分野から 1 冊（『実証分析入門』森田果（日本評論社））の計 2 冊を輪読し、章ごとに担当者が解説を行い、質疑応答などを行うことでゼミ員の間で議論を深めました。後期は引き続き本の輪読（『Quantitative Social Science』Kosuke Imai（Princeton University））と、三田祭論文に向けた準備を行います。4 年生は、1 年間を通して卒業論文の制作を行います。
② サブゼミ（水曜 6 限）
学生のみで主体的に行っています。前期はディベート、論文の書き方に関するペーパーの輪読、三田祭論文の進捗報告などを行いました。後期は三田祭論文の準備をメインに行う予定です。
③ パートゼミ
実施しておりません。
④ インゼミ
本年度は以下の研究室とのインゼミを実施する予定です。
マッケンジーコリン研究会（慶應大）
若林研究会（東北大）
菅原研究会（法政大）
酒井研究会（法政大）
河口研究会（成城大）
濱秋研究会（法政大）
⑥三田祭
三田祭論文を作成、発表します。
⑦夏休み
夏休みは論文のグループごとに、三田祭論文の準備を行います。
⑧合宿
夏休みの終わりに 2 泊 3 日でゼミ合宿を行います。3 年生は三田祭論文の、4 年生は卒業論文の進捗発表を行う他、ディベートなども行います。

⑨授業
ゼミ必修授業は以下の 2 つです。
医療経済学（三田，春学期水曜日 2 限）
演習 a / b（三田，春学期火曜日 3 限，4 限）
※医療経済学の代わりに
HEALTH ECONOMICS
（三田，秋学期水曜日 2 限）
を履修することも可能です。

⑩経費
教科書代：約 1 万円
合宿費　：約 2 万円
計：約 3 万円
が 1 年間でかかる経費の目安です。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書
ゼミ試験は基本的な内容が問われるので特に指定する参考書はありませんが、以下の参考書を推奨します。
『演習ミクロ経済学』武隈慎一（新世社）
『はじめての統計学』鳥居泰彦（日本経済新聞出版社）

7. 先生が担当している講義
医療経済学（三田，春学期水曜日 2 限）
HEALTH ECONOMICS（三田，秋学期水曜日 2 限）
演習 a / b（三田，春学期火曜日 3 限，4 限）
（山田，津谷，直井先生との合同授業）

8. ゼミHP・SNS
HP：　http://seminar.econ.keio.ac.jp/ibuka/
Twitter：　https://twitter.com/ibukanyuzemi

9. 連絡先
入ゼミ用メールアドレス
ibukaseminar2017@gmail.com
外ゼミ代表　高見　朗
t-akira1030@keio.jp
内ゼミ代表　植田　祐哉
yuya.kosk65@keio.jp
入ゼミ担当　藤井　達樹
truefalse0312@gmail.com
入ゼミ担当　和田　未来
miraiwada@keio.jp

大垣昌夫研究会

―行動経済学―

①研究分野

担当者は 2005 年ごろまではマクロ経済学、計量経済学、国際マクロ経済学を専門分野として研究してきましたが、現在の研究分野は主として行動経済学です。行動経済学は最近になって大きな発展をとげた分野で、2002 年には行動経済学の業績でカーネマンが、2013 年にシラーがノーベル賞を受賞しました。従来の経済学は、利己的で、無限の計算能力などを持つという意味で超合理的な「経済人」を仮定しています。行動経済学は、心理学などで使われてきたようなアンケート調査や、経済実験を用いて、「経済人」の仮定の下では説明できない多くの重要な経済行動が現実にあることを示してきました。さらに「経済人」の仮定を用いないさまざまな経済理論が構築されてきて、特にファイナンス、発展経済学などの分野で応用されてきました。本研究会では学生がグループを作り、行動経済学の仮説をアンケート調査やインタビューなどの行動経済学の手法を用いて実証研究を行なうことを目標とします。3 年生は特に「世界観が経済行動に与える影響」というテーマの中で見つけた仮説について、4 年生は自由なテーマで、それぞれ 1 年間かけて研究することとします。

世界観とは、哲学者のカントが使い始めた言葉とされていて、哲学や文化人類学で、いろいろな意味で使われています。文化人類学では文化との関係で、倫理や規範などの価値観や、何を美しいと感じるかなどの感情も含めます。ゼミでは文化人類学での一つの定義、「ひとつの人々の集団が生活を秩序づけるために用いている、現実の性質に関しての認識、感情、判断に関する、基礎的な仮定と枠組み」を採用しています。行動経済学の研究に用いる目的上、経済学の選好は世界観に含めないので注意が必要です。

宗教を含む文化、科学、教育などが人々の知識に影響を与え、知識が世界観に影響を与えて、世界観を形成していきます。広大な世界に比べると、人間の認識力や知識には限界があるので、世界観を全く持たないで世界を見ることは不可能です。意識していなくとも、誰でも自分の世界観を持っています。世界に存在する世界観を大きく分類することは可能ですが、厳密には一人一人が異なる世界観を持っていることになります。

時代により地域により宗教や文化により、人々は大きく異なるさまざまな世界観を持っています。例えば認知面では日本の調査では「あの世」を信じる割合が、20 代では 1958 年の 13%から 2008 年の 49%に上昇しています。また、日本では一神教的な神を信じる人は少ないのに対し、ほとんどのアメリカ人は、神あるいは宇宙的な霊の存在を信じています。

世界観は経済行動に影響します。例えば福澤諭吉が教育活動に力を入れたのは、「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず。」という世界観が大きく影響したと考えられます

②学生への要望

担当者の講義「国際経済と行動経済学 ab」は必修かつ要出席とします。「世界観の経済行動への影響」という研究テーマで3年生の一年間研究することに興味のある学生を募集します。グループ研究となるので、自分の特性をグループ研究に生かせることを嬉しく思う学生の参加を期待します。例えば対人関係に積極的な性格な人は、調査対象グループとの交渉の役目をしたり、心理学の授業を取った人は心理学の結果や手法を研究取り入れたり、英語の得意な人は英語の関連研究の論文を研究会で紹介したり、日本語の得意な人はアンケートの調査票でわかりやすい質問を作ったりする、というようなことです。

③選考について

① 募集人員：約 18 名
② 選考内容：レポートと面接(学生によるもの、および担当者によるもの)。レポートの課題などの詳細はゼミ HP に発表されます。

③　選考基準：意欲と興味の度合、共同研究の研究能力、リーディング課題での対話能力を中心に、男女比などのゼミ生のバランスを考慮しつつ総合評価します。バランス上、体育会所属学生は 6 人までとする予定です。

4. ゼミ員構成

3年生　18 人（男 8 人、女 10 人、留学生 3 人）
4年生　20 人（男 12 人、女 8 人、留学生 1 人）

5. 活動紹介

① 本ゼミ（月曜 4･5 限）

1.リーディング課題の発表・ディスカッション
　ディスカッション課題を読んでディスカッションします。春学期は、入ゼミ課題本でもあるマイケル・サンデルの『これから「正義」の話をしよう』から学んだ世界観を基に、事例に対してグループごとに賛成・反対庭から、意見を発表しディスカッションを行います。
2. 三田論に向けた研究発表
　3 人一組の研究グループごとに、「世界観が経済行動に与える影響」に関して、自由にテーマを設定します。三田論に向け、各グループの研究の進歩状況を発表していきます。
　4 年生は行動経済学のテーマで卒業論文を
中心に活動しています。

② サブゼミ（木曜 4･5 限）

　本ゼミのディスカッションや三田論に向け、リーディィンググループ、研究グループに分かれて課題発表の準備、研究を進めています。

③ パートゼミ

　特になし

④ インゼミ

　2015 年度より近畿大学経済学部経済心理学コースの山根承子ゼミと、近畿大学と慶應義塾大学で交互に毎年一回開催している。

⑤課外活動

　行動経済学会での研究発表
　実験補助等

⑥三田祭

三田論の発表を行います。ブースも設けているので、興味のある方はぜひお越しください。

⑦夏休み

三田論に向けた研究をグループごとに進めます。

⑧合宿

毎年 2 泊 3 日の合宿を行っています。合宿では研究のみならず、レクリエーション等を通じてゼミ員の交流を図ります。

⑨授業

大垣先生の火曜日 1.2 限「国際経済と行動経済学」の履修が必要です。(三田キャンバス/要出席)

⑩経費

夏合宿費は約 2 万円です。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

『これから「正義」の話をしましょう』(マイケル・サンデル著)

7. 先生が担当している講義

国際経済と行動経済学 a,b(三田、火曜日 1･2 限)

8. ゼミHP・SNS

HP
http://seminar.econ.keio.ac.jp/ogaki
Blog
http://mogakisemi.exblog.jp

9. 連絡先

内ゼミ代表：高橋　将史
generalhistory.123610@gmail.com
外ゼミ代表:大西　紘司
ps38gojo@gmail.com
入ゼミ担当：大山　桃加林　D.
delphigia@me.com

北尾早霧研究会

―財政・社会保障、マクロ経済学―

1 研究分野

担当教員の専門は、税制や社会保障制度による影響をミクロの個人による意思決定をベースとしたマクロ経済モデルを使った研究です。

本研究会では日本が直面するさまざまな財政・社会保障問題やマクロ経済に関する政策研究を行います。春学期に教科書の輪読を通じて、日本における財政・社会保障問題の概要と経済学的な分析方法について学びます。同時に新聞や雑誌などに掲載された時事問題について発表・議論し、問題意識を高めていきます。

本研究会の特徴としては、経済政策の影響を個人や企業に与えるインセンティブといったミクロの視点、それから GDP 成長率や財政赤字といった変数に要約されるマクロの視点の両方から捉える訓練をします。また、政策決定における社会的、政治的なせめぎあいを現実問題として理解しつつ、経済学を専攻する学生として現実から一歩下がり理論的な考察も加えた厚みのある議論ができるようになることを目指します。ミクロとマクロ、理論と現実のバランスを取りつつ研究会の活動を進めていきます。

議論に上る具体的なトピックとしては、高齢化問題、年金制度と財政の持続可能性、少子化対策、労働力の減少、医療・介護保険制度改革、所得・資産格差問題、税制改革などが挙げられます。輪読する文献は参加者の興味関心、研究会の進度に応じて決定します。

2 学生への要望

経済政策に興味があり、問題意識を持ってオリジナリティのある研究をしてみたいと思う学生の参加を望みます。

担当者の研究分野は上記のように財政、社会保障制度についてのマクロ経済分析が中心ですが、広く経済政策に関することであれば原則研究論文テーマの選択は学生の自由意志に任せます。

ゼミでは教科書を読み研究するだけではなく時事問題に関する議論や個人・チームによるプレゼンテーションを積極的に行います。これらが現時点で得意である必要はありませんが、ゼミ参加を通じて調査研究、議論、発表のスキルを身につけたいと思い努力する意思があることが条件です。議論に積極的に参加し、質問を投げかけ自分の意見を述べることを期待します。

ゼミは**木曜の午前（1、2限）**です。限られた時間の中で集中してメリハリのある学習を望む学生を希望します。**授業に参加しなければ単位は与えないので朝が苦手であったり、正当な理由なく遅刻・欠席しがちな人には向きません。**

研究会以外の時間にゼミ生が集まりサブゼミや課外活動をすることはゼミ生の自由意思に任せます。

研究職（大学院進学・留学や研究機関就職）を志望する人や留学生も歓迎です。

使用言語は基本日本語ですが、論文執筆や発表は日本語、英語どちらでもかまいません。ゼミでは日本経済の話が中心になりますが、他国の経済政策についての研究も可能です。2年目で少人数のゼミなので参加者の興味関心、要望に柔軟に対応します。

3 選考について

① 募集人員：約 10 名

② 選考内容：

1．レポート提出。

（A）興味のある経済問題を一つ選び、問題を要約し自分の考えや望ましい政策について自由に論述（A4で3枚以内）

（B）ゼミと担当教員に期待すること、ゼミでやりたいこと（A4 で 1 枚以内）

2．教授面接、学生面接

3．成績表

③ 選考基準：レポート、面接、成績で総合的に判断します。研究意欲、問題意識、論理的思考力、基礎学力の有無に注目します。

4. ゼミ員構成

3年：10 人（男子7、女子3）（うち他学部1人）

4年：14 人（男子11、女子3人）（うち他学部1人、留学者2人）

5. 活動紹介

① ゼミ（木曜1、2限）

春学期は、少子高齢化問題や財政、社会保障などの政策課題を輪読や時事問題に関するディスカッションを通じて勉強し、4 年生の卒論中間発表を聞いて知識を深めます。秋学期は三田祭論文の執筆がメインとなります。本研究会は、ミクロとマクロ、理論と現実のバランスをとりつつ、政策課題を考えています。まだ 2 年目の新しいゼミであり、先生はゼミ生の意見を尊重してくださるので、各々のやりたいことを反映させることができます。

② サブゼミ

必要があれば適宜行います。

③ パートゼミ

ありません。

④ インゼミ

昨年は小林慶一郎研究会とインゼミを行いました。

⑤課外活動

ソフトボール大会参加など、ゼミ生の希望に応じて企画します。

⑥三田祭

論文発表を行います。

⑦夏休み

三田論の準備を各班ごと進めます。

⑧合宿

ゼミ生の要望に応じて設けます。

⑨授業

特にありません。

⑩経費

特にありません。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

特にありません。

7. 先生が担当している講義

定量的マクロ経済学a,b (QUANTITATIVE MACROECONOMICS A,B) （春秋（三田）、火曜3限）

日本経済概論（Introduction to Japanese economy, PEARL) （秋（日吉） 火曜1限）

8. ゼミHP・SNS

北尾早霧研究会 Twitter
@kitao_zemi

9. 連絡先

外ゼミ代表　山本蓮平
r.y.baseball.6.7@ezweb.ne.jp
入ゼミ代表　野仲郁宏
fumihiro.nonaka1107@gmail.com

津谷典子研究会
―人口論―

1. 研究分野

この研究会は、世界人口の増加、先進諸国における人口高齢化、その要因である死亡率低下と少子化などの人口学の主要トピックを広く学び、またこれらの人口変動と社会経済発展との関係について研究を行うことを目的にしています。人口の規模や構造の変化は、それ自体重要な研究課題ですが、これらの変化はまたその国の経済発展・開発と結びつき、資源・環境への影響も大きく、労働力や消費への影響を通じて経済成長を左右する事柄でもあります。また死亡率や出生率の変化の背景にある結婚や家族、そして女性の地位・役割の変化などについても、この研究会では注目していきたいと思っています。

研究対象としては、現代日本のみならず、戦前や明治・徳川期の人口を扱うことも可能ですし、また日本以外のアジアの国々や西欧先進諸国との比較、および発展途上諸国の動向も含みます。また、人口学では人口および社会経済をデータを使って実証的に分析するため、人口データの種類やそのソース、統計データの読み方や人口指標の計算法などの人口統計学の基礎、およびコンピューターを使用したデータの集計や解析についても、実習を通じて手ほどきします。

より具体的に説明すると、この研究会は、①英文文献輪読と発表、②各自の卒業論文、③三田祭でのゼミとしての研究報告、の三つの活動を中心に運営します。まず、文献輪読と発表は、3・4 年次を通じての研究会の活動であり、人口学およびそれに関連したトピックに関する英文文献を読み、その内容を報告し、それについて質疑応答をしていきます。文献は、3 年次の前期には専門的な知識がないことを考慮して、基礎的なものを講師が選定します。基礎的な文献をカバーした後、ゼミ生諸君の興味に応じて、より応用的な文献を選び検討していきます。

次に、卒業論文ですが、課題の選定および執筆は主に 3 年次秋学期と 4 年次に集中して取り組みます。そのための卒論のテーマの選定は 3 年次の夏休み前に行い、これについては、講師が個別指導をします。そして、3 年次秋学期から 4 年次にかけて、各自の卒論の報告を複数回本ゼミ中に行います。

最後に、サブゼミの活動として、ゼミ全体での研究報告を三田祭にて行います。ここでは、ゼミ生全員が相談してテーマを選び、自主的に研究活動を進め、その成果を口頭およびレポートとして発表します。講師はゼミ合宿の場などで適宜相談に応じます。

2. 学生への要望

学問や研究が好きなことが重要であることはもちろんですが、この研究会では計量的な統計的データを扱うため、数学アレルギーがない人、そして統計学の基礎を学んだ人が望ましいです。また、人口学関連の文献（特に最新の文献や研究についての文献）は英語である場合が多いため、英語に対してもアレルギーのない人が良いと思います。

3. 選考について

①募集人数

A 日程、B 日程合わせて 10～15 人程度

②選考内容

英文読解（辞書持ち込み可）、教授面接、学生面接

4. ゼミ員構成

4年生（19 期生）: 14 人（男子: 13 人、女子: 1 人）

3年生（20 期生）: 14 人（男子: 10 人、女子: 6 人）

5. 活動紹介

① ゼミ（〇曜〇限、〇曜〇限）

水曜3限～5限

前期は、人口論に関する4ページ程度の英語論文について2人1組になって順番に発表しながら、人口論の基礎を学びます。後期は、先生の指導を受けながら卒論のテーマを決定し、研究を行っていきます。

② サブゼミ（〇曜〇限、〇曜〇限）

本ゼミ前後

人口論を学ぶ上で必要な知識を講義形式で教授から学びます。毎週ではなく、必要に応じてゼミの前後に行われます。今年度春学期は1回多変量解析についての講義が行われました。

③ パートゼミ

なし

④ インゼミ

なし

⑤課外活動

なし

⑥三田祭

3年生全員で人口論に関するテーマを一つ決め、パワーポイントを用いた論文発表を行います。

⑦夏休み

夏合宿以外のゼミとしての活動は特にありません。

⑧合宿

4月　新歓合宿

新ゼミ生を歓迎するため、1泊2日の合宿を行います。勉強の時間はなく、交友を深める合宿です。

9月　夏合宿

2泊3日で、3年生は卒論の枠組みの構築や三田祭論文の中間発表、4年生は先生から卒論の指導を受けます。

⑨授業

人口論 a/b（月曜 1・2 限　春季集中）

⑩経費

年会費等や合宿費等の記入お願い致します

年会費：2,000 円程度

新歓合宿：10,000 円前後

夏合宿：15,000 円前後

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

なし

7. 先生が担当している講義

人口論、演習、研究会、人口論(修士)・社会・環境論特論(博士)、

人口論演習(修士)・社会・環境論演習(博士)

8. ゼミHP・SNS

HP: https://tsuyaseminar.wordpress.com

Twitter

https://twitter.com/tsuyazemi2018

9. 連絡先

ゼミ代表：菊地雄仁

kiku.viperrko@icloud.com

入ゼミ担当：丸山怜子

reiko4incis@gmail.com

長谷川淳一研究会
―都市政策・都市文化―

1. 研究分野
私は、授業では欧米経済史関係の科目を担当しており、そこでは産業革命以降を中心に話をしているが、自分自身の研究では現代の日本とイギリス、とくにそれぞれの都市政策や都市文化に注目してきた。そもそもは、イギリスの戦災都市（第二次世界大戦中にドイツ軍の空襲で破壊された都市）の再建を研究し、そこから、福祉国家志向のイギリスの戦後再建やイギリスの都市について検討してきた。
また、日本についても戦災復興を皮切りに、1950 年の首都建設法や国土総合開発法の制定を、戦後復興の一環として都市計画・国土計画関連の分野でも新しいシステムが構築されたのか否かという観点から検討してきた。いずれの国においても、ここ 30 年ほどの規制緩和路線以前の時期の土台を築いた時期であり、改革とはいっても、規制緩和路線とは性質的にむしろ正反対といえるものがすすめられようとした時期ではあった。
最近では、まず、高度成長期であった 1960 年代に関心を持っている。イギリスに関しては、ウィルソン政権期の改革志向の強い経済政策や、寛容社会の到来についての検討を進めようとしている。この経済政策とは、軍需産業での先端技術を普通の民間産業に広めることで生産性を向上させようとしたテクノロジー省の試みである。寛容社会とは、モッズやスウィンギング・ロンドンといったことばに象徴されるような、奔放な若者文化のことである。
日本に関しては、佐藤政権期の 1968 年に、高度成長期の都市問題対策として制定された都市計画法について検討している。また、太陽族、六本木族、みゆき族、原宿族、フーテン族等々、高度成長期の若者文化についての共同研究を進めている。
さらに、災害からの復興や、東京オリンピックを含めた近年の都市開発についても検討している。こうした部分はとくに、ゼミ生も例年大いに関心を寄せ、自分たちの研究の対象としてきたトピックである。

2. 学生への要望
ゼミにおいても、日本やイギリスの戦後史やいま現在の都市に関する政策や文化といったトピックは大いに歓迎したい。
三田祭論文では、一昨年は、東京の都市開発と交通、とくに鉄道の発達との関係についての研究を行なった。扱った具体的なトピックは、鉄道国有化までの、日本の鉄道史における黎明期の概観；東京駅開業と丸の内ビジネス街の発展；私鉄の成長；国鉄の分割民営化；山手線の新駅設立と品川再開発であった。
昨年は、4 月に発生した熊本地震の復興のあり方を、2011 年の東日本大震災や 1995 年の阪神・淡路大震災の復興との比較も視野に入れて、考察した。
今年はいまのところ 2 つのグループに分かれ、郊外のニュータウン開発や都市文化についてそれぞれ検討を進めようとしている。
4 年生は例年、各自がトピックを考えて、卒論作成に邁進する。
来年、当ゼミの一員となったあかつきには、まずはこの三田祭論文をはじめ、ゼミにおける共同作業・活動に積極的に取り組んでほしい。そのうえで、自分自身で課題を決めて、自分自身の脚（つまり、実地調査やインタビューをしたり、様々な資料を捜し求めたりすること）と頭の両方を駆使して、卒論に取り組めるようになってほしい。

3. 選考について
①募集人員：若干名～10 名
②選考内容：筆記試験、面接
③選考基準：筆記試験は、都市政策や復興政策に関する内容を中心としたものにする予定である。また、面接では、どういった研究課題をやりたいのかについて、なぜそれをやりたいのか、それをやることの意義は何なのかをしっかりと述べられるかどうかも重視した

い。その際には、どういう先行研究や、具体的な政策や計画、さらには問題点があるのかを、よりくわしく調べ、したがって、より多く語ることのできる者が、より高く評価される。

4. ゼミ員構成

4年生(10 期):4 人(男子 4 人、女子 0 人)
3年生(11 期):6 人(男子 5 人、女子 1 人)

5. 活動紹介

① ゼミ(水曜日 4･5 限)

まず都市計画についての書籍を用意し、メンバー全員で 1 冊を読み切れる様に分担を行い、読み込みます。その後、自分の読んだパートを他のメンバーに共有するためのプレゼン作りを行います。全員のプレゼンにより 1 冊分の情報が共有されると、最後に仕上げとしてメンバーで先生に学んだことを1つのプレゼンにまとめて発表を行います。今年の前期はこのサイクルを 2 周行い、残りの時間で三田論の準備に取り掛かりました。

② サブゼミ

長谷川ゼミではサブゼミを行っていません。自由な時間をお過ごしください。

③ パートゼミ

長谷川ゼミではパートゼミを行っていません。以下同文。

④ インゼミ

頑張って行います

⑤課外活動

義務ではありませんがプレゼン作りに役立てたり、興味を持った分野を自主的に研究するメンバーもいます。また、昨年は三田論を執筆する際に国立国会図書館に足を運んだそうです。

⑥三田祭

三田祭で論文を発表します。そのために授業や夏休みの時間を使って準備を行っています。

⑦夏休み

メンバーで自主的に集まって三田論の準備を進めます。

⑧合宿

長谷川ゼミは伝統的に合宿を行っていません。今年はゼミ合宿がないからゼミ旅行を行おうとしましたが、USJ の格安ツアーが満席で予約ができず、頓挫しました。旅行の予約が得意な人を求めています。

⑨授業

必修授業はありません。

⑩経費

ゼミ旅行がない場合は課外活動で使うカフェ代や交通費しかかかりません。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

試験の問題となる論文を Twitter で配信する予定なのでそれをダウンロードして印刷してください。

7. 先生が担当している講義

欧米経済史 a, b【三田・春・月曜1限/水曜1限】

8. ゼミHP・SNS

Twitter:@keiohasegawa

9. 連絡先

外ゼミ代表:吉本幸紀　b0411.ysmt-kuk@ezweb.ne.jp
内ゼミ代表:長谷川春菜
Haruna.104645@gmail.com
入ゼミ担当:長坂恭太朗
gari.gari.king55@gmail.com

Colin McKenzie's Seminar

—Economics of the Family—

This seminar will be conducted exclusively in English for both Type A/B and PEARL students. Seminar students are strongly encouraged to take advantage of the opportunity that Keio provides for students to study abroad. Email: mckenzie@z8.keio.jp

1. Research Area

Gary Becker was awarded the Nobel Prize in 1992 "for having extended the domain of microeconomic analysis to a wide range of human behavior and interaction, including nonmarket behavior." He is acknowledged as the birth parent of the modern research area commonly known as the "Economics of the Family". The Becker-style approach emphasizes the ability of economics to explain, for example, why people marry, why people divorce, why they have children, and why first born children are advantaged.

This seminar will focus on empirical analyses related to the Economics of the Family using data sets available from Keio University's Panel Data Research Center, for example, the Japan Household Panel Survey (JHPS), the University of Tokyo's Center for Social Research and Data Archives, and other publicly available cross-sectional and panel data sets.

McKenzie's current research area is the Economics of the Family, and focuses on the impact of the gender of children on their mother's labour supply, the impact of birth order and gender on parental allocations of their financial and time resources to their children, and child poverty.

Since there will be students entering this seminar in both April and September, the two year activities in the seminar will be described in terms of the four semesters that students are in the seminar class.

(1) (First Semester) In the first half of this semester, students will read and make presentations on empirical research related to the economics of the family. In the second half, students will divide themselves into groups, decide on a topic for research, and proceed with their research in preparation for a formal presentation early in their second semester).

(2) (Second Semester) In the first half of this semester, students will work on their group research papers for a formal presentation in the middle of the semester. In the second half, students will work on their individual papers which must be submitted before the end of the semester. Students will be expected to make regular reports on their research progress.

(3)(Third and Fourth Semesters) Fourth year students will undertake research related to their graduation papers, and are expected to make regular reports on their research.

2. Expectations

In this seminar, students are expected to undertake empirical research that is strongly based on economic theory. For this purpose, it is important that students have a good understanding of microeconomics and statistics. It is desirable that 3rd year students take econometrics related courses.

3. Important Points

McKenzie emphasizes the following points: (1) the mutual interdependence of microeconomics and econometrics; (2) the ability to make oral presentations using Powerpoint; (3) the ability to argue systematically and logically; (4) the ability to be able to read and produce academic research in English; (5) the ability to write up academic research in an appropriate way in English; (6) the ability to communicate your opinion to others accurately and

concisely in English; (7) the use of the wonderful resources (data banks, search systems, econometric software) available at Keio University; and (8) the Inter-seminar with Tohoku University.

4. Selection Process

The number of 3rd year students to be recruited is 10-12 (including PEARL students). Selections will be conducted in both the first and second rounds. If a sufficient number of students are recruited in the first round, there will be no second round selections. Type A/B students and PEARL students will be selected together. No quotas will be assigned for the number of A/B students and the number of PEARL students.

Students will be evaluated on the basis of their application document which must be written in in English), their academic record at Keio, and interviews conducted in English by McKenzie and his students. The interviews will include questions related to the student's reasons for wanting to enter this seminar, the student's basic understanding of economics, how the student can contribute to the seminar, and the student's expectations for the seminar.

5. Student Composition

4th year: 13 students
3rd year: 13 students

6. Seminar Activities

① Seminar　Wednesday 4th & 5th Period）
In our seminar in 2017, we mainly compared the differences between the European Economy and Japanese Economy through presentations and discussion. All of our lessons are held in English. Students in our seminar have different levels of English ability, but we can all join in the discussion.
② Sub seminar
We do not have a sub seminar.
③ Part Seminar
We do not have a part seminar.
④ Inzemi
We are planning to open two inzemi this year with another seminar class from Keio and a seminar class from Touhoku University.
⑤ Other Activities
None.
⑥ Mita Festival
We are planning to present 3 papers at the Mita Festival (Mitasai).
⑦ Summer Holidays
We do not have any events during summer vacation.
⑧ Study Camp
We are not planning to hold a study camp this year.
⑨ Related Courses
There are no required classes for this seminar.
⑩ Costs
2000 yen

7. Pointers on the Seminar Selection Procedure

We are not planning to hold a Zemi entrance exam. We are planning to hold two interviews, one by us the students, and the other by Colin. We are looking at whether or you are really interested in the Economics of the Family

8. Courses Taught by Colin McKenzie

Introductory Econometrics (Hiyoshi, PEARL, Autumn, Tuesday 4th period)

9. Seminar's HP/SNS

Twitter @KEIO_Mckenzie

10. Contact Details

Seminar Representative: Gen Kuwamura
Mail Address: genkuwamura@keio.jp
Person Responsible for Activities related to Recruiting New Seminar Members: Takehiro Okuda
Mail Address: takehirokuda@keio.jp

募集再開ゼミ

ミクロ経済学・ゲーム理論

藤原グレーヴァ香子研究会

応用ミクロ計量経済学

中嶋亮研究会

藤原グレーヴァ香子研究会

―ミクロ経済学・ゲーム理論―

1.　研究分野

担当者の専門分野はミクロ経済学および非協力ゲーム理論です。研究会においては、これらの理論を勉強するとともに、必要に応じて数学もサブゼミなどで勉強します。日吉で入門レベルのミクロ経済学には触れたと思いますが、研究会では中級レベルの文献を輪読することで、入門レベルでは扱えなかった問題も扱えるようにします。例えば、長期のモデルや情報を明示的に扱ったモデルなどです。この研究会では、単位を取るための「学習」ではなく、ミクロ経済学、ゲーム理論の「研究」のための基礎を養います。それは、人から聞いて理解するのではなく、自分でテキストを読みこなし、行間の計算をし、必要に応じて他の文献を調べて一歩一歩理解していくというプロセスです。この作業を担当者の指導の下、仲間とともに進めていくということになります。

研究会ではこのように理論を学びますが、卒業論文は理論の簡単な応用でもいいです。自分の興味のある経済問題を 4 年時の 1 年間をかけて、分析していくことになります。3 年前期は、文献の読み方、プレゼンテーションの技術も学びます。プレゼンテーションの技術は特に将来も役立つものですので、力を入れて指導しています。3 年当初は全体の英語力をみて日本語の文献を読むこともありますが、慣れてきたら英語の文献のみとなります。

2.　学生への要望

理論の研究会ですので、日吉時代にしっかりミクロ、マクロの入門科目と数学の基礎を固めてくるといいです。拘束時間は多くないですが、研究会にはかならず予習をしてくる必要があります。

また、当研究会の特色として、絶対に「わかりません」と言ってはいけない、というルールがあります。文献を読んできて、教室で議論する、という活動ですから、「わかりません」などということは、「予習をしてこなかった上に、その場で一生懸命考えることすらしていない」ということになりますので、これは許されません。はじめのうちは間違ってもいいですから、自分の意見が言えるようにしていきましょう。ゲーム理論については、担当者の著書『非協力ゲーム理論』（知泉書館）などを事前に読んでみると、どのようなものかがわかるでしょう。

せっかく一流の大学に入ったのですから、本当の学問の一端に触れて卒業していって下さい。それは簡単ではありませんが、「わかった」ときの喜びは格別です。

3.　選考について

① 募集人員：A,B 両日合わせて約 10 名(A 日程でこのくらいの人数になった場合 B 日程は行いません。)

② 選考内容：英語で書かれたミクロ経済学初級レベルの文章を読み、要訳または全訳、およびミクロ経済学初級レベルの計算問題。成績表のコピー提出。PEARL 生以外は面接はありません。（英和辞典のみ持ち込み可。電子辞書可。経済学用語辞典は使用不可。）

③ 選考基準：研究会について来られるレベルかを答案で判断します。英語の試験はゼミの予習と同じ作業となっています。時間内に<u>なるべく多く</u>、経済学的に<u>正確に</u>理解したかを見ます。また、理論の基礎も大切ですので<u>計算問題が出来ない場合、自動的に不合格となります。</u>

追記：再開ゼミのため、オープンゼミはありません。

4. ゼミ員構成

再開ゼミのためゼミ生はいません。

5. 活動紹介

① ゼミ（水曜4、5限）

ミクロ経済学またはゲーム理論の教科書（英語文献が多い）の輪読。予習をしていって、事前に決められた順に報告したり、その場でくじを引いて報告したりします。

② サブゼミ（未定、例年は木曜か金曜）

経済数学やゼミの補習的な勉強をします。

③ パートゼミ

少人数なのでありません。

④ インゼミ

例年、10-11月ごろに一橋、名古屋、神戸大学の4大学で合同討論会を行っていました。

⑤課外活動

特にありません。

⑥三田祭

3年生が参加するかを決めます。参加する場合はインゼミで勉強したことを報告することが多いです。

⑦夏休み

合宿とインゼミの準備にたまに集まります。

⑧合宿

夏合宿（2泊3日）を毎年行います。3年生は2チームに別れてディベート、4年生は卒論の中間報告を行います。

⑨授業

ゲームの理論 a, b、ミクロ経済学中級 I a, Ib, IIa, IIb（先生は誰でもよい）が必修です。

⑩経費

テキストコピー代、夏合宿費、インゼミが神戸や名古屋開催の場合、交通費と宿泊費。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

特にありません。

7. 先生が担当している講義

日吉：ミクロ経済学初級

三田：ゲームの理論 a、ミクロ経済学中級 Ib

8. ゼミHP・SNS

2017年度はゼミ生がいないため、ゼミ生によるウェブサイトはありません。先生のオフィシャルサイトにある「研究会のページ」は http://web.econ.keio.ac.jp/staff/takakofg/seminar.html

9. 連絡先

柿原佑紀（かきはら　ゆうき）ゼミ OB の大学院生（修士2年）argentina.kyg@gmail.com

中嶋亮研究会

―応用ミクロ計量経済学―

1. 研究分野

①教員の研究分野

私の研究テーマは社会的相互作用の実証分析で、人々が市場を超えたチャンネルで互いに影響しあうメカニズムと，その相互作用から発生する外部経済性をデータで検証することを行っています。詳しい研究内容については経済学部 web サイトの教員紹介ページとリンクされた私のホームページをご覧ください。

②ゼミでは何を行うか？

経済実証分析の基礎的な手法を身につけることで、データの背後にある経済原理を論理的に理解する能力を身につけることを目的とします。

まず、計量経済学の教科書や経済学に関連した一般書の輪読を行い、経済実証分析の基礎的な手法を学習します。[1]

次に、3年生では、少人数（例年四人程度）のグループ研究を通じて、現実の経済・社会問題に計量経済学の分析ツールを適用し、世にあふれるさまざまな仮説を検証する方法について実践的に学習します。三田祭論文(三田論)コンクールでその成果を発表することが求められます。4年生では、自らが行った経済実証分析で明らかになった発見をもとに論文の主張を説得的かつ論理的に論述することを学びます。その成果を卒業論文として提出することがゼミ単位取得の必須要件です。三田論と卒論で実施する経済実証分析の内容は指導教員である私の研究テーマと一致する必要はありません。私がゼミ生に分析対象を指定することはありません。学生は自ら設定した問題に自分なりの解答を見いだすために、データを集め、適切なツールをつかって分析することが求められます。

2. 学生への要望

このゼミでは「わかっていること」(知識)より「わかろうとすること」(意欲)を大切にします。よって「わかろうとする」努力を惜しまない学生を歓迎します。具体的に以下のような学生を希望します。

a)常識を疑い、それを自ら検証することを厭わない学生 ---「世間では XX っていわれているけど、それホント？一丁調べてみるか。よくわからないけど、とりあえずここから調べよう。」という健全な懐疑と迅速な行動力を持つ学生を優遇します。

b)自ら調べて学ぶことができる学生--- 私は研究者でありますが、良い教育者ではないようです(教員免許もありません)。ゼミでは実証分析の手法と経済学的な考え方を伝授しますが、三田論・卒論を執筆するためにはそれだけでは不十分です。不足部分は自ら学習する必要があります。私は求められれば手助けしますが、こちらから手取足取り指導することはありません。

c)無駄を楽しめる学生 --- 殆どの学生にとって実証経済分析の手法は将来のキャリアには訳に立たないでしょう。ゼミでの学習が就職活動に有利に働くこともなさそうです。よって、ゼミ活動は「無駄」のように思えるかもしれません。[2]しかし、長い人生「無駄」もたまには必要です。無駄な努力も、それはそれでオモロイと思うことができる人材を求めます。

d) 今年から大学院志望の学生も若干名募集してみたくなりました。皆が研究志向である必要はありません。これまでのゼミ生も殆どが就職希望でした（おそらく来年度もそうでしょう）。ただゼミには多様性があったほうがよいように思っております。

---

[1]具体的には計量経済学の教科書として Stock and Watson ”Introduction to Econometrics”、Angrist and Pischke, “Mastering’ Metrics”、森田果『実証分析入門』を読みました。経済学一般書としてリチャード セイラー『行動経済額の逆襲』やポール・オイヤー『オンラインデートで学ぶ経済学』を読みました。もちろんこれらすべてを1年で読むわけではありません。輪読する本は毎年変わります。

[2] とはいえ本当に「無駄」かといと、そうでもないと思います。それに関する私の考えについては数年前の経ゼミ企画「教授インタビュー」で述べました。興味のあるかたは参照してください。

3. 選考について
①募集人員：
A・B 日程で 10～15 名
②選考内容：
研究計画書の提出とレポート課題。志願者は、自分がゼミで実施してみたい実証分析内容を記した簡単な研究計画書を提出する必要があります(フォーマットはこちらで用意します)。また、これ以外にレポート課題の提出もあります。本年度は教員が海外留学中のため A・B 日程での筆記試験と面接はありませんが、提出した研究計画と課題内容についてメールで問い合わせをすることがあります。成績表の提出は不要です。
③選考基準：
入ゼミ希望者の関心、意欲、知性などを総合的に判断し、主観的に選考を行います。

4. ゼミ員構成
3年生11名（男10名　女1名）
4年生13名（男7名　女6名）
（今年は先生が留学で不在のため、昨年のデータ）

5. 活動紹介
① ゼミ（水曜4限、水曜5限）
3年生は主に計量経済学の参考書の輪読、及びプレゼンを行います。また、グループごとに三田祭論文（以下三田論）の途中経過報告も並行して行われます。4年生は輪読に加え、卒論の作成をメインに進めます。
② サブゼミ
なし
③ パートゼミ
三田論のグループで各自準備を進めます
④ インゼミ
昨年は 12 月に東北大学にて、日大の権ゼミ、早稲田の小倉ゼミ、東北大の中島ゼミと行いました。
⑤課外活動
なし
⑥三田祭
三田論は3年生全員で行います。各グループ4人に分かれて各々扱いたいテーマを決め、論文を作成します。
昨年の研究テーマ
- 「社会的圧力が与える意思決定への影響～ホーム・アウェイ試合における審判の公平性」
- 「プロスペクト理論の実証分析～ダイレクトメールにおける人間のリスク態度の効果測定～」
- 「第 98 回全国高等学校野球選手権大会の応援歌の BPM が選手の打撃結果に与える影響について」

⑦夏休み
合宿の中間発表に向けて、三田論の各グループで準備を進めます。
⑧合宿
昨年は 9 月に2泊3日で白馬に行ってきました。3、4年生共に論文の中間発表を行い、その他にも BBQ や温泉、スポーツレクを楽しみました。
⑨授業
産業組織論（春学期）
⑩経費
合宿費
テキスト代

6. ゼミ試験対策で使用した参考書
特になし

7. 先生が担当している講義
産業組織論（春学期）
計量経済学概論（秋学期）

8. ゼミHP・SNS
ゼミ HP
https://nakajima-econ.jimdo.com
教員インタビュー(No. 19)
http://keizemi-keio.info/wp/interview/

9. 連絡先
ゼミ代表　松井健
ken.m0621@gmail.com

PCP (Professional Career Programme)

研究プロジェクト

Professional Career Programme(PCP)

・PCP とは？

Professional Career Programme（PCP）は、慶應義塾大学経済学部が、カリキュラム改革の一環として、2005 年度に学部内に設置したプログラムです。新カリキュラムは、卒業後のキャリア・パスを明確に意識させることによって学生の学習意欲を喚起し、同時に教育サービスを向上させるために導入されました。
原則として経済学部の 3・4 年生を対象に、将来のキャリア形成に役立つ実践的な経済学教育を、少人数クラスでかつ英語で提供します。講義・授業中の質疑応答・試験のほか、コーディネーターとの会話・連絡は、すべて英語で行われます。

・PCP の目的

PCP は、職業人として世界的に活躍するキャリアを築くことを目指す学生および、国内外の大学院・専門職大学院（法科大学院、行政大学院、ビジネススクール、開発関連大学院などのプロフェッショナル・スクール）に進学することを視野に入れている学生のために開設されました。以下の２つの側面において学生の指導を行うことにより、国際的な視野に立つ人材・未来への先導を行う真のリーダーを育成します。
経済学専門科目の学習・リサーチ・スキルの習得：このプログラムに参加する学生は、まず基礎となる経済学的な考え方および数量的分析手法を習得します。その後、各自の興味に従って複数の専攻コースの中から一つを選択し、より専門的な領域の基礎知識を学びます。各設置科目の中では政策論が積極的に取り入れられているため、学生は政策分析の枠組についての理解を深めることができます。そして共同研究と個別研究を通じて、リサーチ・スキルを高めます。
語学スキルの向上：授業や試験は勿論、コーディネーターとの会話や連絡が全て英語で行われます。さらに、英語以外の外国語を学習することも奨励されています。将来のキャリア計画を見据えたうえで語学能力を向上させることができます。

履修許可は選抜された学部3・4年生のみに与えます（選抜は2年次の終わりに行います）。
PCP の履修科目は全て卒業単位として計算され、プログラム内の科目全てに合格した学生には、塾長と学部長連名の修了証が発行されます。
研究会・研究プロジェクトとの並行履修も、制度上は可能です。なお、研究プロジェクトとの同時履修をする場合は、それぞれのプログラムコーディネーターに申し出て、研究テーマの内容などについて事前に相談してください（単位履修その他の評価に影響する場合があります）。

・教育目標

PCP では、次のような教育目標の達成を目指しています。

- 基礎となる経済学的な考え方の習得。
- 数量的分析手法の習得。
- 関連する経済学領域の基礎の習得、政策論の分析枠組みの理解。
- 共同研究・個別研究を通じての、論文作成・プレゼンテーションを含むリサーチ・スキルの学習。
- プロフェッショナル・キャリアを見据えた語学スキル（英語・第二外国語）の習得。

ゼミを基軸にした大学教育との違い

従来、慶應義塾大学経済学部の教育サービスは、「講義科目」のほか、少人数教育としては「研究志向の強いゼミ」のみがありました。これに対し PCP を加えた新しい教育サービスでは、少人数教育の選択肢として、ゼミのほかに「研究プロジェクト」と「PCP」があります。PCP では、英語による実践的な経済学教育を少人数で行うことによって、国際社会で活躍する人材・研究能力の高い人材を育成します。

ゼミ員構成
3 年生 19 名(男 9 名、女 10 名)
(うち他学部 1 人、兼ゼミ 15 人、留学中または留学予定者 4 名)
4 年生 33 名(男 25 名、女 8 名)
(うち他学部 3 人、兼ゼミ 27 人、留学中または留学予定者 14 名)

活動内容

⑤課外活動
毎年、韓国の延世大学、中国の精華大学と合同で、ABF というプログラムを開いており、参加しています。今年は韓国が舞台でした。
⑥三田祭
PCP として三田祭で活動することはありません。
⑦夏休み
PCP で強制的に集まるイベントはありませんが、ABF に参加する生徒や、インターン、別のサマースクールに参加する生徒等、様々です。
⑧合宿
四年生主催で年に一度行います。
⑨授業
Academic Writing, FPGE, Independent Study の必修科目に加え PCP 設置の Major Classes の中から最低 8 科目選択してもらいます。
⑩経費
教科書代、合宿費等で 3 万円ほど

ゼミ試験対策で使用した参考書
2017 年度からゼミ試験はなくなりました。PCP 申込書を記入の上、TOEFL または IELTS と学業成績表と共に学生部に提出してください。

先生が担当している講義
PCP 設置科目をご覧下さい。
http://www.econ.keio.ac.jp/en/undergraduate/pcp/curriculum

ゼミ HP
http://www.econ.keio.ac.jp/en/undergraduate/pcp

連絡先
外ゼミ代表　中村友香
連絡先　tomokanakamura@keio.jp
入ゼミ担当　佐藤涼香
連絡先　suzuka512sato@gmail.com

研究プロジェクト

・研究プロジェクトとは？

経済学部で2005年度に始まった研究プロジェクトは、学生が自らのテーマを選び、学部選任教員の指導のもと、1年間で論文や作品を完成させるコースです。テーマは経済学に限りません。社会科学、自然科学、人文科学、どの学術分野を選んでも構いませんし、芸術作品などの創作を行うこともできます。今までに100人以上の学生が履修し、街づくりや現代医療、さらには音楽、映画、建築など幅広いテーマで研究成果を発表してきました。過去の研究成果に関しては、経済学部 HP の研究プロジェクトのサイトをご覧ください。

研究プロジェクトは研究プロジェクト ab 研究プロジェクト C の2つの科目から成り立っています。研究プロジェクト ab では、指導教員に論文や作品を完成するまで指導してもらいます。ここの大きな特徴は、徹底した少人数制です。1人の教員がこのプロジェクトで指導できる学生は5人までとなっています。そのため、学術的な問いの立て方から文献の調べ方、論文を書く際の作法まできめ細やかな個別指導を受けることができます。

一方、研究プロジェクト C は、研究プロジェクトを履修した学生全員を対象に、論文の書き方講習会や、各自の研究の報告会など2～3か月ごとに開催します。これらは、プロジェクト履修生間の交流の場になると同時に、自分の研究の進捗状況がどのあたりなのかを客観的に把握してもらう機会となります。特に、中間報告会と最終報告会は一般公開となりますので、門外漢にも自分の研究内容を正確に伝えることが要求されます。例年、これらの報告会では、履修生やその他の聴衆から活発な意見交換が行われ、知的刺激に満ちた場となっています。

また、最終成果の要旨は全員インターネット上で公開することが義務付けられています。履修生の研究成果を広く知ってもらうことが主な目的ですが、それと同時に、履修生には研究内容に対する責任を意識してもらうことが求められます。

・履修までの手順

（1）指導教員を探す

研究プロジェクトを履修するためにはまず指導してくれる教員を探さなくてはなりません。経済学部船員教員の中から自分のテーマに近い研究を探し、指導を依頼してください。指導教員がうまく見つからない、依頼したい教員への連絡の取り方が分からないといった場合は、研究プロジェクトのサイトから「問い合わせ用紙」をダウンロードし、必要事項を記入した後、後述のコーディネーター問い合わせ先までご相談ください。

（2）履修申し込み

指導教員が決まったら、今度は「申込用紙」をダウンロードし、記入したうえで学生部に提出してください。

履修申込受付期間は以下の日程となります。

本募集　　1 月 30 日（に月）～2 月 6 日（月）　三田学生部・日吉学生部にて受付

追加募集　　3 月 15 日（水）、16 日（木）三田学生部のみで受付

申し込み手続きの詳細については、研究プロジェクトのサイトの「履修申し込みについて」に書かれていますのでご覧ください

（3）履修登録

履修許可を得て、4月に履修登録を済ませれば履修のための手続きは全て完了です。

履修についてのよくある質問は、経済学部 HP にある、研究プロジェクトの頁の Q&A にもまとめてあります。こちらも参考にしてください。

1. ゼミ員構成

20人

2. 活動紹介

① 研究プロジェクト a.b

担当教授の少人数授業。

曜日や時間帯は教授との相談の上で決めることが出来る。授業としては自分の研究成果を報告し、教授から助言をもらう。

あくまで研究は学生主導で行われるため、自己管理能力と自発性が求められる。
教授との議論が白熱し、数時間がすでに経っていたということも少なくない。

② 研究プロジェクト c （土曜日 3,4 限）

受講生全体が集まって行う授業。
基本的に年に 6 回程度、土曜に行われる。
基本的に研究プロジェクトは一人で研究を行うものであるが、ここでは研究の進捗状況や情報を共有することが求められている。
論文の書き方講習やプレゼンの仕方などの学術的成果発表の様式を学ぶ事が目的となっている。なお、③以降は研究プロジェクト C の具体的な講座について記述する。

③ 論文の書き方講習

論文を執筆するにあたって求められるルールや方法を学ぶ講座である。言葉づかいから章立てに渡るまで丁寧に説明してくれる。今年度は立教大学の河野哲也先生に講演をしていただいた。

④ 論文テンプレート講習会

これは論文を書くにあたって使われる Microsoft Word について学ぶ講座である。
論文テンプレート講習会とあるが、実際にはそれに留まらず、論文執筆の際に役立つ機能全般について学べる。
本年度は千田大介先生に講演をしていただいた。

⑤課外活動

なし

⑥三田祭

なし

⑦夏休み

各教授の指導方針による。夏休み明けに控えた中間報告会に向けて、各自が準備を進める。

⑧合宿

各教授により、合宿の有無が異なる。

⑨授業

研究プロジェクト c への参加は必須。
また、研究プロジェクト a.b は各期 14 コマ分を満たす事が必要。

⑩経費

特になし。

3. ゼミ試験対策で使用した参考書

各自の研究内容による。

4. 先生が担当している講義

指導を依頼する教授による。

5. ゼミHP・SNS

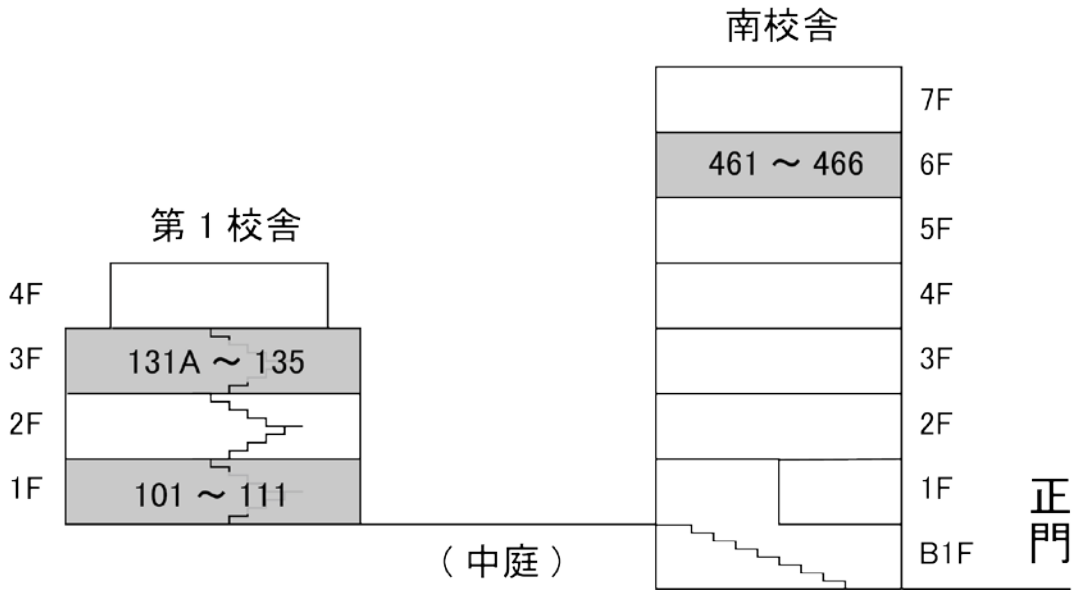
http://www.econ.keio.ac.jp/undergraduate/research-project

6. 連絡先

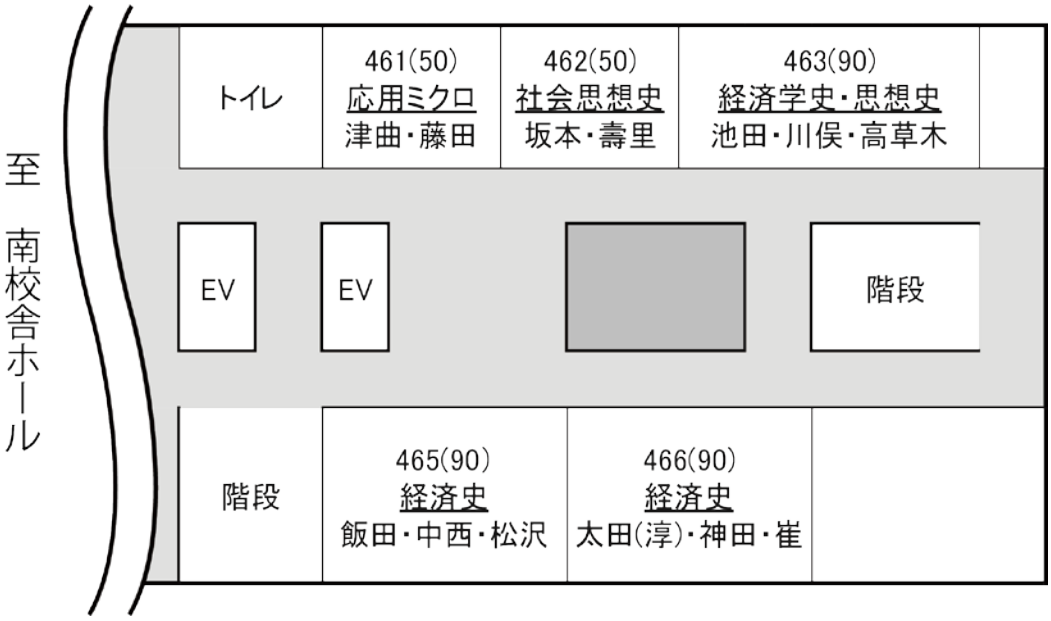
コーディネーター問い合わせ先
kpro-group@keio.jp
TA 問い合わせ先
kpro_ta-group@keio.jp

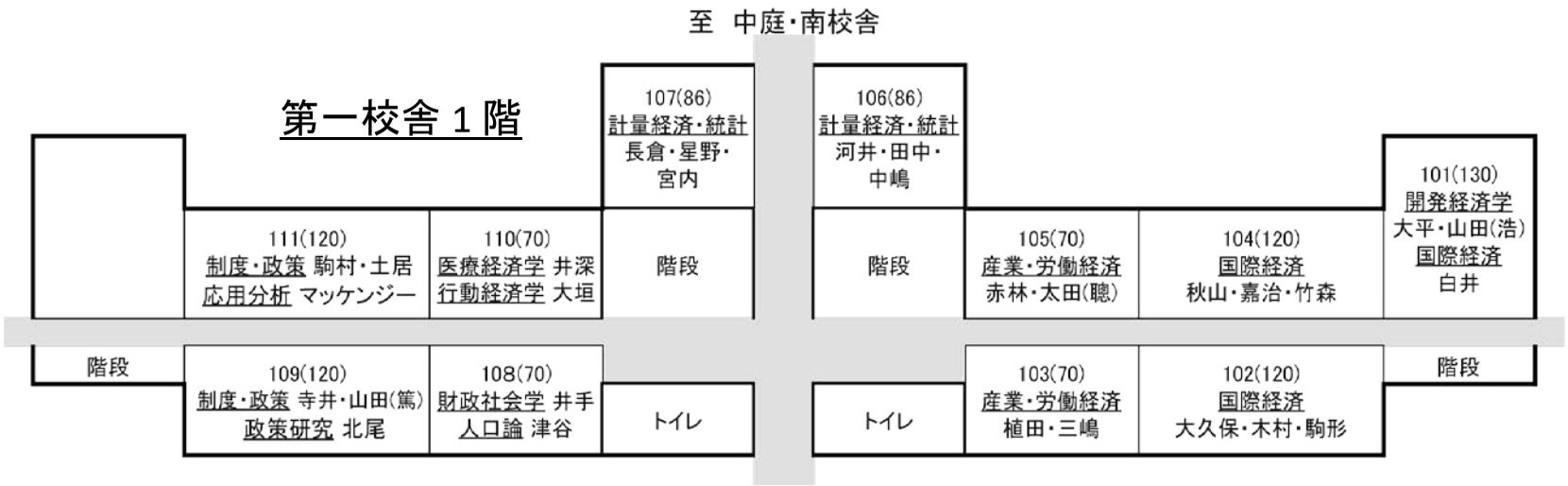
ゼミ説明会　会場全体図

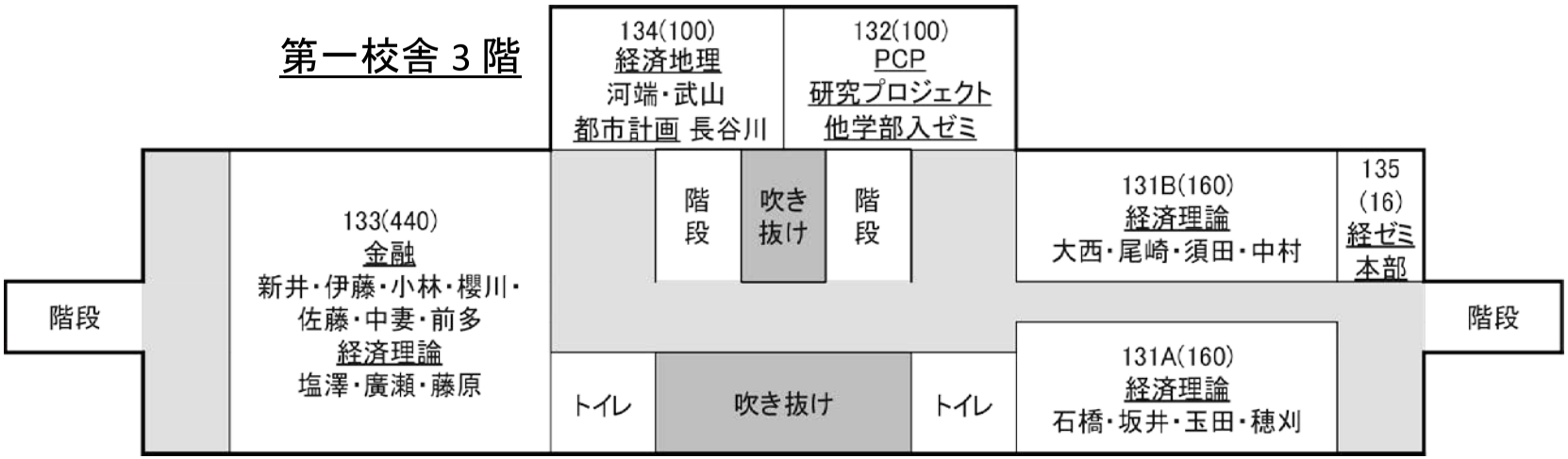
※教室番号（定員）　分野　ゼミ名　の順で記載しています。
※右ページは横にしてご覧ください。



南校舎６階




至 中庭・南校舎
第一校舎 1 階
107(86)
計量経済・統計
長倉・星野・
宮内
106(86)
計量経済・統計
河井・田中・
中嶋
101(130)
開発経済学
大平・山田(浩)
国際経済
白井
111(120)
制度・政策 駒村・土居
応用分析 マッケンジー
110(70)
医療経済学 井深
行動経済学 大垣
階段
階段
105(70)
産業・労働経済
赤林・太田(聰)
104(120)
国際経済
秋山・嘉治・竹森
階段
109(120)
制度・政策 寺井・山田(篤)
政策研究 北尾
108(70)
財政社会学 井手
人口論 津谷
トイレ
トイレ
103(70)
産業・労働経済
植田・三嶋
102(120)
国際経済
大久保・木村・駒形
階段


第一校舎 3 階
134(100)
経済地理
河端・武山
都市計画 長谷川
132(100)
PCP
研究プロジェクト
他学部入ゼミ
階段
133(440)
金融
新井・伊藤・小林・櫻川・
佐藤・中妻・前多
経済理論
塩澤・廣瀬・藤原
階段
吹き
抜け
階段
131B(160)
経済理論
大西・尾崎・須田・中村
135
(16)
経ゼミ
本部
階段
トイレ
吹き抜け
トイレ
131A(160)
経済理論
石橋・坂井・玉田・穂刈

経済学部第 2 回入ゼミ説明会冊子

発行年月日: 2017 年 10 月 7 日
発行責任者: 貴家裕樹
編集責任者: 岡田尚弥
齋藤達哉
貴家裕樹
高見朗
印刷: 梅沢印刷所

企画・発行: 慶應義塾大学 経済学部ゼミナール委員会

Keio University Faculty of Economics